2026 年 11 月 2 日

2026 年度前期・学生による授業認識アンケート調査結果と分析

全学 FD 委員会

はじめに

本書は、2026年度年度前期に行われた学生による授業認識アンケートの調査結果と分析をまとめたものです。

本調査と分析は、大東文化大学FD委員会規程の第一条に基づき、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として行われました。

本学における教育の内容及び技法の改善は、長年、教員個人の創意工夫を前提としてきました。授業に対する学生の認識に対し、教員個人のコメント入力を必須としているのはそのためでもあります。

そうした作業の中で、学生の厳しい評価を読み、動揺することもあろうかと思います。しかし、授業認識アンケートから読みとれる本学の大きな特徴は、教員の熱意の高さを学生が一貫して評価していることであり、年々授業内容の難易度が高いと感じる学生が増加傾向にあるにも関わらず、先生方の授業への高い満足度が示されている点にあります。本報告書が、少数の厳しい声に負けず、日々学生と向き合い、建学の精神にのっとり、社会に有為な人材たるべき青年たちの資質向上のために努力されている教員および職員の皆様にとってのヒントとなれば幸いです。

なお、条件分岐（Q□ならばQ△へ）の欠損値については、補正を行わず、その点に関しては必ずしも正確な分析ではないことを申し添えます。

全学FD委員会

目次

1 目的と方法.....2
2 実施の対象.....2
3 アンケート項目.....2
4 全科目を対象とした教員所属別調査結果と分析・まとめ.....5
5 全学共通科目の調査結果と分析.....37
6 全学共通科目（人文系・学生所属別）の調査結果と分析.....57
7 全学共通科目（社会系・学生所属別）の調査結果と分析.....81
8 全学共通科目（自然系・学生所属別）の調査結果と分析.....105
9 全学共通科目（保健体育系・学生所属別）の調査結果と分析.....130
10 まとめと結論【全学共通科目・4 系分類（学生所属別）】.....151

11 全学共通科目（オンデマンド授業・学生所属別）の調査結果と分析.....153
12 まとめと結論（オンデマンド授業と対面授業の比較）.....173

1 目的と方法

①2026 年度前期授業認識アンケートは、履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

②2026 年度前期の分析も 2025 年度と同様に、平均値と割合、また、平均値とその標準偏差を用いて算出した「変動係数(変異係数、あるいは変化係数ともいう)」に基づいて、アンケートの各項目における学科別の特徴及び格差について検証を行っている。

※変動係数は複数の変数間の相対的な格差を示す指標として用いられる。本アンケートでは複数の学科間の相対的な格差を表す。ちなみに、その値が高い程、相対的なバラツキ（学科内での格差）が大きいことを示す。なお、変動係数の数値は 100 分率で表している。表の数値は小数点以下 3 桁までを記載し、本文中では下 2 桁（下 3 桁は四捨五入）で示している。

③前回の回答結果との比較も必要に応じて行った。後期○○と表記している場合は、2025 年度後期を示す。

④全科目を対象とした調査の分析は、2024 年度迄さかのぼった分析を心掛けた。なお、2023 年度から全科目を対象とした分析以外に、全学共通科目のみを対象とした学生所属別の分析を開始しているが、今年度も継続した。また、2025 年度から開始した人文系･社会系･自然系･保健体育系に四系統の検証も継続した。

⑤2026 年度から、新しく、オンデマンド授業の調査と対面授業との分析を開始した。

2 実施の対象

①シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が 5 名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。

②対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。

③実施対象科目を全学 FD 委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

3 アンケート項目

2026年度前期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。

2）はい（おおよそ）知っています →Q1b に

1）いいえ（あまりよく）知りません →Q1b はとばして Q2 に

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われましたか。

5）強くそう思う　4）どちらかと言えばそう思う　3）どちらとも言えない

2）どちらかと言えばそう思わない　1）まったくそう思わない

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切でしたか。

5）とても難しかった　4）やや難しかった　3）適切だった

2）やや易しかった　1）とても易しかった

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

2）はい、あります　→Q4 に

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当でしたか。

5）強くそう思う　4）どちらかと言えばそう思う　3）どちらとも言えない

2）どちらかと言えばそう思わない　1）まったくそう思わない

【学生の意欲】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組みましたか。

5）強くそう思う　4）どちらかと言えばそう思う　3）どちらとも言えない

2）どちらかと言えばそう思わない　1）まったくそう思わない

【教員の意欲】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

5）強くそう思う　4）どちらかと言えばそう思う　3）どちらとも言えない

2）どちらかと言えばそう思わない　1）まったくそう思わない

【成長感覚】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

5）強くそう思う　　4）どちらかと言えばそう思う　　3）どちらとも言えない

2）どちらかと言えばそう思わない　　1）まったくそう思わない

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を 10、「まったく満足できなかった」を 1 として、10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

10）10　　9）9　　8）8　　・・・　　3）3　　2）2　　1）1

【自由記述】

Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。（授業担当教員が直接読みます）

Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。（授業担当教員が直接読みます）。

4 全科目を対象とした教員所属別調査結果と分析・まとめ

4.1 対象科目数・対象人数・回答率

対象科目数は 843 科目、対象延べ学生数（各対象科目内の履修者数の合計）は 23,785 人、実際に回答した延べ学生数は 11,271 人であった。2023 年度に重回帰分析からクロス集計へと分析方法を変更しており、今年度は前年度と結果を比較し傾向や改善点を確認することができた。2023 年度以降、各設問の相関関係を示し、全学的な結果について分析を行っているので本年度も踏襲した。

ただし、全学共通科目（88 科目）を教員所属別に集計すると、学科によっては該当する教員が 1 人となり個人が特定されることから、2024 年度後期以降（全学共通科目を含む）全科目を教員所属別に集計しているので、本年度も踏襲した。

各質問項目の回答分布(学科／部局別)にある回答者数は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、23,785 人、41.45%（昨年度後期 35.50%）であった。

学生たちの回答科目数の多さから生じる負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として、2026 年度前期も担当科目のなかから最も履修者数の多い 1 科目を対象としてアンケートを実施した。1 科目であっても、確実にアンケートを実施し、学生の回答から教員自身が授業方法について見直し、課題を認識し、改善に向けて取り組んでいくことが重要だと考えたからである。

2026 年度前期の回答率（41.45%）は 2025 年度前期の 41.66%と比較してほぼ横ばい、2025 年度後期の 35.50%と比較して 5.95 ポイント増加した。一般的なアンケート回答率からすれば平均以上の結果であるが、今後もアンケート期間中に回答を促すようお願いしたい。

学科部局別の回答率とその増減は以下の表の通りである。各学科部局における回答率の増減（＝2026 年度前期－2025 年度後期)の場合、看護学科(-1.31 ポイント)と現代経済学科(-3.29 ポイント)以外は、前年に引き続き、増加傾向にある。看護学科（58.84%）は 2025 年度後期（60.15%）から 1.31 ポイント減少したものの、全学で 3 番目に高い水準を維持している。なお、全学で最も高い回答率を示したのは健康科学科（61.80%）であった。

学科別の回答率と増減

	2025後期	2026前期	増減(%)
国際交流センター	43.65%	60.78%	17.13%
中国文学科	37.49%	53.46%	15.97%
経営学科	22.72%	34.45%	11.72%
国際関係学科	37.86%	47.89%	10.03%
スポーツ科学科	31.75%	40.82%	9.07%
英語学科	37.25%	45.99%	8.74%
英米文学科	41.60%	49.75%	8.16%
教職課程センター	41.19%	49.28%	8.09%
書道学科	49.32%	56.08%	6.76%
国際文化学科	43.87%	50.60%	6.73%
健康科学科	55.23%	61.80%	6.58%
教育学科	29.79%	35.96%	6.17%
社会経済学科	25.37%	31.01%	5.65%
中国語学科	44.32%	48.87%	4.56%
法律学科	30.60%	34.38%	3.78%
歴史文化学科	33.51%	37.26%	3.75%
日本文学科	42.61%	45.82%	3.21%
日本語学科	37.33%	40.53%	3.21%
政治学科	35.88%	37.82%	1.94%
社会学科	49.16%	50.92%	1.76%
看護学科	60.15%	58.84%	-1.31%
現代経済学科	24.85%	21.56%	-3.29%

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	1,249	1,477	2,726	45.818%
中国文学科	719	626	1,345	53.457%
英米文学科	1,014	1,024	2,038	49.755%
教育学科	1,460	2,600	4,060	35.961%
書道学科	507	397	904	56.084%
歴史文化学科	753	1,268	2,021	37.259%
社会経済学科	1,324	2,945	4,269	31.014%
現代経済学科	590	2,147	2,737	21.556%
中国語学科	629	658	1,287	48.873%
英語学科	2,153	2,528	4,681	45.994%
日本語学科	379	556	935	40.535%
法律学科	1,690	3,226	4,916	34.378%
政治学科	1,310	2,154	3,464	37.818%
国際関係学科	1,079	1,174	2,253	47.892%
国際文化学科	839	819	1,658	50.603%
経営学科	2,024	3,852	5,876	34.445%
スポーツ科学科	1,712	2,482	4,194	40.820%
健康科学科	1,110	686	1,796	61.804%
看護学科	599	419	1,018	58.841%
社会学科	1,872	1,804	3,676	50.925%
教職課程センター	680	700	1,380	49.275%
国際交流センター	93	60	153	60.784%
全 学	23,785	33,602	57,387	41.447%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	10,272	6,790	17,062	60.204%
2	8,041	11,465	19,506	41.223%
3	4,238	10,052	14,290	29.657%
4	1,194	5,253	6,447	18.520%

また、教員側のコメント入力状況も僅かに上昇が見られた。しかし、良い数値とは言えない。専任と非常勤を合わせた回答率は 45.4%、専任のみ 57.6%、非常勤のみ 38.3%であった。

また、学科間の入力率の差は 2025 年度に引き続き大きい。書道学科は今回専任の入力率 100%と大幅な改善がみられたが、逆に後期よりも記入率が大幅にダウンした学科もある。昨年度見られた、非常勤よりも専任のコメント入力率が低い学部がゼロとなったことは特筆すべきであるが（なお、学科別でいえば 4 学科において非常勤のコメント入力率の方が高いままである）、教員の熱意の低さが、学生のアンケートへの回答意欲を低下させないよう、非常勤を含めた教員のコメント入力率を上げることは依然課題である。

コメント入力状況

学部名	学科名	入力率 専任、非常勤	入力率 専任のみ	入力率 非常勤のみ
文学部	日本文学科	59.2%	30.8%	69.4%
	中国文学科	71.4%	66.7%	75.0%
	英米文学科	27.4%	54.5%	21.6%
	教育学科	36.2%	24.0%	45.5%
	書道学科	50.0%	100.0%	14.3%
	歴史文化学科	46.9%	66.7%	39.1%
文学部集計		44.3%	49.4%	42.0%
経済学部	社会経済学科	56.0%	68.8%	33.3%
	現代経済学科	54.5%	64.3%	37.5%
経済学部集計		55.3%	66.7%	35.3%
外国語学部	中国語学科	51.1%	76.9%	41.2%
	英語学科	37.9%	50.0%	34.2%
	日本語学科	52.2%	44.4%	57.1%
外国語学部集計		43.4%	56.5%	38.6%
法学部	法律学科	37.7%	56.3%	31.1%
	政治学科	64.1%	70.6%	59.1%
法学部集計		48.0%	63.6%	40.3%
国際関係学部	国際関係学科	65.5%	76.9%	56.3%
	国際文化学科	48.0%	75.0%	23.1%
国際関係学部集計		57.4%	76.0%	41.4%
経営学部	経営学科	45.8%	65.4%	22.7%
経営学部集計		45.8%	65.4%	22.7%
スポーツ・健康科学部	スポーツ科学科	32.7%	43.5%	23.1%
	健康科学科	39.1%	44.4%	20.0%
	看護学科	42.1%	53.8%	16.7%
スポーツ・健康科学部集計		36.3%	46.3%	21.6%
社会学部	社会学科	50.0%	66.7%	39.3%
社会学部集計		50.0%	66.7%	39.3%
教職課程センター		42.4%	–	42.4%
教職課程センター集計		42.4%	–	42.4%
国際交流センター		40.0%	50.0%	33.3%
国際交流センター集計		40.0%	50.0%	33.3%
全学集計		45.4%	57.6%	38.3%

4.2【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。［シラバス既知］

全学では 2「知っている」と回答したのは 80.42%（25 年度後期 80.49%）であった。「知っている」と回答した比率が最も高かったのは、国際交流センター（94.62%。25 年度後期 89.77%）、次いで看護学科（88.85%。25 年度後期 88.14%）であった。

学年別では 3 年次から 85%を超えてくるが、昨年度は 2 年次でシラバス認知度が上がるという結果であった。今年度前期は 2 年次に 1 年次よりも比率が下がるという結果となった。

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	14.800%	85.200%
中国文学科	19.806%	80.194%
英米文学科	20.157%	79.843%
教育学科	21.828%	78.172%
書道学科	14.567%	85.433%
歴史文化学科	23.077%	76.923%
社会経済学科	14.146%	85.854%
現代経済学科	12.648%	87.352%
中国語学科	19.968%	80.032%
英語学科	20.564%	79.436%
日本語学科	22.105%	77.895%
法律学科	25.206%	74.794%
政治学科	17.481%	82.519%
国際関係学科	13.666%	86.334%
国際文化学科	12.441%	87.559%
経営学科	16.971%	83.029%
スポーツ科学科	24.102%	75.898%
健康科学科	27.728%	72.272%
看護学科	11.148%	88.852%
社会学科	23.470%	76.530%
教職課程センター	23.865%	76.135%
国際交流センター	5.376%	94.624%
全 学	19.581%	80.419%

学年	1	2
1	20.611%	79.389%
2	21.664%	78.336%
3	14.958%	85.042%
4	13.322%	86.678%

4.3【Q1b】この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。［シラバス通り］

この設問は Q1a で 2「はい（おおよそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.36（後期 4.39）で標準偏差は 0.72（後期 0.71）である。2025 年度後期と同じ傾向を示している。

学科で最も平均値が高かったのは国際関係学科で 4.50（後期は国際文化学科 4.54）

であった。国際文化学科が第 2 位で 4.47 とほぼ同じ平均値を示した。標準偏差の 0.65、0.70 をそれぞれ加味すると、その値は国際関係学科が、3.85 ～ 5.15 の幅に、国際文化学科が 3.07 ～ 5.87 の幅に、それぞれ位置する。

学科部局別、学年別、全学の回答分布状況は、5「強くそう思う」、4「どちらかと言えばそう思う」の合計は、全学 90.02%（後期 90.54%）であった。学生はほぼ「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識している。

変動係数から学科間の格差を確認できる。平均 16.44%に対し、係数が最も大きかったのは歴史文化学科 19.46%(後期 17.98%)、教育学科、書道学科、英語学科、政治学科、健康科学科が 17%を超えている。2025 年度後期から続く学科内のばらつき拡大の傾向は継続している。

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,116	4.447	0.646	14.529%
中国文学科	646	4.378	0.679	15.511%
英米文学科	872	4.415	0.715	16.193%
教育学科	1,250	4.294	0.782	18.201%
書道学科	458	4.376	0.789	18.041%
歴史文化学科	629	4.188	0.815	19.464%
社会経済学科	1,209	4.282	0.684	15.962%
現代経済学科	534	4.360	0.672	15.409%
中国語学科	553	4.416	0.686	15.538%
英語学科	1,880	4.326	0.758	17.529%
日本語学科	316	4.415	0.658	14.898%
法律学科	1,400	4.269	0.717	16.792%
政治学科	1,147	4.289	0.745	17.358%
国際関係学科	988	4.507	0.651	14.448%
国際文化学科	788	4.471	0.706	15.782%
経営学科	1,802	4.356	0.696	15.980%
スポーツ科学科	1,488	4.431	0.699	15.773%
健康科学科	960	4.257	0.752	17.673%
看護学科	561	4.424	0.708	15.998%
社会学科	1,559	4.341	0.679	15.636%
教職課程センター	557	4.391	0.657	14.969%
国際交流センター	91	4.659	0.615	13.203%
全 学	20,804	4.357	0.716	16.437%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,935	4.373	0.713	16.303%
2	6,950	4.306	0.740	17.191%
3	3,801	4.385	0.685	15.615%
4	1,080	4.443	0.674	15.169%

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

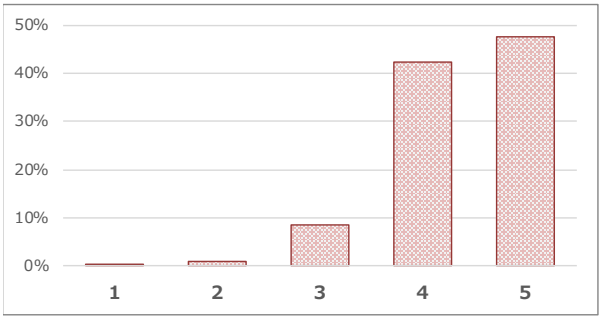
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.179%	0.538%	5.824%	41.308%	52.151%
中国文学科	0.000%	0.774%	8.978%	41.950%	48.297%
英米文学科	0.573%	1.261%	6.193%	40.023%	51.950%
教育学科	0.960%	1.840%	8.880%	43.440%	44.880%
書道学科	0.437%	2.838%	8.297%	35.590%	52.838%
歴史文化学科	0.954%	1.908%	14.149%	43.402%	39.587%
社会経済学科	0.496%	0.496%	8.768%	50.786%	39.454%
現代経済学科	0.749%	0.000%	6.554%	47.940%	44.757%
中国語学科	0.362%	0.723%	7.052%	40.687%	51.175%
英語学科	0.691%	1.170%	10.106%	40.957%	47.074%
日本語学科	0.000%	0.949%	6.646%	42.405%	50.000%
法律学科	0.571%	0.429%	11.143%	47.214%	40.643%
政治学科	0.610%	1.482%	9.329%	45.510%	43.069%
国際関係学科	0.202%	0.911%	4.757%	36.235%	57.895%
国際文化学科	0.635%	0.635%	6.726%	35.025%	56.980%
経営学科	0.499%	0.721%	7.603%	45.006%	46.171%
スポーツ科学科	0.134%	0.672%	9.341%	35.618%	54.234%
健康科学科	0.417%	0.625%	14.375%	41.979%	42.604%
看護学科	0.000%	1.783%	7.487%	37.255%	53.476%
社会学科	0.449%	0.706%	6.992%	48.044%	43.810%
教職課程センター	0.000%	0.718%	7.540%	43.627%	48.115%
国際交流センター	0.000%	0.000%	7.692%	18.681%	73.626%
全 学	0.461%	0.942%	8.570%	42.482%	47.544%

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.425%	0.985%	8.215%	41.612%	48.763%
2	0.604%	1.022%	10.086%	43.698%	44.590%
3	0.263%	0.842%	7.498%	42.936%	48.461%
4	0.556%	0.463%	5.648%	40.833%	52.500%

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

（ 1「まったくそう思わない」/ 2「どちらかと言えばそう思わない」/ 3「どちらとも言えない」/ 4「どちらかと言えばそう思う」/ 5「強くそう思う」）



回 答	回答者数	割 合
1	96	0.461%
2	196	0.942%
3	1,783	8.570%
4	8,838	42.482%
5	9,891	47.544%
合計	20,804	

4.4 【Q2】自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、5「とても難しかった」～1「とても易しかった」の 5 段階である。

分析の視点であるが、①難易度があまりにも高ければ不満も生じるだろうが、易しすぎても同様の結果を招く。②学生の認識が、3「適切だった」から 4「やや難しかった」の間に収まることが望ましい。という前提に立っている。

今年度前期の全学の平均は 3.57（25 年度後期：3.54）、標準偏差は 0.80（25 年度後期：0.78)であった。どの学科も平均が同じ程度であり、難易度は概ね適切であったと判断してよい。

学科部局別と全学の回答分布状況をみると、全学では 3 と 4 の合計が 82.19%であるからこれも全体として適切である。なお、1「とてもやさしかった」の数値は微々たるものであるが、5「とても難しかった」が 17%を超える値を示したのは、健康科学科、現代経済学科、看護学科、法律学科、社会経済学科である。

全学の学年別回答分布を学年別で比較すると、3 年次に 3「適切だった」が 5.62%増加している。2025 年度の後期は、2 年次に大きく増加した（43.10%から 54.25%へ）。昨年度の 2 年生が今年度前期にさらに難易度は適切と判断したと読み取れる。

一方で、5「とても難しかった」の 1－4 年次の割合の変化を 2025 年度後期と比較すると、1 年次は 13.83%から 14.18%へ、2 年次は 8.65%から 13.63%へ、3 年次は 10.46%から 11.08%へ、4 年次は 9.48%から 13.52%へと増加している。この傾向は 2024 年度後期から継続しているものであるが、特に、4 年次の割合が増加していることが、今年度の特徴である。

変動係数をみると、全学平均 22.64%より高い学科が 6 学科ある。2025 年度前期は 10 学科、後期は 7 学科であるから、学科間の格差は小さくなっている。ただし、スポーツ科学科は 26.19%25 年度よりも高い数値を示した。学力差に留意した授業運営が必要と判断できる。

Q２「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,253	3.461	0.713	20.605%
中国文学科	721	3.653	0.810	22.178%
英米文学科	1,016	3.426	0.796	23.246%
教育学科	1,466	3.501	0.795	22.709%
書道学科	508	3.356	0.764	22.763%
歴史文化学科	754	3.495	0.778	22.265%
社会経済学科	1,329	3.693	0.805	21.792%
現代経済学科	592	3.775	0.831	22.020%
中国語学科	630	3.614	0.854	23.623%
英語学科	2,160	3.527	0.827	23.454%
日本語学科	379	3.496	0.749	21.431%
法律学科	1,700	3.761	0.798	21.210%
政治学科	1,310	3.696	0.796	21.523%
国際関係学科	1,082	3.540	0.759	21.433%
国際文化学科	842	3.496	0.789	22.573%
経営学科	2,024	3.628	0.807	22.233%
スポーツ科学科	1,726	3.274	0.858	26.193%
健康科学科	1,115	3.890	0.814	20.936%
看護学科	601	3.775	0.808	21.410%
社会学科	1,875	3.553	0.756	21.280%
教職課程センター	683	3.441	0.689	20.028%
国際交流センター	93	3.237	0.646	19.956%
全 学	23,859	3.571	0.809	22.642%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	10,299	3.565	0.843	23.647%
2	8,072	3.605	0.794	22.030%
3	4,250	3.539	0.749	21.165%
4	1,198	3.542	0.793	22.391%

Q２「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

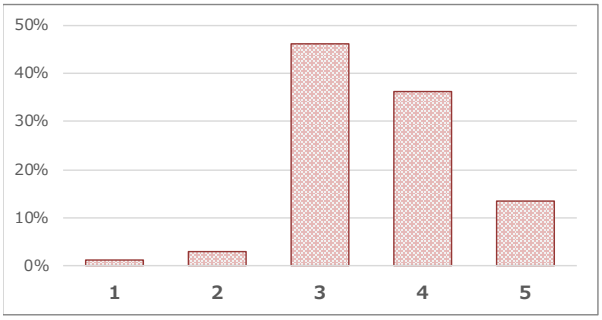
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.798%	2.474%	54.669%	33.919%	8.140%
中国文学科	0.555%	3.745%	41.609%	38.003%	16.089%
英米文学科	1.772%	4.528%	52.657%	31.398%	9.646%
教育学科	1.364%	3.683%	49.795%	33.834%	11.323%
書道学科	2.362%	4.724%	53.740%	33.268%	5.906%
歴史文化学科	0.796%	4.111%	51.194%	32.626%	11.273%
社会経済学科	0.602%	2.634%	40.933%	38.525%	17.306%
現代経済学科	1.182%	2.196%	34.628%	41.892%	20.101%
中国語学科	2.063%	2.857%	42.222%	37.302%	15.556%
英語学科	1.991%	3.750%	45.833%	36.389%	12.037%
日本語学科	0.528%	4.485%	49.340%	36.148%	9.499%
法律学科	0.588%	2.235%	36.412%	42.059%	18.706%
政治学科	0.916%	2.595%	38.168%	42.595%	15.725%
国際関係学科	0.832%	2.218%	50.739%	34.566%	11.645%
国際文化学科	1.425%	2.613%	52.613%	31.591%	11.758%
経営学科	1.285%	2.915%	41.601%	40.119%	14.081%
スポーツ科学科	4.114%	5.214%	59.096%	22.306%	9.270%
健康科学科	0.448%	1.345%	32.556%	40.090%	25.561%
看護学科	0.666%	1.997%	36.439%	40.932%	19.967%
社会学科	0.747%	2.880%	47.840%	37.440%	11.093%
教職課程センター	1.318%	1.611%	54.612%	36.603%	5.857%
国際交流センター	0.000%	5.376%	72.043%	16.129%	6.452%
全 学	1.320%	3.106%	46.075%	36.116%	13.383%

Q２「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.806%	3.641%	45.014%	35.363%	14.176%
2	1.090%	2.676%	44.549%	38.057%	13.627%
3	0.682%	2.494%	50.165%	35.576%	11.082%
4	0.751%	3.255%	50.584%	31.886%	13.523%

Q２「難易度適切」に対する全学の回答分布

（ 1「とても易しかった」/ 2「やや易しかった」/ 3「適切だった」/ 4「やや難しかった」/ 5「とても難しかった」）



回 答	回答者数	割 合
1	315	1.320%
2	741	3.106%
3	10,993	46.075%
4	8,617	36.116%
5	3,193	13.383%
合計	23,859	

4.5【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で「2 はい、あります」との質問への回答は従来から低い比率を示している。、回答率は 17.19%であった。2024 年度後期（19.54%)から 2025 年前期（17.16%）にかけて低下したものが同年度後期にはいったん持ち直したものの（17.74%)、再び減少している。

もっとも、書道学科、中国語学科、国際交流センターは、30%を超えている。平均よりも高い学科は 11 ある。

学年別でみると、1 年次は前年後期（17.45%）から 19.30%へと増加しており、全学平均（17.19%）も上回った。

Q３「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	86.290%	13.710%
中国文学科	76.231%	23.769%
英米文学科	76.535%	23.465%
教育学科	81.624%	18.376%
書道学科	67.203%	32.797%
歴史文化学科	86.364%	13.636%
社会経済学科	89.833%	10.167%
現代経済学科	87.031%	12.969%
中国語学科	68.471%	31.529%
英語学科	73.349%	26.651%
日本語学科	81.167%	18.833%
法律学科	89.284%	10.716%
政治学科	84.877%	15.123%
国際関係学科	80.540%	19.460%
国際文化学科	82.651%	17.349%
経営学科	85.537%	14.463%
スポーツ科学科	85.120%	14.880%
健康科学科	87.274%	12.726%
看護学科	85.787%	14.213%
社会学科	86.745%	13.255%
教職課程センター	82.047%	17.953%
国際交流センター	59.140%	40.860%
全 学	82.813%	17.187%

学年	1	2
1	80.697%	19.303%
2	85.268%	14.732%
3	83.381%	16.619%
4	82.816%	17.184%

4.6【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3 で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。

全学の平均は 4.07（後期は 4.13）、標準偏差は 0.98（後期は 0.96）となり、2025 年度後期に比べて特に有意な変化はない。教員の対応はおおむね迅速であったと学生に認識されている。

しかし、学科部局別回答分布は、全学で 4 と 5 の合計が 68.56%であり、2024 年度後期（75.05%）、2025 年度前期（71.28%）、同後期（71.73%）から減少した。24 年度前期と比較すると 7%強減少している。

また、2024 年度後期は、1「まったくそう思わない」と 2「どちらかといえばそう思わない」1 の合計は 3.69%であった。2025 年度前期は 3.83%、後期は 3.08%であったのに対し、2026 年度前期は 3.60%となり、再び増加傾向を示したことになる。

学科別の平均を見ると、国際交流センター(4.43)、書道学科(4.40)、日本語学科(4.31)

などが高い。

学年別の平均を見ると、全学の平均は 1 年次 4.09、2 年次 4.0 1 、3 年次 4.12、4 年次 4.08 と学年別の有意な差は見られなかった。

変動係数の平均値は 23.99%であった。9 学科がこの平均値を超えている。2025 年度前期は 12 学科、後期は 6 学科であった。高い値は、学科内でバラツキが生じていることを示す。最も高いのは政治学科で 27.24%（25 年度前期は現代経済学科 27.10%、後期は看護学科 28.41%）。国際交流センター、教職課程センターは 20%を下回るが、最も低い書道学科でも 19.91%となっており、しかも、25 年前期の 16.39%、後期の 16.86%から上昇している。フィードバックをする教員とそうでない教員との差が生まれていることがわかる。

他方で、学科部局別回答分布の「5 強くそう思う」の数値は、2024 年度後期から全般的に低下傾向にある。2026 年度前期は、2025 年度後期と比較して、現代経済学科、中国語学科、国際文化学科、スポーツ科学科、教職課程センターでこの値が増加している。以上の学科では学生と向かい合おうとする教員の姿勢が学生から評価されていることがわかる。

Q４「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	375	4.107	0.974	23.717%
中国文学科	308	4.185	0.941	22.473%
英米文学科	446	4.222	0.936	22.178%
教育学科	536	4.106	1.001	24.374%
書道学科	254	4.398	0.876	19.916%
歴史文化学科	232	3.935	0.965	24.521%
社会経済学科	448	3.788	0.969	25.587%
現代経済学科	209	3.837	0.950	24.747%
中国語学科	305	4.239	0.968	22.823%
英語学科	1,071	4.193	0.934	22.282%
日本語学科	135	4.311	0.865	20.057%
法律学科	507	3.868	0.979	25.317%
政治学科	494	3.887	1.059	27.238%
国際関係学科	463	4.294	0.936	21.810%
国際文化学科	383	4.227	0.974	23.038%
経営学科	844	3.981	0.989	24.845%
スポーツ科学科	658	4.141	0.969	23.399%
健康科学科	474	3.781	0.967	25.577%
看護学科	221	4.000	0.937	23.423%
社会学科	631	3.965	0.978	24.659%
教職課程センター	209	4.306	0.814	18.897%
国際交流センター	60	4.433	0.803	18.123%
全 学	9,263	4.073	0.977	23.990%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	4,151	4.091	0.997	24.367%
2	2,996	4.015	0.973	24.227%
3	1,649	4.122	0.924	22.425%
4	449	4.085	0.995	24.367%

Q４「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

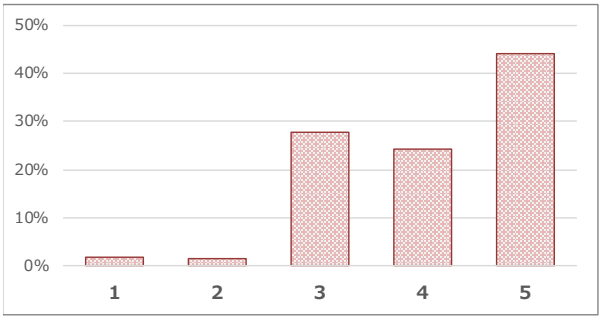
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.333%	1.600%	29.867%	19.467%	47.733%
中国文学科	0.974%	2.597%	23.052%	23.701%	49.675%
英米文学科	0.897%	1.794%	24.439%	19.955%	52.915%
教育学科	2.612%	2.052%	23.507%	25.746%	46.082%
書道学科	1.181%	0.787%	16.929%	19.291%	61.811%
歴史文化学科	1.293%	1.724%	37.069%	21.983%	37.931%
社会経済学科	2.455%	2.455%	37.723%	28.571%	28.795%
現代経済学科	1.435%	2.392%	38.756%	25.837%	31.579%
中国語学科	2.623%	1.639%	17.049%	26.557%	52.131%
英語学科	1.681%	1.214%	22.129%	26.050%	48.926%
日本語学科	0.741%	0.741%	20.000%	23.704%	54.815%
法律学科	2.170%	2.170%	35.897%	26.233%	33.531%
政治学科	3.239%	3.239%	33.198%	22.267%	38.057%
国際関係学科	2.160%	0.432%	19.222%	22.246%	55.940%
国際文化学科	2.089%	1.567%	21.410%	21.410%	53.525%
経営学科	2.370%	1.540%	31.043%	25.711%	39.336%
スポーツ科学科	1.824%	0.912%	27.204%	21.429%	48.632%
健康科学科	1.688%	2.532%	42.405%	22.785%	30.591%
看護学科	1.357%	2.262%	28.959%	29.864%	37.557%
社会学科	2.536%	1.585%	29.635%	29.319%	36.926%
教職課程センター	0.000%	0.478%	21.053%	25.837%	52.632%
国際交流センター	0.000%	0.000%	20.000%	16.667%	63.333%
全 学	1.911%	1.684%	27.842%	24.355%	44.208%

Q４「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.481%	2.024%	24.596%	25.753%	45.146%
2	1.636%	1.502%	32.243%	22.931%	41.689%
3	0.910%	1.273%	28.078%	24.136%	45.603%
4	2.227%	1.336%	28.285%	22.049%	46.102%

Q４「フィードバック」に対する全学の回答分布

（ 1「まったくそう思わない」/ 2「どちらかと言えばそう思わない」/ 3「どちらとも言えない」/ 4「どちらかと言えばそう思う」/ 5「強くそう思う」）



回 答	回答者数	割 合
1	177	1.911%
2	156	1.684%
3	2,579	27.842%
4	2,256	24.355%
5	4,095	44.208%
合計	9,263	

4.7【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[学生の意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.13（後期 4.12)、標準偏差 0.79（後期 0.79）であり、傾向は横ばいである。学科別では後期と同様、書道学科 4.43（標準偏差 0.72）が 25 年度前後期に続いて最も高かった（後期：平均値 4.41、標準偏差 0.71)。学科による平均値の幅(書道学科 4.43－法律学科 3.93)は 0.50 であり、はっきりとした格差がみられる。国際交流センターと教職課程センターの平均値は 4.2 強と高い。

学科部局別の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」との合計は、83.38%と高い値を示している。学生は、自己評価においては、おおむね熱意をもって授業に取り組んでいる。

学年別の平均では、全学年で 4.1 以上であり、25 年度よりも学年別の差は改善している。

変動係数から授業参加への意欲や熱意に対する学生自身の認識をみると、平均 19.08%に対し、スポーツ科学科 15.65%、書道学科 16.30%などは低い値を示し、バラツキは少ない一方、歴史文化学科、現代経済学科、法律学科、政治学科では 20%を超えている。法律学科 22.24%に対して、スポーツ健康科学科 15.65%とでは、最大で 6.58%の格差が生じている。

Q５「学生意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,250	4.207	0.731	17.367%
中国文学科	721	4.110	0.792	19.274%
英米文学科	1,011	4.189	0.753	17.971%
教育学科	1,463	4.149	0.778	18.751%
書道学科	506	4.431	0.722	16.304%
歴史文化学科	754	4.019	0.849	21.132%
社会経済学科	1,325	3.999	0.799	19.968%
現代経済学科	592	3.983	0.828	20.787%
中国語学科	625	4.213	0.749	17.781%
英語学科	2,157	4.179	0.762	18.238%
日本語学科	380	4.111	0.800	19.469%
法律学科	1,696	3.933	0.875	22.237%
政治学科	1,306	4.074	0.819	20.116%
国際関係学科	1,083	4.303	0.732	17.017%
国際文化学科	844	4.238	0.771	18.181%
経営学科	2,021	4.056	0.808	19.931%
スポーツ科学科	1,725	4.383	0.686	15.650%
健康科学科	1,113	4.040	0.807	19.978%
看護学科	600	4.185	0.729	17.408%
社会学科	1,875	4.061	0.784	19.316%
教職課程センター	679	4.209	0.718	17.065%
国際交流センター	93	4.290	0.756	17.622%
全 学	23,819	4.137	0.789	19.084%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	10,282	4.154	0.800	19.248%
2	8,055	4.118	0.790	19.184%
3	4,245	4.124	0.758	18.387%
4	1,197	4.157	0.809	19.449%

Q５「学生意欲」に対する学科/部局別回答分布

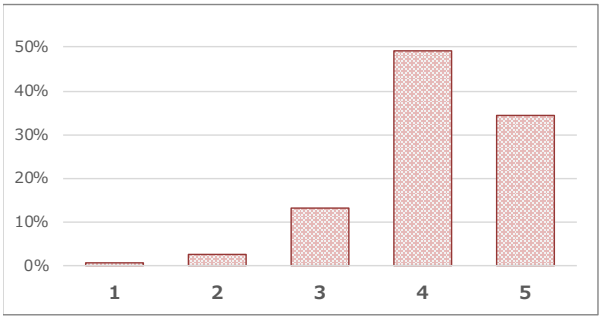
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.560%	1.520%	10.560%	51.360%	36.000%
中国文学科	0.555%	3.467%	12.760%	50.902%	32.316%
英米文学科	0.495%	2.275%	10.880%	50.544%	35.806%
教育学科	0.957%	1.982%	12.235%	50.854%	33.971%
書道学科	0.395%	1.383%	7.312%	36.561%	54.348%
歴史文化学科	1.326%	3.050%	18.037%	47.613%	29.973%
社会経済学科	0.906%	3.170%	16.981%	52.981%	25.962%
現代経済学科	1.014%	3.885%	17.399%	51.182%	26.520%
中国語学科	0.320%	2.560%	10.080%	49.600%	37.440%
英語学科	0.556%	1.947%	12.517%	49.003%	35.976%
日本語学科	0.789%	2.368%	15.263%	48.158%	33.421%
法律学科	1.592%	5.071%	17.040%	51.002%	25.295%
政治学科	0.995%	2.603%	16.386%	48.086%	31.930%
国際関係学科	0.277%	2.124%	8.218%	45.799%	43.583%
国際文化学科	0.355%	1.896%	12.796%	43.483%	41.469%
経営学科	0.742%	2.969%	16.675%	49.184%	30.430%
スポーツ科学科	0.174%	1.101%	7.362%	42.957%	48.406%
健康科学科	0.629%	2.606%	19.048%	47.529%	30.189%
看護学科	0.333%	1.167%	13.500%	49.667%	35.333%
社会学科	0.587%	3.947%	12.533%	54.613%	28.320%
教職課程センター	0.147%	2.356%	9.573%	52.283%	35.641%
国際交流センター	0.000%	3.226%	8.602%	44.086%	44.086%
全 学	0.680%	2.624%	13.309%	49.125%	34.263%

Q５「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.710%	2.791%	12.809%	47.734%	35.956%
2	0.633%	2.669%	14.202%	49.286%	33.209%
3	0.589%	2.261%	13.004%	52.462%	31.684%
4	1.086%	2.256%	12.782%	47.619%	36.257%

Q５「学生意欲」に対する全学の回答分布

（ 1「まったくそう思わない」/ 2「どちらかと言えばそう思わない」/ 3「どちらとも言えない」/ 4「どちらかと言えばそう思う」/ 5「強くそう思う」）



回 答	回答者数	割 合
1	162	0.680%
2	625	2.624%
3	3,170	13.309%
4	11,701	49.125%
5	8,161	34.263%
合計	23,819	

4.8【Q6】教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員の熱意]

この設問に対する全学の平均は 4.50（標準偏差 0.72）であった。2024 年度後期は 4.55（標準偏差 0.68）、2025 年度前期は 4.49（標準偏差 0.73）、同年後期は 4.53(標準偏差 0.68)であるが、ほぼ横ばいで推移している。4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の学科部局別回答分布の全学平均値をみても、5 が 60.04%、4 が 31.84%、合計が 91.92%という高い数値を示した。学科部局別の回答分布においても、合計の値は 90%以上を示す学科がほとんどで、社会経済学科、法律学科、政治学科、経営学科、健康科学科も 80%後半の高い値を示した。

学科別の平均をみると、日本文学科、国際関係学科、スポーツ科学科、国際交流センターが、それぞれ 4.6 を超えている。

学年別の平均も 2 年次が 4.48 であるほか、すべての学年で 4.5 以上の高い数値を示した。

変動係数からみると、日本文学科の 12.70%と政治学科 18.73%と 6%の差が開いている。両学科とも 1200 前後のサンプル数であるので、明瞭に有意な差が認められ、格差の原因は検討に値する。

Q６「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,251	4.624	0.587	12.705%
中国文学科	722	4.566	0.629	13.766%
英米文学科	1,015	4.575	0.657	14.357%
教育学科	1,464	4.465	0.749	16.763%
書道学科	508	4.579	0.707	15.439%
歴史文化学科	753	4.441	0.771	17.361%
社会経済学科	1,327	4.356	0.778	17.872%
現代経済学科	592	4.404	0.722	16.393%
中国語学科	629	4.529	0.673	14.854%
英語学科	2,164	4.540	0.703	15.486%
日本語学科	379	4.533	0.678	14.962%
法律学科	1,700	4.386	0.776	17.703%
政治学科	1,312	4.386	0.821	18.725%
国際関係学科	1,084	4.673	0.600	12.849%
国際文化学科	844	4.596	0.672	14.623%
経営学科	2,026	4.397	0.781	17.771%
スポーツ科学科	1,726	4.636	0.608	13.109%
健康科学科	1,118	4.369	0.808	18.499%
看護学科	600	4.467	0.713	15.971%
社会学科	1,878	4.471	0.705	15.773%
教職課程センター	683	4.586	0.592	12.920%
国際交流センター	93	4.677	0.706	15.089%
全 学	23,868	4.496	0.720	16.010%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	10,310	4.490	0.723	16.113%
2	8,070	4.476	0.737	16.471%
3	4,248	4.524	0.692	15.288%
4	1,200	4.568	0.661	14.470%

Q６「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

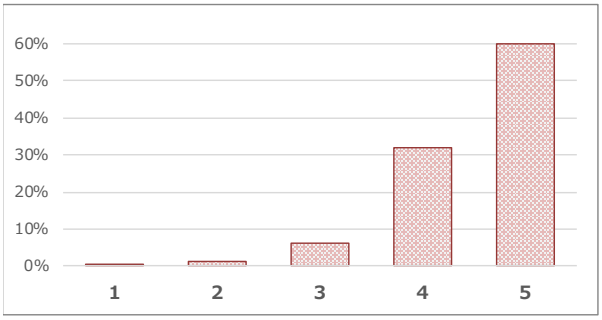
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.080%	0.639%	3.118%	29.177%	66.986%
中国文学科	0.000%	0.831%	4.986%	30.886%	63.296%
英米文学科	0.394%	0.690%	4.926%	28.966%	65.025%
教育学科	0.888%	1.434%	5.943%	33.743%	57.992%
書道学科	0.591%	1.378%	5.118%	25.394%	67.520%
歴史文化学科	1.328%	0.930%	6.640%	34.529%	56.574%
社会経済学科	0.678%	2.110%	8.440%	38.508%	50.264%
現代経済学科	0.507%	0.845%	8.446%	38.176%	52.027%
中国語学科	0.477%	1.113%	3.975%	33.863%	60.572%
英語学科	0.555%	0.970%	6.054%	28.789%	63.632%
日本語学科	0.792%	0.000%	5.805%	31.926%	61.478%
法律学科	0.941%	1.588%	7.882%	37.118%	52.471%
政治学科	1.372%	1.829%	8.155%	34.146%	54.497%
国際関係学科	0.369%	0.554%	3.137%	23.339%	72.601%
国際文化学科	0.237%	1.422%	4.858%	25.474%	68.009%
経営学科	0.740%	2.024%	8.045%	35.192%	53.998%
スポーツ科学科	0.000%	0.579%	5.156%	24.334%	69.930%
健康科学科	0.537%	2.326%	10.823%	32.379%	53.936%
看護学科	0.167%	1.333%	8.000%	32.667%	57.833%
社会学科	0.479%	1.384%	5.378%	36.102%	56.656%
教職課程センター	0.000%	0.293%	4.539%	31.479%	63.690%
国際交流センター	0.000%	2.151%	7.527%	10.753%	79.570%
全 学	0.553%	1.261%	6.301%	31.842%	60.043%

Q６「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.533%	1.426%	6.198%	32.202%	59.641%
2	0.582%	1.388%	7.051%	31.772%	59.207%
3	0.541%	0.895%	5.508%	31.780%	61.276%
4	0.583%	0.333%	5.083%	29.667%	64.333%

Q６「教員熱意」に対する全学の回答分布

（ 1「まったくそう思わない」/ 2「どちらかと言えばそう思わない」/ 3「どちらとも言えない」/ 4「どちらかと言えばそう思う」/ 5「強くそう思う」）



回 答	回答者数	割 合
1	132	0.553%
2	301	1.261%
3	1,504	6.301%
4	7,600	31.842%
5	14,331	60.043%
合計	23,868	

4.9【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

この設問に対する全学の平均は 4.28 であり、2024 年度後期（4.35)、2025 年度前期（4.26)、同後期 (4.33) であり、傾向は横ばいである。学科別の平均は前年度と同じく、日本文学科、書道学科、国際関係学科、健康科学科が 4.4 を超えている。ただし、4.5 を越える学科はなかった。25 年度前後期とも書道学科は 4.5 を超えており、国際交流センターについては、2025 年後期は 4.84 もの高い値を示していた。

学科部局別および全学の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の合計 87.91%は、2025 年度前期(86.75%)よりは高いが、同後期(89.39%)に比べると低い。ちなみに、4 よりも 5 の割合が高かった学科は、10 学科であった。なかでも、書道学科は 6 割を超えた。部局では、教職課程センターも国際交流センターも 5 の割合が高く、教職課程センター52.27%、国際交流センター59.14%であった。

学年別の回答分布を見ると、5「強くそう思う」の割合が最も高いのは 4 年生 51.30%で 5 割を超える数値であった。

成長感覚を変動係数からみると、次の 10 学科が全学平均の 18.29%を超えていた。国際関係学科の変動係数は 15.08%と、バラツキが他学科に比べて最も小さかった。

Q７「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,253	4.428	0.694	15.664%
中国文学科	719	4.298	0.720	16.744%
英米文学科	1,015	4.302	0.783	18.197%
教育学科	1,464	4.246	0.810	19.067%
書道学科	508	4.484	0.795	17.723%
歴史文化学科	754	4.251	0.825	19.417%
社会経済学科	1,326	4.124	0.836	20.267%
現代経済学科	593	4.150	0.849	20.462%
中国語学科	629	4.399	0.689	15.669%
英語学科	2,161	4.303	0.804	18.681%
日本語学科	380	4.287	0.807	18.835%
法律学科	1,701	4.171	0.831	19.928%
政治学科	1,310	4.201	0.840	19.995%
国際関係学科	1,082	4.469	0.674	15.082%
国際文化学科	844	4.373	0.730	16.686%
経営学科	2,024	4.222	0.794	18.802%
スポーツ科学科	1,726	4.466	0.682	15.277%
健康科学科	1,115	4.186	0.822	19.628%
看護学科	601	4.258	0.769	18.051%
社会学科	1,877	4.221	0.766	18.160%
教職課程センター	683	4.429	0.677	15.292%
国際交流センター	93	4.441	0.796	17.924%
全 学	23,858	4.288	0.784	18.288%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	10,305	4.274	0.797	18.640%
2	8,067	4.265	0.786	18.432%
3	4,249	4.333	0.753	17.373%
4	1,197	4.392	0.756	17.203%

Q７「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

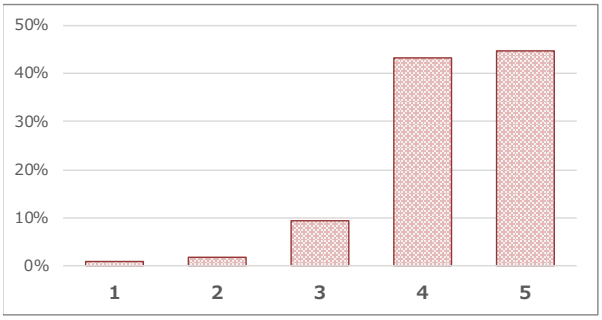
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.319%	1.357%	5.826%	40.223%	52.275%
中国文学科	0.278%	1.391%	9.597%	45.758%	42.976%
英米文学科	0.985%	1.872%	8.571%	43.054%	45.517%
教育学科	1.298%	2.049%	9.563%	44.945%	42.145%
書道学科	1.181%	2.756%	3.740%	31.102%	61.220%
歴史文化学科	1.061%	2.653%	10.345%	42.042%	43.899%
社会経済学科	1.584%	2.790%	11.614%	49.623%	34.389%
現代経済学科	1.686%	2.192%	12.985%	45.700%	37.437%
中国語学科	0.318%	0.954%	6.995%	41.971%	49.762%
英語学科	1.203%	1.758%	9.255%	41.092%	46.691%
日本語学科	1.579%	1.316%	8.947%	43.158%	45.000%
法律学科	1.352%	2.646%	11.405%	46.737%	37.860%
政治学科	1.679%	1.908%	11.450%	44.580%	40.382%
国際関係学科	0.462%	0.739%	5.268%	38.540%	54.991%
国際文化学科	0.592%	1.066%	8.175%	40.758%	49.408%
経営学科	1.038%	1.927%	10.870%	46.146%	40.020%
スポーツ科学科	0.348%	0.695%	6.663%	36.559%	55.736%
健康科学科	0.897%	2.242%	14.081%	42.960%	39.821%
看護学科	0.333%	2.329%	10.982%	43.927%	42.429%
社会学科	0.959%	2.078%	8.791%	50.293%	37.880%
教職課程センター	0.146%	0.878%	7.174%	39.531%	52.269%
国際交流センター	0.000%	4.301%	6.452%	30.108%	59.140%
全 学	0.951%	1.823%	9.318%	43.331%	44.576%

Q７「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.980%	2.048%	9.762%	42.999%	44.212%
2	0.979%	1.835%	9.781%	44.515%	42.891%
3	0.800%	1.412%	8.190%	42.881%	46.717%
4	1.086%	1.253%	6.349%	40.017%	51.295%

Q７「成長感覚」に対する全学の回答分布

（ 1「まったくそう思わない」/ 2「どちらかと言えばそう思わない」/ 3「どちらとも言えない」/ 4「どちらかと言えばそう思う」/ 5「強くそう思う」）



回 答	回答者数	割 合
1	227	0.951%
2	435	1.823%
3	2,223	9.318%
4	10,338	43.331%
5	10,635	44.576%
合計	23,858	

4.10【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「10」を「100%満足」、「1」を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。［総合満足］

すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を 10、「まったく満足できなかった」を 1 として、10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。[総合満足]

包括的な設問（総合満足）である Q8 の結果をみると、全学の平均は 8.18（標準偏差 1.79）であり、8 を超えている。その平均値が 2025 年度前期（平均 8.12、標準偏差 1.82）に比べ上がっているが、後期からは下がっている（平均 8.32、標準偏差 1.68）。

学科別の平均では、その値が最も高かった学科は、2025 年度は前後期ともに看護学科であり、2026 年度前期はスポーツ科学科であった。

学科部局別および全学の回答分布をみると、8 が 22.57%（2025 年度 23.06%）、9 が 19.23%（2025 年度 19.28%）、10 が 29.44%（2025 年度 28.10%）である。8 から 10 の合計は 71.23%（2025 年度前期 70.44%、後期 74.27%）となり、全体の 7 割以上を占めている。

学科別では、10 が全学平均値の 29.44%を超えるのは、8 から 10 の合計が 80%を超えている学科はスポーツ科学科 83.59%のみである。

教職課程センターの 10 の割合は 31.91%、国際交流センターは 48.39%を示し、全学の平均値（29.44%）を大幅に上回っている。8 から 10 の合計は教職課程センター75.76%、国際交流センター91.40%である。

学年別では 4 年生が 10 の割合が高く、これは例年同様の傾向である。ただし、1 と 2 の数値については注意が必要であろう。1 の割合を学年別にみると、すべての学年で 2 より 1 のほうが高い。さらに、1 と 2 の合計値をみると、学年が上がるに連れて低くなる傾向はみられないことには留意が必要である。

変動係数の平均値から総合満足度をみると、他の質問項目に比べて相対的に高い数

値を示しているかについては、他の質問項目のデータとの比較が必要である。

変動係数の変動幅 9.40 ポイント（＝最大値―最小値）を示した。これは総合満足度に対する学生認識について、学科間で格差が生じていることを意味する。数値が最も低い学科はスポーツ科学科、次いで国際関係学科、日本文学科であった。これ以外にも20%未満の学科がみられる。法律学科は 25.46%で最も高く、スポーツ科学科との差が9.40 ポイントであった。

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,249	8.480	1.554	18.331%
中国文学科	719	8.295	1.663	20.054%
英米文学科	1,014	8.314	1.707	20.531%
教育学科	1,460	8.142	1.836	22.546%
書道学科	507	8.558	1.830	21.378%
歴史文化学科	753	7.895	1.961	24.834%
社会経済学科	1,324	7.804	1.968	25.222%
現代経済学科	590	7.971	1.688	21.172%
中国語学科	629	8.388	1.727	20.586%
英語学科	2,153	8.172	1.831	22.410%
日本語学科	379	8.288	1.748	21.088%
法律学科	1,690	7.769	1.978	25.463%
政治学科	1,310	7.935	1.937	24.411%
国際関係学科	1,079	8.643	1.544	17.869%
国際文化学科	839	8.491	1.656	19.507%
経営学科	2,024	8.014	1.804	22.516%
スポーツ科学科	1,712	8.771	1.409	16.063%
健康科学科	1,110	7.986	1.840	23.047%
看護学科	599	7.965	1.737	21.814%
社会学科	1,872	8.034	1.695	21.104%
教職課程センター	680	8.409	1.570	18.672%
国際交流センター	93	9.108	1.274	13.987%
全 学	23,785	8.184	1.785	21.811%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	10,272	8.129	1.804	22.190%
2	8,041	8.144	1.815	22.292%
3	4,238	8.305	1.684	20.282%
4	1,194	8.475	1.728	20.391%

Q８「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

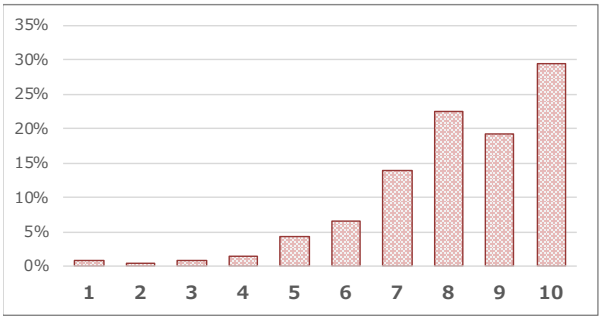
学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.320%	0.240%	0.320%	0.881%	3.603%	4.564%	11.849%	23.219%	21.457%	33.547%
中国文学科	0.278%	0.417%	0.695%	1.113%	4.312%	6.676%	13.213%	22.670%	19.889%	30.737%
英米文学科	0.888%	0.099%	0.789%	1.085%	3.649%	5.819%	13.708%	23.471%	18.245%	32.249%
教育学科	1.233%	0.274%	1.096%	2.329%	3.836%	5.548%	14.452%	23.219%	19.726%	28.288%
書道学科	1.578%	0.000%	0.394%	2.170%	3.353%	3.748%	9.467%	17.160%	19.724%	42.406%
歴史文化学科	1.859%	0.930%	0.664%	2.523%	5.445%	6.507%	15.007%	25.232%	17.795%	24.037%
社会経済学科	1.511%	0.755%	1.511%	2.870%	5.060%	8.761%	15.785%	24.245%	16.012%	23.489%
現代経済学科	0.339%	0.339%	0.678%	1.695%	4.915%	10.169%	17.288%	23.390%	18.305%	22.881%
中国語学科	1.113%	0.000%	0.636%	1.272%	3.498%	5.723%	11.765%	21.304%	20.827%	33.863%
英語学科	0.743%	0.650%	1.161%	1.301%	4.645%	8.128%	12.726%	21.133%	18.811%	30.701%
日本語学科	1.055%	0.792%	0.264%	0.528%	4.222%	5.541%	13.984%	22.691%	19.789%	31.135%
法律学科	1.716%	0.710%	1.479%	2.544%	6.568%	7.219%	16.331%	24.083%	17.456%	21.893%
政治学科	1.527%	0.687%	1.298%	2.061%	4.962%	8.015%	15.038%	22.366%	19.084%	24.962%
国際関係学科	0.371%	0.093%	0.463%	0.371%	3.522%	4.727%	9.546%	20.019%	20.945%	39.944%
国際文化学科	0.596%	0.238%	0.477%	0.715%	3.695%	5.602%	12.038%	20.024%	18.951%	37.664%
経営学科	1.186%	0.346%	0.939%	1.532%	4.842%	7.016%	17.144%	23.715%	18.281%	25.000%
スポーツ科学科	0.117%	0.117%	0.175%	0.584%	2.161%	3.738%	9.521%	20.794%	20.269%	42.523%
健康科学科	0.450%	0.270%	1.351%	2.252%	6.847%	8.288%	15.676%	20.360%	17.117%	27.387%
看護学科	0.167%	0.167%	1.169%	2.003%	6.344%	8.848%	17.195%	22.871%	16.027%	25.209%
社会学科	0.801%	0.374%	1.335%	1.068%	3.526%	7.479%	16.506%	25.694%	22.222%	20.994%
教職課程センター	0.441%	0.147%	0.441%	0.441%	3.235%	6.912%	12.647%	22.647%	21.176%	31.912%
国際交流センター	0.000%	0.000%	1.075%	0.000%	2.151%	2.151%	3.226%	9.677%	33.333%	48.387%
全 学	0.891%	0.387%	0.917%	1.518%	4.394%	6.668%	13.992%	22.569%	19.226%	29.439%

Q８「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.827%	0.321%	0.944%	1.665%	5.033%	7.662%	14.136%	21.894%	18.487%	29.030%
2	0.958%	0.497%	1.032%	1.754%	4.315%	6.330%	14.563%	23.020%	18.630%	28.902%
3	0.826%	0.354%	0.802%	0.944%	3.374%	5.474%	13.285%	23.690%	21.968%	29.283%
4	1.256%	0.335%	0.335%	0.754%	3.099%	4.858%	11.642%	21.357%	19.095%	37.270%

Q８「総合満足」に対する全学の回答分布

（１「10%」/ ２「20%」/ ･･･ / ９「90%」/ １０「100%」）



回 答	回答者数	割 合
1	212	0.891%
2	92	0.387%
3	218	0.917%
4	361	1.518%
5	1,045	4.394%
6	1,586	6.668%
7	3,328	13.992%
8	5,368	22.569%
9	4,573	19.226%
10	7,002	29.439%
合計	23,785	

4.11 クロス表に関する結果（全科目）

学生の授業認識に関する「教員熱意」と「学生意欲」とのクロス表（表 1：回答数、表 2：パーセント）では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。また、右端の列（4＋5）には、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の回答を合計した数値を記載している。なお、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 程度の誤差が生じる場合がある。

まず、回答数を示した表 1 に注目すると、教員熱意の各評価段階において最も回答数が多かった数値（赤字）は、52→61→827→5,310→7,410 と推移している。教員熱意を高く評価する学生ほど、学生意欲についても高い評価を示す傾向がみられる。

次に、回答割合を示した表 2 をみると、各行で最も高い割合は、教員熱意の評価 1 から順に、39.394%→20.266%→55.097%→70.034%→51.854%であった。

教員熱意を 4「どちらかと言えばそう思う」と評価した学生では、学生意欲についても 4 と回答した割合が 70.034%と高かった。また、教員熱意を 5「強くそう思う」と評価した学生では、学生意欲についても 5 と回答した割合が 51.854%を示している。

この結果から、教員熱意に対する評価が高い学生ほど、自身の学習意欲についても高く評価する傾向が確認できる。ただし、各評価段階で最も高い回答割合が一様に上昇しているわけではなく、教員熱意を 5 と評価した学生の回答が学生意欲の 5 に集中する一方、教員熱意を 4 と評価した学生では学生意欲の 4 に回答が集中するという特徴がみられた。

以上の結果は、教員の授業に対する熱意が学生の主体的な学習姿勢と結びついている可能性を示唆しており、今後の授業改善を検討するヒントとなる結果であると言える。

表 1

●【全講義】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［回答数］

		学生意欲					合計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	52	13	26	20	21	132	41
	2 どちらかと言えばそう思わない	19	61	92	93	36	301	129
	3 どちらとも言えない	36	135	827	426	77	1,501	503
	4 どちらかと言えばそう思う	34	251	1,374	5,310	613	7,582	5,923
	5 強くそう思う	21	164	848	5,847	7,410	14,290	13,257
合計		162	624	3,167	11,696	8,157	23,806	19,853

表 2

●【全講義】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［パーセント］

		学生意欲					合計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	39.394%	9.848%	19.697%	15.152%	15.909%	100.000%	31.061%
	2 どちらかと言えばそう思わない	6.312%	20.266%	30.565%	30.897%	11.960%	100.000%	42.857%
	3 どちらとも言えない	2.398%	8.994%	55.097%	28.381%	5.130%	100.000%	33.511%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.448%	3.310%	18.122%	70.034%	8.085%	100.000%	78.119%
	5 強くそう思う	0.147%	1.148%	5.934%	40.917%	51.854%	100.000%	92.771%

4.12　相関表に関する結果（全科目）

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満（-0.3～-0.6）で弱い正（負）の相関関係、+0.6 以上+1 未満（-0.6～-1）で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数（項目）に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足度」に対しては、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.646 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.573」「学生意欲 0.527」「シラバス通り 0.491」「FB 丁寧 0.476」となっている。ここから、「総合満足度」の向上には、「成長感覚」すなわち成長実感を持てるかどうかが、最も強く関連していることを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係順に見ていくと、「教員熱意」との間に強い正の相関関係 0.604 がみられた。その後は弱い正の相関関係順に、「学生意欲 0.590」「シラバス通り 0.490」「FB 丁寧 0.488」と続く。つまり、「成長感覚」の向上には、教員の熱意があるかどうかが最も強く関連していることを示している。

「難易度が適切か」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度（最大 10 点）」以外の他の変数が 5 点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度適切」は 3 点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、相関係数表に基づくと、「難易度適切」と他の変数との関連性は、単純に 2 つの変数が共に変動しているかどうかを測る相関分析で統計的に判断することが困難である。

まとめると、「教員熱意」が学生の「成長感覚」と強く関連し、「成長感覚」が「総合満足度」と強く関連していることが示された。

留意すべき点は、「総合満足」と「成長感覚」との「相関係数 0.646」、および「成長感覚」と「教員熱意」との「相関係数 0.604」が、2025 年度前期（0.648、0.606）、後期（0.63. 0.60）と同様に、2026 年度前期も強い正の相関関係を維持していることである。両者の相関係数は僅かながら低下しているものの、引き続き強い関連性が認められることは、今後の授業改善において参考にすべき結果であろう。

●【全講義】相関係数表

		Q1b【シラバス通り】	Q2【難易度適切】	Q4【FB丁寧】	Q5【学生意欲】	Q6【教員熱意】	Q7【成長感覚】	Q8【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.075	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.450	-0.039	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.422	-0.097	0.469	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.489	-0.079	0.499	0.496	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.490	-0.122	0.488	0.590	0.604	1.000	
Q8	【総合満足】	0.491	-0.225	0.476	0.527	0.573	0.646	1.000

4.13　まとめと結論（全科目）

2026 年度前期の主な結果をまとめると、以下のようになる。

1. シラバス内容を知っている学生（Q1a）は全学 80.42%であった。この数値は 2025 年度前期（79.93%）、同後期（80.39%）と比べても、ほぼ横ばいである。シラバスは授業内容や方法、DP との関連性が示され、学生にカリキュラムの順次性や体系性を周知する重要な媒体である。学生が自らの学修を振り返るためにもシラバスの確認を促す必要がある。

2. シラバス内容を知っている学生は、授業はシラバス通り（Q1b）に実施されたと概ね認識している（平均値：全学 4.36）。2025 年度前期（4.34）、同後期（4.39）と比較しても、ほぼ横ばいである。

3. 授業の難易度について（Q2）は「適切だった」が最も多く、次に「やや難しかった」が多かった。全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。全学の平均値は 3.57 であり、2025 年度後期（3.54）から僅かながら上昇している。

ただし、学年別回答分布の動向を 2025 年度後期と比較すると、留意すべき点がある。3「適切だった」の割合は、3 年次に 5.62 ポイント増加している。一方で、5「とても難しかった」の割合は、2025 年度後期から 2026 年度前期にかけて、1 年次 13.83%から 14.18%へ、2 年次 8.65%から 13.63%へ、3 年次 10.46%から 11.08%へ、4 年次 9.48%から 13.52%へと、すべての学年で増加している。特に 2 年次と 4 年次で増加が目立つ。

授業の難易度について、今後も難しいと捉える学生が増加する傾向が続くのか注視する必要がある。変動係数をみても全学平均 22.64%と比較的高く、学科間のバラツキが認められることから、今後の授業改善に向けた検討や工夫が求められる。

4. 質問をしたことのある学生（Q3）は、全学平均で 17.19%であった。2025 年度前期（17.16%）とほぼ同じ水準であるが、同後期（17.74%）からは僅かながら減少している。授業における学生の積極的な質問行動は依然として低い水準にある理由を検討し、学生が質問しやすい授業環境の整備が求められる。

5. 質問に対する対応（Q4）は、概ね「迅速である」と認識されていた（平均値：全学 4.07）。とはいえ、2025 年度前期（4.10）、同後期（4.13）からは僅かながら低下している。全学・学科部局別回答分布の平均（＝4＋5 の合計）をみても、「迅速である」と認識している学生は 68.56%であり、2025 年度前期（71.28%）、同後期（71.73%）から減少している。

変動係数の数値は質問項目のなかでも高く、学科間の格差が大きいことが確認された。くわえて、2025 年度前期の 23.22%、同後期の数値と比較しても、2026 年度前期は 23.99%とバラツキが広がっている点に注意が必要であろう。学生からの質問に対する教員の対応には、引き続き改善の余地がある。

6. 学生は「熱意・意欲」（Q5）をもって、授業に取り組んだと概ね認識していた（平均値：全学 4.13）。2025 年度前期（4.08）と比較すると僅かながら上昇しており、同後期（4.12）とほぼ同じ水準である。4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の合計は 83.38%と高く、学生は自己評価において概ね意欲をもって授業に取り組んでいると考えられる。

7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている（Q6）と学生は概ね認識していた（平均値：全学 4.50）。2025 年度前期（4.49）、同後期（4.53）とそれほど変わらない。4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の合計は 91.89%と高い数値を示しており、学生は教員の授業に対する熱意は高いと評価している。変動係数をみても、他の質問項目と比較して相対的に低い水準にある。この点は、面倒見の良い大学と言われる本学ならではの大きな特徴といえる。

8. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識（Q7）は多くの学生が持っており、最頻値が 2025 年度前期と同じく 5 である。全学的な平均

値（4.28）からも、学科部局別回答分布からも（4＋5 の合計：87.91%。2025 年度前期 86.75%、同後期 89.39%）、学生の「成長感覚」は高く示された。2025 年度前期からは僅かながら向上しているものの、同後期と比較すると低下している。とはいえ、変動係数からは全学平均 18.29%を超える学科が 10 学科あることがわかる。学科によって学生の成長感覚にバラツキがある点には留意が必要である。

9. すべてを総合して授業に対して概ね満足だと認識した学生（Q8：8〜10 を選んだ学生）は全学で 71.23%となり、2025 年度前期（70.44%）から 0.79 ポイント増加しているが、同後期（74.27%）からは 3.04 ポイント減少している。全学の平均値は 8.18 であり、2025 年度前期（8.12）より上昇したものの、同後期（8.32）より低下している。総合満足度は全体として比較的高い水準を維持しているが、引き続きより高みを目指していきたい。

10. 学生自身の「成長感覚」と学生からみた「教員熱意」には、強い正の相関関係（0.604）が確認された。2025 年度前期（0.606）とほぼ同じ水準であり、教員の熱意を高く評価する学生ほど、自らの成長を強く感じる傾向があると言える。さらに、「成長感覚」と授業に対する「総合満足度」にも強い正の相関関係（0.646）が見られた。2025 年度前期（0.648）と比較しても、ほぼ同じ水準であり、学生の成長実感と総合満足度との間には、引き続き強い関連性が認められる。しかも、授業の内容が難しいと感じる学生の増加に影響を受けず、高い水準でこの成長感覚と教員熱意との正の相関関係がみられる点は、本学の大きな特徴として継続している。

11. 「総合満足」に最も強い関連があるのは、相関係数表によると、全学では「成長感覚」（0.646）であり、次いで「教員熱意」（0.573）、「学生意欲」（0.527）、「シラバス通り」（0.491）、「フィードバックが丁寧かどうか」（0.476）という順であった。2025 年度前期は「フィードバックが丁寧かどうか」が「シラバス通り」を上回っていたが、2026 年度前期はその順位が逆転している。学生の成長実感が総合満足度と最も強く関連している点は、前年度と同様である。さらに教員熱意が、それらとの強い正の相関にあることが、本学の大きな特徴である。

12. 変動係数から各質問項目における学科間の格差を確認できる。特に、全学平均が 20%を超えるのは、2025 年度前期と同じく、「Q2：授業の難易度」22.64%（2025 年度前期 22.08%）、「Q4：FB 丁寧」23.99%（同 23.22%）、「Q8：総合満足度」21.81%（同 21.73%）である。いずれも 2025 年度前期より僅かながら上昇しており、学科間のバラツキが広がっている点には注意が必要である。

特に、授業の難易度に対する認識や、教員の質問対応に対する評価には、学生間の差が認められる。授業の難易度と総合満足度は学生の学力や学修状況とも関連していると考えられ、授業における学生対応が難しくなっている可能性を示している。今後もこの傾向が続くと、学生一人ひとりの学修状況に応じた対応が一層重要となり、一定の学力

を身につけさせるために、早い時期からのきめ細かい指導は検討の余地があろう。

5 全学共通科目の調査結果と分析

5.1.対象科目数・対象人数・回答率

全学共通貨目の対象科目数は、88 科目であり、回答人数は、4,585 人である。

2026 年度前期の回答率は 42.90%を示し、2025 年度前期の 41.07%から 1.83 ポイント上昇した。2025 年度後期の 34.28%と比較すると 8.62 ポイントの大幅な上昇となった。回答率が最も高かった学科は看護学科 72.85%（2025 年度前期：54.86%、2025 年度後期：44.55%）であった。50%を超えた学科は、2025 年度前期は 3 学科（法律学科 58.54%、看護学科 54.86%、日本文学科 51.74%）、2025 年度後期は 1 学科（書道学科 54.22%）であったが、今回は 5 学科となった。特に看護学科の回答率は 70%を超え、前期から高い比率を維持している。書道学科も 60%を超える高い回答率を示した。

2026 年度前期に回答率が上昇したのは、10 学科で 40%を超えたからである。30%を超えた学科も 9 学科あった。

一方で、2025 年度前期および後期よりも上昇したとはいえ、20%台にとどまる学科（国際関係学科 28.82%）もあった。2025 年度前期には 20%台の学科が 2 学科あったが、今回は 1 学科のみとなった。国際文化学科は 34.71%まで上昇したものの、最も回答率の高い看護学科 72.85%と最も低い国際関係学科 28.82%との差は 44.03 ポイントに達しており、依然として学科間の差が大きい。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	479	345	824	58.131%
中国文学科	54	95	149	36.242%
英米文学科	276	466	742	37.197%
教育学科	115	199	314	36.624%
書道学科	90	51	141	63.830%
歴史文化学科	206	179	385	53.506%
社会経済学科	277	432	709	39.069%
現代経済学科	278	387	665	41.805%
中国語学科	199	270	469	42.431%
英語学科	411	511	922	44.577%
日本語学科	159	227	386	41.192%
法律学科	237	227	464	51.078%
政治学科	177	282	459	38.562%
国際関係学科	134	331	465	28.817%
国際文化学科	126	237	363	34.711%
経営学科	623	1,023	1,646	37.849%
スポーツ科学科	244	384	628	38.854%
健康科学科	96	161	257	37.354%
看護学科	212	79	291	72.852%
社会学科	192	216	408	47.059%
全 学	4,585	6,102	10,687	42.903%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	2,769	2,167	4,936	56.10%
2	1,350	2,465	3,815	35.39%
3	235	629	864	27.20%
4	228	836	1,064	21.43%

5.2　【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。［シラバス既知］

「2 シラバス内容を知っている」の回答は 81.90%であった。2025 年度前期は 81.20%、2025 年度後期は 81.97%であり、前期から 0.70 ポイント上昇したものの、後期とはほぼ同じ水準であった。最も高かったのは看護学科 91.94%であった。2025 年度後期は国際関係学科 94.05%であった。その他の学科で 90%を超えているのは、国際文化学科 90.55%の 1 学科であった。2025 年度後期は 3 学科あった。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科	1	2
日本文学科	15.625%	84.375%
中国文学科	19.298%	80.702%
英米文学科	19.495%	80.505%
教育学科	20.870%	79.130%
書道学科	19.780%	80.220%
歴史文化学科	26.087%	73.913%
社会経済学科	16.667%	83.333%
現代経済学科	16.906%	83.094%
中国語学科	14.500%	85.500%
英語学科	19.756%	80.244%
日本語学科	27.273%	72.727%
法律学科	21.097%	78.903%
政治学科	12.921%	87.079%
国際関係学科	10.370%	89.630%
国際文化学科	9.449%	90.551%
経営学科	16.186%	83.814%
スポーツ科学科	30.204%	69.796%
健康科学科	14.433%	85.567%
看護学科	8.057%	91.943%
社会学科	22.917%	77.083%
全 学	18.101%	81.899%

学年	1	2
1	18.770%	81.230%
2	18.242%	81.758%
3	15.319%	84.681%
4	12.174%	87.826%

5.3 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおよそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が最も大きい学科は国際文化学科 95.08%であった（2025 年度前期は教育学科 96.24%、2025 年度後期は中国文学科 100%）。4 と 5 の合計は 90.92%で、2025 年度前期（89.32%）より 1.60 ポイント上昇したものの、2025 年度後期（91.39%）より 0.47 ポイント低下して

いる。

変動係数をみると、2026 年度前期の学科別平均値は 16.29%であり、2025 年度前期（18.02%）より低下したものの、2025 年度後期（15.93%）よりやや上昇している。最大値は社会経済学科 19.52%、最小値は国際文化学科 13.22%で、6.29 ポイントの差があった。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	426	4.408	0.622	14.114%
中国文学科	50	4.380	0.660	15.068%
英米文学科	236	4.352	0.786	18.063%
教育学科	101	4.376	0.756	17.272%
書道学科	81	4.259	0.766	17.990%
歴史文化学科	165	4.242	0.732	17.244%
社会経済学科	251	4.367	0.852	19.516%
現代経済学科	241	4.411	0.612	13.880%
中国語学科	182	4.368	0.705	16.129%
英語学科	352	4.409	0.741	16.798%
日本語学科	134	4.396	0.743	16.911%
法律学科	197	4.360	0.738	16.934%
政治学科	167	4.401	0.675	15.340%
国際関係学科	127	4.496	0.600	13.349%
国際文化学科	122	4.443	0.587	13.222%
経営学科	559	4.385	0.713	16.265%
スポーツ科学科	206	4.214	0.802	19.041%
健康科学科	91	4.407	0.679	15.409%
看護学科	204	4.578	0.641	13.994%
社会学科	162	4.290	0.673	15.686%
全 学	4,054	4.381	0.714	16.295%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,435	4.414	0.706
2	1,198	4.311	0.738
3	208	4.428	0.616
4	210	4.367	0.726

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.235%	0.235%	5.164%	47.183%	47.183%
中国文学科	0.000%	0.000%	10.000%	42.000%	48.000%
英米文学科	0.847%	1.695%	9.322%	37.712%	50.424%
教育学科	0.000%	1.980%	10.891%	34.653%	52.475%
書道学科	1.235%	0.000%	12.346%	44.444%	41.975%
歴史文化学科	0.000%	2.424%	10.303%	47.879%	39.394%
社会経済学科	2.789%	0.398%	6.773%	37.450%	52.590%
現代経済学科	0.000%	0.415%	5.394%	46.888%	47.303%
中国語学科	0.000%	1.099%	9.890%	40.110%	48.901%
英語学科	0.852%	1.420%	5.966%	39.489%	52.273%
日本語学科	0.746%	0.746%	8.955%	37.313%	52.239%
法律学科	1.015%	1.523%	5.076%	45.178%	47.208%
政治学科	0.000%	1.198%	7.186%	41.916%	49.701%
国際関係学科	0.000%	0.000%	5.512%	39.370%	55.118%
国際文化学科	0.000%	0.000%	4.918%	45.902%	49.180%
経営学科	0.894%	0.716%	6.082%	43.649%	48.658%
スポーツ科学科	0.000%	1.942%	17.961%	36.893%	43.204%
健康科学科	0.000%	0.000%	10.989%	37.363%	51.648%
看護学科	0.490%	0.000%	5.392%	29.412%	64.706%
社会学科	0.000%	1.235%	8.642%	50.000%	40.123%
全 学	0.567%	0.888%	7.622%	41.687%	49.235%

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.452%	0.945%	7.228%	39.466%	51.910%
2	0.751%	1.085%	8.765%	45.159%	44.240%
3	0.000%	0.000%	6.731%	43.750%	49.519%
4	1.429%	0.000%	6.190%	45.238%	47.143%

5.4 【Q2】自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。［難易度適切］

「Q2：授業難易度」の回答分布状況をみると、「1 とても易しかった」2.16%（2025 年度前期 1.86%、2025 年度後期 1.57%）、「2 やや易しかった」3.98%（2025 年度前期 3.53%、2025 年度後期 2.54%）、「3 適切だった」50.12%（2025 年度前期 48.74%、2025 年度後期 51.12%）、「4 やや難しかった」32.04%（2025 年度前期 35.15%、2025 年度後期 35.02%）、「5 とても難しかった」11.71%（2025 年度前期 10.90%、2025 年度後期 9.76%）となっている。

4と5の回答割合の合計が43.74%(2025年度前期46.04%、2025年度後期44.78%)、1と2の割合の合計が6.14%（2025年度前期5.21%、2025年度後期4.11%）という結果をみると、2025 年度前期および後期と比較して、授業を「やや難しい、あるいはとても難しい」と感じている学生の割合はやや低下しているものの、依然として全学共通科目に対して難しいと感じている学生が多いと言える。一方、「適切だった」と回答した学生は50.12%であり、2025年度前期より1.38ポイント上昇している。

変動係数をみると、全学では23.97%であり、2025年度前期の22.98%、2025年度後期の 22.02%よりも上昇している。学科別の変動係数の平均値は 24.02%であり、最大値は健康科学科 29.66%、最小値は日本文学科 19.69%であった。難易度は学生の学力と深く関わることから、この数値は学科間の格差が大きく、注視する必要があるだろう。特に変動係数の平均値24.02%を下回っている学科のうち、英米文学科、書道学科、中国語学科、日本語学科などでは、5と4の合計が1と2の合計よりも著しく大きい数値を示していることから、授業内容を難しいと認識していると言える。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q2「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	481	3.399	0.669	19.685%
中国文学科	57	3.474	0.900	25.920%
英米文学科	278	3.615	0.768	21.234%
教育学科	114	3.614	0.941	26.047%
書道学科	91	3.681	0.810	22.013%
歴史文化学科	207	3.271	0.801	24.495%
社会経済学科	276	3.431	0.892	26.002%
現代経済学科	277	3.437	0.815	23.724%
中国語学科	197	3.604	0.816	22.636%
英語学科	411	3.562	0.830	23.302%
日本語学科	165	3.594	0.808	22.490%
法律学科	236	3.394	0.749	22.064%
政治学科	177	3.441	0.895	25.998%
国際関係学科	131	3.374	0.794	23.545%
国際文化学科	127	3.417	0.692	20.261%
経営学科	624	3.463	0.825	23.835%
スポーツ科学科	245	3.706	0.991	26.752%
健康科学科	97	3.175	0.942	29.658%
看護学科	212	3.344	0.966	28.887%
社会学科	192	3.396	0.743	21.872%
全 学	4,595	3.472	0.832	23.967%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,777	3.470	0.870
2	1,354	3.487	0.785
3	235	3.400	0.710
4	226	3.487	0.742

Q２「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.624%	3.534%	56.133%	34.719%	4.990%
中国文学科	3.509%	3.509%	49.123%	29.825%	14.035%
英米文学科	0.360%	2.158%	47.482%	35.612%	14.388%
教育学科	2.632%	3.509%	44.737%	28.070%	21.053%
書道学科	2.198%	0.000%	40.659%	41.758%	15.385%
歴史文化学科	2.415%	7.729%	57.488%	25.121%	7.246%
社会経済学科	3.623%	3.623%	51.812%	27.899%	13.043%
現代経済学科	2.166%	3.249%	54.513%	28.881%	11.191%
中国語学科	0.508%	4.569%	44.162%	35.533%	15.228%
英語学科	1.703%	3.650%	44.769%	36.496%	13.382%
日本語学科	1.818%	2.424%	43.030%	40.000%	12.727%
法律学科	0.847%	4.237%	58.898%	26.695%	9.322%
政治学科	3.390%	5.650%	46.328%	32.768%	11.864%
国際関係学科	0.763%	8.397%	52.672%	29.008%	9.160%
国際文化学科	0.000%	3.937%	58.268%	29.921%	7.874%
経営学科	2.083%	4.487%	49.359%	33.173%	10.897%
スポーツ科学科	4.082%	3.673%	32.653%	36.735%	22.857%
健康科学科	8.247%	3.093%	60.825%	18.557%	9.278%
看護学科	6.132%	4.245%	51.415%	25.472%	12.736%
社会学科	1.563%	3.125%	57.292%	30.208%	7.813%
全 学	2.155%	3.983%	50.120%	32.035%	11.708%

Q２「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.773%	4.393%	48.614%	31.545%	12.676%
2	1.477%	3.250%	51.034%	33.604%	10.635%
3	0.426%	4.681%	56.596%	31.064%	7.234%
4	0.442%	2.655%	55.752%	30.088%	11.062%

5.5 【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

［質問対応］

「2 質問したことがある」という回答は 13.48%であった。2025 年度前期は 13.24%、2025 年度後期は 10.65%であり、前期から 0.24 ポイント、後期から 2.83 ポイント上昇した。2 の割合が他学科に比べて最も高いのは教育学科 20.00%であった。2025 年度前期は中国語学科 23.58%、2025 年度後期も中国語学科 19.63%であった。

これに対して、「1 質問したことがない」という回答の割合は 86.52%である。2025

年度前期は 86.76%、2025 年度後期は 89.35%であった。2025 年度前期および後期と比較して、質問したことがある学生の割合はやや上昇したものの、依然として質問したことがない学生が 8 割以上を占めている。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科	1	2
日本文学科	90.397%	9.603%
中国文学科	87.500%	12.500%
英米文学科	81.949%	18.051%
教育学科	80.000%	20.000%
書道学科	85.393%	14.607%
歴史文化学科	89.268%	10.732%
社会経済学科	83.824%	16.176%
現代経済学科	89.568%	10.432%
中国語学科	86.667%	13.333%
英語学科	83.292%	16.708%
日本語学科	88.344%	11.656%
法律学科	91.915%	8.085%
政治学科	89.714%	10.286%
国際関係学科	82.707%	17.293%
国際文化学科	88.889%	11.111%
経営学科	85.668%	14.332%
スポーツ科学科	83.884%	16.116%
健康科学科	83.333%	16.667%
看護学科	86.124%	13.876%
社会学科	88.947%	11.053%
全 学	86.522%	13.478%

学年	1	2
1	85.310%	14.690%
2	89.270%	10.730%
3	87.983%	12.017%
4	83.333%	16.667%

5.6 【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。［フィードバック］

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 65.78%であった。2025 年度前期は 68.69%、2025 年度後期は 64.92%であり、昨年度の前期より 2.91 ポイント低下したものの、後期よりは 0.86 ポイント上昇した。学生は教員の対応を概ね評価していると判断できるが、なかでもその割合の合計が最も高い学科は国際文化学科 85.37%であった。2025 年度前期は書道学科 91.30%、2025 年度後期は日本語学科 80.00%であった。フィードバックの平均値は 4.02。2025 年度前期は 4.04、2025 年度後期は 4.00 であり、ほぼ同じ水準で推移している。

変動係数をみると、他の項目に比べて相対的に高い数値（24.78%）が確認された。2025 年度前期は 24.17%、2025 年度後期は 24.41%であり、今回の数値が上回っている。なかでも社会経済学科が 28.04%という高い数値であった。2025 年度前期は現代経

済学科 27.44%、2025 年度後期はスポーツ科学科 29.10%であった。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q４「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	104	3.923	0.906	23.097%
中国文学科	19	4.053	0.887	21.886%
英米文学科	111	4.162	1.009	24.250%
教育学科	50	4.020	1.029	25.606%
書道学科	25	4.040	1.076	26.641%
歴史文化学科	46	3.978	0.872	21.919%
社会経済学科	132	3.856	1.081	28.035%
現代経済学科	83	4.036	0.884	21.907%
中国語学科	77	3.844	1.058	27.513%
英語学科	175	4.017	0.910	22.655%
日本語学科	44	4.227	0.849	20.088%
法律学科	61	3.984	1.109	27.832%
政治学科	56	3.893	0.994	25.540%
国際関係学科	56	4.161	0.882	21.196%
国際文化学科	41	4.293	0.707	16.467%
経営学科	241	4.041	1.042	25.778%
スポーツ科学科	120	3.900	1.068	27.377%
健康科学科	50	3.980	1.029	25.864%
看護学科	69	4.145	1.120	27.021%
社会学科	50	4.260	0.770	18.067%
全 学	1,610	4.019	0.996	24.775%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,002	4.055	0.993
2	439	3.923	0.984
3	80	4.113	0.880
4	89	4.011	1.137

Q４「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	1.923%	39.423%	23.077%	35.577%
中国文学科	0.000%	0.000%	36.842%	21.053%	42.105%
英米文学科	2.703%	0.901%	25.225%	19.820%	51.351%
教育学科	2.000%	4.000%	28.000%	22.000%	44.000%
書道学科	4.000%	0.000%	32.000%	16.000%	48.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	39.130%	23.913%	36.957%
社会経済学科	4.545%	2.273%	32.576%	24.242%	36.364%
現代経済学科	0.000%	2.410%	30.120%	28.916%	38.554%
中国語学科	3.896%	2.597%	33.766%	24.675%	35.065%
英語学科	0.571%	0.571%	35.429%	23.429%	40.000%
日本語学科	0.000%	0.000%	27.273%	22.727%	50.000%
法律学科	4.918%	1.639%	27.869%	21.311%	44.262%
政治学科	0.000%	5.357%	39.286%	16.071%	39.286%
国際関係学科	0.000%	1.786%	26.786%	25.000%	46.429%
国際文化学科	0.000%	0.000%	14.634%	41.463%	43.902%
経営学科	3.320%	1.245%	28.631%	21.577%	45.228%
スポーツ科学科	3.333%	2.500%	35.000%	19.167%	40.000%
健康科学科	4.000%	0.000%	30.000%	26.000%	40.000%
看護学科	5.797%	2.899%	13.043%	27.536%	50.725%
社会学科	0.000%	0.000%	20.000%	34.000%	46.000%
全 学	2.236%	1.615%	30.373%	23.540%	42.236%

Q４「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.395%	1.896%	26.647%	25.948%	43.114%
2	1.595%	1.367%	38.952%	19.362%	38.724%
3	0.000%	1.250%	30.000%	25.000%	43.750%
4	5.618%	0.000%	30.337%	15.730%	48.315%

5.7 【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[学生の意欲]

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 8 割を超え（83.50%）、2025 年度前期の 79.79%、2025 年度後期の 81.87%よりも上昇しており、学生は概ね自身の熱意を評価している。5 と 4 の合計が最も高かったのは国際文化学科 90.32%で、9 割を超える学生が自身の意欲を強く認識していると言える。2025 年度前期は書道学科 88.00%、2025 年度後期は健康科学科 89.66%であった。学生熱意の

平均値は 4.14 であり、2025 年度前期の 4.06、2025 年度後期の 4.09 よりも上昇した。

変動係数に基づいて判断しても学科間の格差は明らかである。変動係数が最も高いのは社会経済学科 22.34%であった。変動係数の変動幅が 6.83 ポイント（＝最大値 22.34%－最小値 15.51%）となっており、全学共通科目に対する学生意欲・熱意のバラツキが見られた。2025 年度前期は最大値 23.90%、最小値 17.10%で変動幅は 6.81 ポイント、2025 年度後期は最大値 21.62%、最小値 16.19%で変動幅は 5.43 ポイントであった。2026 年度前期は 2025 年度後期よりもバラツキ幅が拡大しており、2025 年度前期とほぼ同じ水準となった。

4 と 5 の合計が全学平均 83.50%を下回る学科は 9 学科である

また、1 と 2 の合計が全学平均 3.31%を上回る学科は 7 学科である。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 5「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	478	4.109	0.777	18.903%
中国文学科	57	4.175	0.775	18.564%
英米文学科	278	4.241	0.789	18.593%
教育学科	115	4.261	0.711	16.692%
書道学科	90	4.089	0.877	21.459%
歴史文化学科	207	4.058	0.796	19.627%
社会経済学科	277	4.047	0.904	22.339%
現代経済学科	277	4.094	0.801	19.557%
中国語学科	200	4.075	0.755	18.517%
英語学科	409	4.152	0.840	20.234%
日本語学科	165	4.055	0.883	21.766%
法律学科	236	4.038	0.772	19.118%
政治学科	178	4.129	0.757	18.335%
国際関係学科	134	4.224	0.740	17.508%
国際文化学科	124	4.250	0.725	17.068%
経営学科	624	4.154	0.742	17.855%
スポーツ科学科	244	4.074	0.907	22.261%
健康科学科	97	4.361	0.676	15.509%
看護学科	212	4.377	0.720	16.442%
社会学科	191	4.173	0.660	15.826%
全 学	4,593	4.143	0.793	19.132%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,778	4.155	0.809
2	1,349	4.128	0.766
3	235	4.115	0.732
4	228	4.123	0.813

Q５「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.209%	3.138%	14.644%	49.582%	32.427%
中国文学科	0.000%	1.754%	17.544%	42.105%	38.596%
英米文学科	1.079%	2.518%	7.914%	48.201%	40.288%
教育学科	0.000%	1.739%	10.435%	47.826%	40.000%
書道学科	1.111%	6.667%	7.778%	51.111%	33.333%
歴史文化学科	0.483%	2.415%	18.841%	47.343%	30.918%
社会経済学科	2.166%	2.527%	18.051%	42.960%	34.296%
現代経済学科	1.083%	2.166%	14.801%	50.181%	31.769%
中国語学科	0.500%	2.000%	16.000%	52.500%	29.000%
英語学科	1.956%	1.467%	12.714%	47.188%	36.675%
日本語学科	0.606%	6.061%	14.545%	44.848%	33.939%
法律学科	0.424%	2.542%	17.797%	51.271%	27.966%
政治学科	0.000%	4.494%	9.551%	54.494%	31.461%
国際関係学科	0.000%	2.985%	9.701%	49.254%	38.060%
国際文化学科	0.806%	1.613%	7.258%	52.419%	37.903%
経営学科	0.481%	1.763%	12.821%	51.763%	33.173%
スポーツ科学科	1.230%	5.328%	14.344%	43.033%	36.066%
健康科学科	0.000%	0.000%	11.340%	41.237%	47.423%
看護学科	0.000%	1.887%	8.491%	39.623%	50.000%
社会学科	0.000%	1.047%	11.518%	56.545%	30.890%
全 学	0.718%	2.591%	13.194%	48.617%	34.879%

Q５「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.792%	2.952%	12.563%	47.336%	36.357%
2	0.519%	2.224%	13.936%	50.556%	32.765%
3	0.000%	2.128%	15.319%	51.489%	31.064%
4	1.754%	0.877%	14.474%	49.123%	33.772%

5.8 【Q6】教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員の熱意]

「Q6 教員意欲／熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合合計が 92.94%であった。全学共通科目を担当する教員の意欲や熱意は高く評価されているが、2025 年度前期は 91.94%、2025 年度後期は 93.31%であり、前期より 1.00 ポイント上昇したものの、後期より 0.37 ポイント低下した。

4 と 5 の合計は、すべての学科で 88.00%以上の高い比率を示しており、なかでも国際文化学科は 98.41%、看護学科は 97.64%であった。2025 年度前期は中国文学科

（75.51%）以外の学科が 87.00%以上であり、書道学科は 97.33%であった。2025 年度後期は国際関係学科（88.24%）以外の学科が 90%以上で、中国文学科は 96.88%であった。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の割合合計は、社会経済学科 3.60%、法律学科 3.80%であったが、その他の学科は 3.00%未満であった。2025 年度前期は社会学科 3.04%であったが、社会学科以外は 3.00%未満であった。2025 年度後期は国際関係学科以外の学科が 2.00%未満であった。

変動係数をみると、全学では 15.21%であり、2025 年度前期の 15.78%、2025 年度後期の 14.41%と比較すると、前期より低下したものの、後期よりやや上昇している。教員熱意に関して学科間の格差は生じているものの、大きな値ではなく、良い傾向と言えるだろう。ただし、社会経済学科の変動係数は 19.06%で、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。2025 年度前期は中国文学科 20.56%、2025 年度後期は国際関係学科 19.14%であった。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Ｑ６「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	480	4.548	0.647	14.225%
中国文学科	57	4.333	0.709	16.365%
英米文学科	278	4.626	0.638	13.788%
教育学科	115	4.643	0.607	13.074%
書道学科	91	4.582	0.647	14.126%
歴史文化学科	207	4.498	0.680	15.122%
社会経済学科	278	4.428	0.844	19.062%
現代経済学科	278	4.518	0.650	14.384%
中国語学科	200	4.465	0.662	14.835%
英語学科	411	4.511	0.688	15.258%
日本語学科	165	4.424	0.748	16.905%
法律学科	237	4.435	0.786	17.713%
政治学科	178	4.455	0.772	17.333%
国際関係学科	135	4.578	0.602	13.152%
国際文化学科	126	4.667	0.504	10.799%
経営学科	623	4.507	0.691	15.337%
スポーツ科学科	245	4.514	0.692	15.321%
健康科学科	97	4.536	0.643	14.179%
看護学科	212	4.759	0.526	11.059%
社会学科	192	4.458	0.691	15.498%
全 学	4,605	4.524	0.688	15.206%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,783	4.530	0.682
2	1,354	4.510	0.690
3	235	4.562	0.645
4	230	4.496	0.784

Q６「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.417%	0.625%	4.167%	33.333%	61.458%
中国文学科	0.000%	1.754%	8.772%	43.860%	45.614%
英米文学科	0.719%	0.000%	4.317%	25.899%	69.065%
教育学科	0.000%	0.870%	4.348%	24.348%	70.435%
書道学科	0.000%	1.099%	5.495%	27.473%	65.934%
歴史文化学科	0.483%	0.966%	4.831%	35.749%	57.971%
社会経済学科	2.158%	1.439%	6.115%	32.014%	58.273%
現代経済学科	0.000%	1.079%	5.396%	34.173%	59.353%
中国語学科	0.000%	1.500%	5.000%	39.000%	54.500%
英語学科	0.000%	1.217%	7.543%	30.170%	61.071%
日本語学科	0.606%	0.606%	10.303%	32.727%	55.758%
法律学科	0.844%	2.954%	4.641%	35.021%	56.540%
政治学科	0.562%	2.247%	7.303%	30.899%	58.989%
国際関係学科	0.000%	1.481%	1.481%	34.815%	62.222%
国際文化学科	0.000%	0.000%	1.587%	30.159%	68.254%
経営学科	0.321%	0.803%	7.063%	31.461%	60.353%
スポーツ科学科	0.000%	1.224%	7.755%	29.388%	61.633%
健康科学科	0.000%	1.031%	5.155%	32.990%	60.825%
看護学科	0.472%	0.000%	1.887%	18.396%	79.245%
社会学科	0.000%	2.083%	5.208%	37.500%	55.208%
全 学	0.391%	1.086%	5.581%	31.661%	61.281%

Q６「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.359%	1.150%	5.174%	31.800%	61.516%
2	0.295%	1.034%	6.425%	31.905%	60.340%
3	0.000%	0.851%	5.957%	29.362%	63.830%
4	1.739%	0.870%	5.217%	30.435%	61.739%

5.9 【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

「Q7 成長感覚」の回答結果は、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の合計は 88.23%を示し、2025 年度前期の 85.23%から 3.00 ポイント上昇したものの、2025 年度後期の 89.17%より 0.94 ポイント低下している。とはいえ、全学共通科目を通じての学びを概ね高く評価していると言える。

国際文化学科は、成長感覚に対する 4 と 5 の合計の割合が 94.49%で、最も高い数値

を示し、大半の学生が授業を通じて成長を実感しているという結果となった。2025 年度前期は書道学科 94.67%、2025 年度後期は英米文学科 93.47%であった。

変動係数の学科別平均は 17.61%であった。2025 年度前期は 18.98%、2025 年度後期は 16.87%であり、前期より低下したものの、後期よりやや上昇した。20%を超えた学科はなく、最大値は社会経済学科 19.96%、次いで中国文学科 19.94%、看護学科 19.82%、スポーツ科学科 19.75%であった。最小値は国際文化学科 13.45%であり、2025 年度前期に比べて学科間のバラツキは縮小しているものの、一定の格差が見られた。

4 と 5 の割合が全学平均 88.23%よりも低い学科は 9 学科であった。

1 と 2 の割合が全学平均 2.28%よりも高い学科は 10 学科であった。

両方の条件に該当する学科は 5 学科（中国文学科、歴史文化学科、社会経済学科、政治学科、スポーツ科学科）である。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q７「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	481	4.358	0.689	15.817%
中国文学科	57	4.281	0.853	19.935%
英米文学科	278	4.338	0.778	17.931%
教育学科	115	4.409	0.745	16.894%
書道学科	91	4.308	0.794	18.435%
歴史文化学科	207	4.251	0.783	18.420%
社会経済学科	278	4.248	0.848	19.960%
現代経済学科	278	4.299	0.745	17.327%
中国語学科	199	4.241	0.724	17.080%
英語学科	411	4.299	0.768	17.855%
日本語学科	165	4.200	0.756	18.009%
法律学科	237	4.291	0.749	17.452%
政治学科	177	4.226	0.785	18.566%
国際関係学科	135	4.437	0.706	15.903%
国際文化学科	127	4.402	0.592	13.451%
経営学科	621	4.275	0.753	17.608%
スポーツ科学科	245	4.192	0.828	19.754%
健康科学科	97	4.361	0.691	15.855%
看護学科	212	4.387	0.870	19.821%
社会学科	192	4.245	0.683	16.084%
全 学	4,603	4.297	0.761	17.721%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,782	4.289	0.769
2	1,353	4.281	0.747
3	235	4.409	0.687
4	230	4.370	0.812

Q７「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.208%	1.247%	7.277%	45.114%	46.154%
中国文学科	0.000%	5.263%	10.526%	35.088%	49.123%
英米文学科	1.079%	1.799%	7.194%	42.086%	47.842%
教育学科	0.870%	1.739%	5.217%	40.000%	52.174%
書道学科	1.099%	1.099%	10.989%	39.560%	47.253%
歴史文化学科	0.483%	1.932%	12.560%	42.029%	42.995%
社会経済学科	2.158%	0.719%	11.511%	41.367%	44.245%
現代経済学科	0.719%	1.439%	8.633%	45.683%	43.525%
中国語学科	0.000%	1.508%	12.563%	46.231%	39.698%
英語学科	0.973%	1.460%	8.759%	44.282%	44.526%
日本語学科	0.606%	0.606%	15.152%	45.455%	38.182%
法律学科	0.422%	1.266%	11.392%	42.616%	44.304%
政治学科	0.000%	3.390%	11.864%	43.503%	41.243%
国際関係学科	0.000%	2.963%	3.704%	40.000%	53.333%
国際文化学科	0.000%	0.000%	5.512%	48.819%	45.669%
経営学科	0.805%	1.127%	10.145%	45.572%	42.351%
スポーツ科学科	1.224%	2.041%	13.061%	43.673%	40.000%
健康科学科	0.000%	1.031%	9.278%	42.268%	47.423%
看護学科	2.358%	1.887%	6.132%	33.962%	55.660%
社会学科	0.000%	2.083%	7.813%	53.646%	36.458%
全 学	0.739%	1.542%	9.494%	43.754%	44.471%

Q７「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.791%	1.582%	9.813%	43.602%	44.213%
2	0.591%	1.552%	9.608%	45.676%	42.572%
3	0.000%	1.277%	7.660%	40.000%	51.064%
4	1.739%	1.304%	6.957%	38.261%	51.739%

5.10【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「10」を「100%満足」、「1」を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。

［総合満足］

「Q8 総合満足度」は、満足度の高い 10 から 8 までの割合を合計すると 72.80%となり、2025 年度前期の 70.52%と比べると 2.28 ポイント上昇している。2025 年度後期は 74.08%であり、後期と比べると 1.28 ポイント低下している。この傾向が今後も続くのか注視したい。

全学の平均値は 8.28 であり、総合的な満足度は概ね高い水準を維持していると言える。

各学科の回答割合（8〜10）は 62.30%（スポーツ科学科）から 85.82%（国際関係学科）の間に分布している。そのなかで全学平均の 72.80%を下回るのは 12 学科であった。2025 年度前期は 5 学科、2025 年度後期は 8 学科が全学平均を下回っており、今回は全学平均を下回る学科が増加した。

7〜10 に広げると全学平均は 86.89%となる。2025 年度前期の 85.19%より 1.70 ポイント上昇したものの、2025 年度後期の 89.16%より 2.27 ポイント低下している。9 割には満たないが、全体としてはまずまずの結果となる。

変動係数を用いると、全学共通科目における総合満足度に対する授業認識は、学科間に格差が生じていることが確認できる。全学の変動係数は 20.47%であり、2025 年度前期の 21.55%、2025 年度後期の 18.78%と比較すると、前期より低下したものの、後期より上昇している。最も低い数値の健康科学科 14.07%と最も高い数値のスポーツ科学科 25.64%では 11.57 ポイントの格差が生じている。2025 年度前期は日本文学科 18.39%と中国文学科 26.29%の間に 7.90 ポイント、2025 年度後期は中国文学科 10.62%と書道学科 23.07%の間に 12.45 ポイントの格差が生じており、2026 年度前期は 2025 年度前期よりも学科間のバラツキが拡大している。

【全学共通科目＜学生所属別＞】

Q８「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	479	8.248	1.602	19.423%
中国文学科	54	8.352	1.765	21.139%
英米文学科	276	8.388	1.704	20.317%
教育学科	115	8.400	1.688	20.093%
書道学科	90	8.256	1.670	20.234%
歴史文化学科	206	8.209	1.601	19.504%
社会経済学科	277	8.209	1.951	23.760%
現代経済学科	278	8.219	1.649	20.058%
中国語学科	199	8.347	1.729	20.718%
英語学科	411	8.290	1.593	19.213%
日本語学科	159	8.264	1.768	21.391%
法律学科	237	8.148	1.752	21.508%
政治学科	177	8.023	1.853	23.100%
国際関係学科	134	8.806	1.335	15.165%
国際文化学科	126	8.627	1.350	15.643%
経営学科	623	8.254	1.704	20.640%
スポーツ科学科	244	7.852	2.013	25.635%
健康科学科	96	8.865	1.247	14.065%
看護学科	212	8.594	1.673	19.462%
社会学科	192	8.167	1.452	17.777%
全 学	4,585	8.282	1.695	20.468%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,769	8.244	1.711
2	1,350	8.281	1.676
3	235	8.532	1.502
4	228	8.491	1.776

Q８「総合満足」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.209%	0.000%	0.835%	1.461%	3.340%	7.516%	15.658%	21.712%	21.503%	27.766%
中国文学科	0.000%	0.000%	1.852%	1.852%	3.704%	7.407%	16.667%	11.111%	20.370%	37.037%
英米文学科	1.449%	0.362%	0.362%	0.362%	3.623%	2.536%	14.855%	23.188%	21.377%	31.884%
教育学科	0.000%	0.870%	0.000%	1.739%	5.217%	6.957%	7.826%	22.609%	20.000%	34.783%
書道学科	1.111%	0.000%	0.000%	1.111%	5.556%	4.444%	12.222%	28.889%	17.778%	28.889%
歴史文化学科	0.485%	0.000%	0.485%	1.456%	2.913%	9.709%	12.621%	24.272%	22.816%	25.243%
社会経済学科	2.527%	0.000%	0.722%	0.361%	5.054%	6.137%	14.440%	18.773%	18.412%	33.574%
現代経済学科	0.360%	0.000%	1.079%	1.799%	3.237%	5.396%	18.705%	21.942%	18.705%	28.777%
中国語学科	0.503%	1.005%	1.005%	0.503%	3.518%	5.528%	12.563%	22.613%	20.101%	32.663%
英語学科	0.000%	0.487%	0.243%	1.703%	3.163%	6.813%	15.815%	23.358%	18.005%	30.414%
日本語学科	1.887%	0.000%	0.000%	0.629%	3.145%	6.289%	18.868%	16.981%	21.384%	30.818%
法律学科	0.844%	0.000%	0.422%	2.110%	6.751%	5.907%	11.392%	24.473%	21.519%	26.582%
政治学科	0.565%	0.000%	0.565%	2.825%	9.040%	6.780%	13.559%	22.034%	14.689%	29.944%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.493%	2.239%	0.000%	10.448%	24.627%	18.657%	42.537%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.175%	5.556%	8.730%	25.397%	22.222%	34.921%
経営学科	0.482%	0.482%	0.803%	0.963%	4.334%	7.223%	13.162%	21.990%	21.027%	29.535%
スポーツ科学科	1.230%	0.410%	1.230%	3.279%	7.787%	9.016%	14.754%	18.852%	15.164%	28.279%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.042%	4.167%	11.458%	15.625%	26.042%	41.667%
看護学科	0.472%	0.000%	1.415%	0.943%	2.830%	4.717%	10.377%	19.811%	16.981%	42.453%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.125%	3.125%	2.604%	18.750%	31.771%	18.750%	21.875%
全 学	0.632%	0.218%	0.611%	1.396%	4.166%	6.085%	14.089%	22.246%	19.738%	30.818%

Q８「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.469%	0.217%	0.722%	1.553%	4.875%	6.537%	14.012%	21.235%	20.188%	30.191%
2	0.741%	0.222%	0.593%	1.185%	3.111%	6.444%	15.556%	22.667%	18.815%	30.667%
3	0.000%	0.426%	0.000%	1.702%	3.830%	1.702%	11.064%	28.085%	17.872%	35.319%
4	2.632%	0.000%	0.000%	0.439%	2.193%	3.070%	9.649%	25.439%	21.491%	35.088%

5.11 クロス表に関する結果（全学共通科目：学生所属別）

全学共通科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表（表 1：回答数、表 2：パーセント）では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。右端の列（4＋5）に、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。なお、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため､表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表 1 に注目すると、教員熱意が高くなるにつれて、学生意欲も高くなる傾向が見てとれる。教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値（赤字：9→10→139→994→1,463）をみると、教員熱意と学生意欲の評価がともに高くなるにつれて、該当する回答数も増加していることが確認できる。

さらに、表 2 のパーセントをみると、各行の最も高い割合は 50.00%→20.00%→54.086%→68.457%→51.990%となっている。教員熱意に対する評価が高い学生ほ

ど、自身の意欲・熱意も高く評価する傾向が見られる。ただし、これらの割合は単調に上昇しているわけではないため、回答数の増加だけで両者の関係を判断することには注意が必要である。

この結果から、教員の熱意を高く評価する学生は、自身の授業に対する意欲も高く評価する傾向があると言える。これは、2025 年度の傾向と同様であり、今後も継続するものと考えられる。

表 1

●【全学共通科目<学生所属別>】クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）［回答数］

		自分意欲					合計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	9	1	5	2	1	18	3
	2 どちらかと言えばそう思わない	4	10	18	13	5	50	18
	3 どちらとも言えない	6	29	139	72	11	257	83
	4 どちらかと言えばそう思う	8	45	285	994	120	1,452	1,114
	5 強くそう思う	6	34	159	1,152	1,463	2,814	2,615
合計		33	119	606	2,233	1,600	4,591	3,833

表 2

●【全学共通科目<学生所属別>】クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）［パーセント］

		自分意欲					合計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	50.000%	5.556%	27.778%	11.111%	5.556%	100.000%	16.667%
	2 どちらかと言えばそう思わない	8.000%	20.000%	36.000%	26.000%	10.000%	100.000%	36.000%
	3 どちらとも言えない	2.335%	11.284%	54.086%	28.016%	4.280%	100.000%	32.296%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.551%	3.099%	19.628%	68.457%	8.264%	100.000%	76.722%
	5 強くそう思う	0.213%	1.208%	5.650%	40.938%	51.990%	100.000%	92.928%

5.12 相関係数表に関する結果（全学共通科目：学生所属別）

相関係数に関しては、＋0.3 以上＋0.6 未満（－0.3～－0.6）で弱い正（負）の相関関係、＋0.6 以上＋1 未満（－0.6～－1）で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数（項目）に関して、正の相関関係がみられた。

まず、全学共通科目に対する学生の「総合満足度」は、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.615 がみられ、正の相関関係の順に「学生意欲 0.553」「教員熱意 0.536」「シラバス通り 0.486」「FB 丁寧 0.433」となっている。2025 年度前期も「成長感覚」との相関係数が 0.61 と最も高く、今回もほぼ同じ水準であった。2025 年度後期は 0.57 と「やや弱かった。

一方、「学生意欲」は 2025 年度前期の 0.52 から 0.553 へ上昇し、「教員熱意」の 0.536 を上回った。これは、成長したという実感を持てるかどうかが総合満足度と最も強く関連していることを示している。2025 年度後期の相関関係は、0.56 と今回よりも高かった。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相

関関係 0.580 がみられた。その後は正の相関関係順に、「学生意欲 0.578」「シラバス通り 0.479」「FB 丁寧 0.465」と続く。2025 年度前期も「教員熱意」との相関係数が 0.58、後期が 0.57 と高かったが、今回もほぼ同じ水準であった。一方、「学生意欲」は 2025 年度前期の 0.54 から、2025 年度後期 0.57 を上回る 0.578 へ上昇しており、「教員熱意」とほぼ同じ水準となった。つまり、教員の熱意だけでなく、学生自身の意欲や熱意も「成長感覚」と密接に関連していることを示している。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、他の項目との間に 0.3 以上の相関関係はみられない。

まとめると、「教員熱意」と「学生意欲」が学生の「成長感覚」と関連し、「成長感覚」が「総合満足度」と強く関連しているという傾向が示された。特に「成長感覚」と「総合満足度」との相関係数は 2025 年度前期とほぼ同じ、後期よりはやや弱いが高い水準を維持しており、学生が授業を通じて成長を実感することと総合満足度との間には、引き続き強い関連があると言える。全学共通科目の「成長感覚」に対する学生の認識は、2026 年度前期の肯定的回答割合が 88.23%であり、高い傾向にある。

以上は、学科別で述べた傾向とも類似している。今後の授業改善において、教員の熱意を維持するとともに、学生自身の学習意欲を高め、成長を実感できる授業を展開することが求められる。

【全学共通科目】

●【全学共通科目<学生所属別>】相関係数表

		Q1b 【シラバス通り】	Q2 【難易度適切】	Q4 【FB丁寧】	Q5 【学生意欲】	Q6 【教員熱意】	Q7 【成長感覚】	Q8 【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.075	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.450	-0.039	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.422	-0.097	0.469	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.489	-0.079	0.499	0.496	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.490	-0.122	0.488	0.590	0.604	1.000	
Q8	【総合満足】	0.491	-0.225	0.476	0.527	0.573	0.646	1.000

6 全学共通科目（人文系・学生所属別）の調査結果と分析

6.1.対象科目数・対象人数・回答率

人文系科目を学生所属別に分析していく。対象科目数は 26 科目数、回答人数は 3,200 人であった。

回答率は 47.78%と、全学共通科目（以下、全共科目と表記）全体の 42.90%よりも 4.88 ポイント高い数値であった。2025 年度前期の 44.26%、2025 年度後期の 38.09%と比較しても、それぞれ 3.52 ポイント、9.69 ポイント上昇している。

回答率が最も高かったのは書道学科 71.11%であり、次いで看護学科 66.00%、日本文学科 63.73%となった。50%を超えた学科も 7 学科あった。

2025 年度前期は全体で 44.26%の回答率であり、看護学科が 64.55%と非常に高く、その他に 50%を超えた学科は 5 学科であった。2025 年度後期は全体で 38.09%、全共科目全体の 34.28%よりもやはり高かった。回答率が最も高かったのは社会学科 52.08%であり、50%を超えた学科は日本文学科、書道学科、法律学科を含む 4 学科であった。

2026 年度前期は 50%を超えた学科が 7 学科となり、2025 年度前期・後期のいずれと比較しても増加している。また、人文系科目の回答率は引き続き全共科目全体を上回っており、回答状況は改善している。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	195	111	306	63.725%
中国文学科	19	27	46	41.304%
英米文学科	114	142	256	44.531%
教育学科	30	52	82	36.585%
書道学科	32	13	45	71.111%
歴史文化学科	84	67	151	55.629%
社会経済学科	66	107	173	38.150%
現代経済学科	80	84	164	48.780%
中国語学科	61	88	149	40.940%
英語学科	161	154	315	51.111%
日本語学科	71	94	165	43.030%
法律学科	105	84	189	55.556%
政治学科	73	96	169	43.195%
国際関係学科	50	74	124	40.323%
国際文化学科	54	64	118	45.763%
経営学科	184	263	447	41.163%
スポーツ科学科	59	78	137	43.066%
健康科学科	16	23	39	41.026%
看護学科	33	17	50	66.000%
社会学科	42	33	75	56.000%
全 学	1,529	1,671	3,200	47.781%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	936	660	1,596	58.647%
2	458	698	1,156	39.619%
3	56	110	166	33.735%
4	78	201	279	27.957%

6.2 Q1a　あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

人文系科目のシラバス既知率は 82.50%と、全学共通科目全体の 81.90%よりも 0.60 ポイント高い数値であった。ただし、2025 年度前期の 83.65%、2025 年度後期の 86.56%と比較すると、それぞれ 1.15 ポイント、4.06 ポイント低下している。2025 年度前期・後期は、4 つの履修科目系の中で最も高い既知率を示していたが、2026 年度前期は 82.50%となり、わずかに低下した。

健康科学科の既知率は 100.00%であった。90%を超えた学科は 5 学科であった。2025 年度前期は中国文学科と書道学科が 100.00%、2025 年度後期は看護学科が 100.00%であった。

一方、スポーツ科学科は 67.80%と最も低く、学科間でシラバスの認知状況に差が見られた。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	13.846%	86.154%
中国文学科	15.789%	84.211%
英米文学科	18.261%	81.739%
教育学科	23.333%	76.667%
書道学科	18.750%	81.250%
歴史文化学科	23.810%	76.190%
社会経済学科	9.091%	90.909%
現代経済学科	21.250%	78.750%
中国語学科	17.742%	82.258%
英語学科	21.739%	78.261%
日本語学科	25.333%	74.667%
法律学科	21.905%	78.095%
政治学科	13.514%	86.486%
国際関係学科	7.843%	92.157%
国際文化学科	9.259%	90.741%
経営学科	13.587%	86.413%
スポーツ科学科	32.203%	67.797%
健康科学科	0.000%	100.000%
看護学科	6.061%	93.939%
社会学科	21.429%	78.571%
全 学	17.502%	82.498%

学年	1	2
1	18.385%	81.615%
2	17.391%	82.609%
3	10.714%	89.286%
4	12.500%	87.500%

6.2 Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 9 割を超えており（91.71%）、平均値も 4.39 となっている。2025 年度前期の 90.61%、2025

年度後期の 92.07%と比較すると、前期より 1.15 ポイント上昇したものの、後期より 0.31 ポイント低下している。平均値は 2025 年度前期の 4.35、2025 年度後期の 4.40 とほぼ同じ水準であり、学生は概ね授業がシラバスの記述通りに行われたと評価している。

国際文化学科は 4 と 5 の合計が 98.08%と最も高く、次いで経営学科 96.99%、社会経済学科 95.16%となっている。教育学科は、4 と 5 の合計は 73.08%にとどまり、「3 どちらとも言えない」が 26.92%を占めている。

変動係数は 15.65%であり、2025 年度前期の 16.95%、2025 年度後期の 15.94%よりも低下している。他の項目に比べて回答のバラツキは相対的に小さい。

学科別では、最も高いスポーツ科学科 21.06%と最も低い国際文化学科 11.94%の間に 9.13 ポイントの差が生じているものの、全体としてはシラバス通りの授業実施に対する評価は比較的安定している。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	175	4.371	0.599	13.710%
中国文学科	17	4.176	0.617	14.772%
英米文学科	100	4.300	0.806	18.749%
教育学科	26	4.192	0.833	19.868%
書道学科	28	4.429	0.678	15.301%
歴史文化学科	68	4.324	0.736	17.034%
社会経済学科	62	4.532	0.712	15.711%
現代経済学科	70	4.343	0.674	15.513%
中国語学科	55	4.291	0.705	16.433%
英語学科	132	4.477	0.712	15.904%
日本語学科	62	4.339	0.822	18.945%
法律学科	88	4.341	0.638	14.688%
政治学科	67	4.463	0.654	14.655%
国際関係学科	49	4.510	0.610	13.529%
国際文化学科	52	4.500	0.537	11.935%
経営学科	166	4.446	0.554	12.469%
スポーツ科学科	50	4.140	0.872	21.063%
健康科学科	16	4.500	0.612	13.608%
看護学科	33	4.455	0.700	15.720%
社会学科	35	4.429	0.645	14.570%
全 学	1,351	4.389	0.687	15.646%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	821	4.417	0.682
2	405	4.328	0.715
3	52	4.404	0.597
4	72	4.417	0.595

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.571%	4.571%	52.000%	42.857%
中国文学科	0.000%	0.000%	11.765%	58.824%	29.412%
英米文学科	1.000%	2.000%	10.000%	40.000%	47.000%
教育学科	0.000%	0.000%	26.923%	26.923%	46.154%
書道学科	0.000%	0.000%	10.714%	35.714%	53.571%
歴史文化学科	0.000%	4.412%	2.941%	48.529%	44.118%
社会経済学科	1.613%	0.000%	3.226%	33.871%	61.290%
現代経済学科	0.000%	1.429%	7.143%	47.143%	44.286%
中国語学科	0.000%	1.818%	9.091%	47.273%	41.818%
英語学科	0.758%	0.758%	6.061%	34.848%	57.576%
日本語学科	1.613%	1.613%	8.065%	38.710%	50.000%
法律学科	0.000%	1.136%	5.682%	51.136%	42.045%
政治学科	0.000%	0.000%	8.955%	35.821%	55.224%
国際関係学科	0.000%	0.000%	6.122%	36.735%	57.143%
国際文化学科	0.000%	0.000%	1.923%	46.154%	51.923%
経営学科	0.000%	0.000%	3.012%	49.398%	47.590%
スポーツ科学科	0.000%	4.000%	20.000%	34.000%	42.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	6.250%	37.500%	56.250%
看護学科	0.000%	0.000%	12.121%	30.303%	57.576%
社会学科	0.000%	0.000%	8.571%	40.000%	51.429%
全 学	0.296%	0.962%	7.032%	43.005%	48.705%

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.244%	0.974%	6.699%	41.048%	51.035%
2	0.494%	1.235%	7.901%	45.679%	44.691%
3	0.000%	0.000%	5.769%	48.077%	46.154%
4	0.000%	0.000%	5.556%	47.222%	47.222%

6.3 Q2　自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答割合の合計は 51.14%であり、2025 年度前期の 50.16%、2025 年度後期の 44.38%と比較すると、それぞれ 0.98 ポイント、6.76 ポイント上昇している。

学科別では、最小 25.00%（歴史文化学科）から最大 69.49%（スポーツ科学科）の

間に分布している（全学平均 51.14%）。2025 年度前期は最小 23.73%（歴史文化学科）から最大 67.86%（国際文化学科）、2025 年度後期は最小 23.91%（歴史文化学科）から最大 66.67%（中国文学科・教育学科）であった。

「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の回答割合の合計は 4.36%であり、2025 年度前期の 3.69%、2025 年度後期の 2.42%よりも上昇している。学科別では、最小 0.00%（教育学科・書道学科・健康科学科の 3 学科）から、最大 11.91%（歴史文化学科）の間に分布している。2025 年度前期は最小 0.00%の学科が 7 学科、最大 8.33%（教育学科）であり、2025 年度後期は最小 0.00%の学科が 6 学科、最大 5.06%（政治学科）であった。

全共科目全体の回答分布と比較すると、「3 適切だった」は全共科目全体の 50.12%に対して人文系科目は 44.50%と低く、授業を難しいと認識する学生の割合が高くなっている。特に「4 と 5」の合計が全共科目全体よりも 5 ポイント以上高い学科は、英米文学科（50.00%→62.07%）、教育学科（49.12%→65.52%）、現代経済学科（40.07%→60.00%）、中国語学科（50.76%→69.35%）、英語学科（49.88%→57.76%）、日本語学科（52.73%→58.67%）、法律学科（36.02%→44.76%）、スポーツ科学科（59.59%→69.49%）、健康科学科（27.84%→50.00%）、看護学科（38.21%→66.67%）の 10 学科であった。

一方、歴史文化学科は「3 適切だった」が 63.10%と高く、「4 と 5」の合計は 25.00%にとどまっており、他学科とは異なる結果を示している。2025 年度前期・後期も歴史文化学科は「4 と 5」の合計が最も低い学科であった。

人文系科目の授業内容を難しいと認識している学生が比較的多い。2025 年度前期・後期も同様の傾向がみられた。

変動係数は全学で 22.71%となり、2025 年度前期の 21.83%、2025 年度後期の 20.34%をいずれも上回っている。この 22.71%を下回っているのは 10 学科であった。学科別では、最も高い看護学科 30.55%と最も低い書道学科 16.84%の間に 13.71 ポイントの差が生じており、難易度に対する認識のバラツキが確認できる。

特に、教育学科・書道学科・健康科学科の 3 学科は「1 と 2」の合計が 0.00%であり、授業を易しいと認識する学生がみられなかった。そのうち教育学科では「4 と 5」の合計が 65.52%、健康科学科では 50.00%となっており、授業内容を難しいと認識する傾向が顕著である（ただし、健康科学科の回答者数は 16 名と少なく、結果の解釈には留意が必要である）。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	196	3.418	0.630	18.418%
中国文学科	19	3.474	0.678	19.521%
英米文学科	116	3.776	0.778	20.599%
教育学科	29	3.897	0.759	19.469%
書道学科	32	3.594	0.605	16.839%
歴史文化学科	84	3.179	0.693	21.797%
社会経済学科	66	3.591	0.887	24.708%
現代経済学科	80	3.763	0.884	23.490%
中国語学科	62	3.839	0.745	19.401%
英語学科	161	3.714	0.784	21.097%
日本語学科	75	3.707	0.796	21.481%
法律学科	105	3.495	0.818	23.402%
政治学科	73	3.521	0.923	26.223%
国際関係学科	51	3.549	0.847	23.879%
国際文化学科	54	3.463	0.738	21.317%
経営学科	184	3.576	0.844	23.589%
スポーツ科学科	59	3.949	0.946	23.965%
健康科学科	16	3.813	0.882	23.126%
看護学科	33	3.818	1.167	30.553%
社会学科	42	3.357	0.610	18.179%
全 学	1,537	3.599	0.817	22.713%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	940	3.615	0.857
2	460	3.587	0.763
3	56	3.375	0.643
4	80	3.650	0.726

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	3.061%	56.633%	35.714%	4.592%
中国文学科	0.000%	5.263%	47.368%	42.105%	5.263%
英米文学科	0.862%	0.862%	36.207%	43.966%	18.103%
教育学科	0.000%	0.000%	34.483%	41.379%	24.138%
書道学科	0.000%	0.000%	46.875%	46.875%	6.250%
歴史文化学科	0.000%	11.905%	63.095%	20.238%	4.762%
社会経済学科	3.030%	3.030%	40.909%	37.879%	15.152%
現代経済学科	1.250%	3.750%	35.000%	37.500%	22.500%
中国語学科	0.000%	3.226%	27.419%	51.613%	17.742%
英語学科	0.621%	1.863%	39.752%	40.994%	16.770%
日本語学科	1.333%	1.333%	38.667%	42.667%	16.000%
法律学科	0.952%	5.714%	48.571%	32.381%	12.381%
政治学科	4.110%	2.740%	45.205%	32.877%	15.068%
国際関係学科	1.961%	3.922%	45.098%	35.294%	13.725%
国際文化学科	0.000%	3.704%	57.407%	27.778%	11.111%
経営学科	2.174%	2.717%	44.565%	36.413%	14.130%
スポーツ科学科	3.390%	0.000%	27.119%	37.288%	32.203%
健康科学科	0.000%	0.000%	50.000%	18.750%	31.250%
看護学科	9.091%	0.000%	24.242%	33.333%	33.333%
社会学科	0.000%	2.381%	64.286%	28.571%	4.762%
全 学	1.301%	3.058%	44.502%	36.695%	14.444%

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.915%	3.511%	41.383%	37.553%	15.638%
2	0.435%	2.609%	47.826%	36.087%	13.043%
3	0.000%	3.571%	60.714%	30.357%	5.357%
4	0.000%	0.000%	50.000%	35.000%	15.000%

6.5 Q3　あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

「質問したことがある」と答えた割合は 13.98%で、全共科目全体の 13.48%と比べると 0.50 ポイント高い結果となった。2025 年度前期の 12.92%、2025 年度後期の 10.00%と比較すると、それぞれ 1.06 ポイント、3.98 ポイント上昇している。2025 年度前期は

全共科目全体の 13.24%を下回っていたが、2026 年度前期は全共科目全体を上回る結果となった。

学科別にみると、最も高かったのは健康科学科 37.50%であり、次いで国際関係学科 20.41%、書道学科 18.75%、看護学科 18.75%、経営学科 18.48%となっている。ただし、健康科学科は回答者数が 16 名と少なく、この点は留意すべきであろう。

一方、中国文学科の「質問したことがある」割合は 0.00%であり、2025 年度前期も同学科は 0.00%であった。2025 年度後期は社会経済学科が 2.15%と最も低かった。2026 年度前期の中国文学科は回答者数が 19 名であり、2025 年度前期の 10 名以下から増加しているものの、質問経験のある学生がみられなかったことになる。

全体としては、2025 年度前期・後期よりも質問経験のある学生の割合が上昇しているが、依然として約 86%の学生が「質問したことがない」と回答している。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q３「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	89.796%	10.204%
中国文学科	100.000%	0.000%
英米文学科	82.609%	17.391%
教育学科	90.000%	10.000%
書道学科	81.250%	18.750%
歴史文化学科	92.771%	7.229%
社会経済学科	84.615%	15.385%
現代経済学科	88.750%	11.250%
中国語学科	90.000%	10.000%
英語学科	81.761%	18.239%
日本語学科	85.333%	14.667%
法律学科	93.204%	6.796%
政治学科	89.041%	10.959%
国際関係学科	79.592%	20.408%
国際文化学科	86.792%	13.208%
経営学科	81.522%	18.478%
スポーツ科学科	83.051%	16.949%
健康科学科	62.500%	37.500%
看護学科	81.250%	18.750%
社会学科	88.095%	11.905%
全 学	86.024%	13.976%

学年	1	2
1	84.871%	15.129%
2	88.403%	11.597%
3	85.714%	14.286%
4	85.897%	14.103%

6.6 Q4　質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」を回答した比率の合計は 67.60%であり、2025 年度前期の 68.01%と比較すると 0.41 ポイント低下したものの、2025 年

度後期の 63.54%より 4.06 ポイント上昇している。授業内容の認識に関するフィードバックの平均値は 4.06 であり、全共科目全体の肯定的回答割合 65.78%を 1.82 ポイント上回っている。

全共科目全体では、「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計が 0.00%の学科は、5 学科であった。これに対して、人文系科目に限定すると 11 学科となり、全共科目全体よりも多くなっている。2025 年度前期は 12 学科、2025 年度後期も 12 学科であった。今回はわずかに減少したものの、教員の対応への適切さは依然として高い。

一方、変動係数は 23.35%であり、全共科目全体の 24.78%より低い数値となっている。学科別では、最も高いスポーツ科学科 32.37%と最も低い国際文化学科 14.90%の間に 17.47 ポイントの差が生じており、教員の対応に対する認識には学科間で一定のバラツキがみられる。特に、スポーツ科学科では「4 と 5」の合計が 48.15%にとどまっており、他学科と比較して相対的に低い評価となっている。ただし、Q4 は教員に質問した学生を対象とする設問であり、学科によって回答者数が少ない。結果の解釈には留意が必要である。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	40	3.925	0.905	23.062%
中国文学科	8	3.750	0.829	22.111%
英米文学科	49	4.224	0.887	20.991%
教育学科	12	4.083	0.862	21.110%
書道学科	9	4.222	0.916	21.701%
歴史文化学科	16	4.000	0.791	19.764%
社会経済学科	25	3.680	1.009	27.412%
現代経済学科	28	3.929	0.799	20.328%
中国語学科	25	3.640	0.975	26.783%
英語学科	79	4.114	0.842	20.461%
日本語学科	21	4.143	0.833	20.107%
法律学科	30	3.900	1.165	29.866%
政治学科	23	4.000	0.978	24.450%
国際関係学科	22	4.182	0.886	21.189%
国際文化学科	21	4.429	0.660	14.899%
経営学科	68	4.235	0.909	21.472%
スポーツ科学科	27	3.593	1.163	32.372%
健康科学科	9	4.556	1.257	27.594%
看護学科	12	4.500	0.764	16.973%
社会学科	10	4.400	0.800	18.182%
全 学	534	4.060	0.948	23.354%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	335	4.078	0.946
2	153	4.026	0.942
3	18	4.278	0.870
4	28	3.893	1.012

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.500%	37.500%	25.000%	35.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	50.000%	25.000%	25.000%
英米文学科	0.000%	2.041%	24.490%	22.449%	51.020%
教育学科	0.000%	0.000%	33.333%	25.000%	41.667%
書道学科	0.000%	0.000%	33.333%	11.111%	55.556%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	31.250%	37.500%	31.250%
社会経済学科	4.000%	4.000%	36.000%	32.000%	24.000%
現代経済学科	0.000%	0.000%	35.714%	35.714%	28.571%
中国語学科	4.000%	0.000%	48.000%	24.000%	24.000%
英語学科	0.000%	0.000%	30.380%	27.848%	41.772%
日本語学科	0.000%	0.000%	28.571%	28.571%	42.857%
法律学科	6.667%	3.333%	23.333%	26.667%	40.000%
政治学科	0.000%	4.348%	34.783%	17.391%	43.478%
国際関係学科	0.000%	0.000%	31.818%	18.182%	50.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	9.524%	38.095%	52.381%
経営学科	1.471%	0.000%	23.529%	23.529%	51.471%
スポーツ科学科	7.407%	3.704%	40.741%	18.519%	29.630%
健康科学科	11.111%	0.000%	0.000%	0.000%	88.889%
看護学科	0.000%	0.000%	16.667%	16.667%	66.667%
社会学科	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	60.000%
全 学	1.498%	1.124%	29.775%	25.094%	42.509%

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.493%	1.791%	26.866%	27.164%	42.687%
2	1.307%	0.000%	35.294%	21.569%	41.830%
3	0.000%	0.000%	27.778%	16.667%	55.556%
4	3.571%	0.000%	35.714%	25.000%	35.714%

6.7 Q5　あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 84.68%であり、2025 年度前期の 79.65%、2025 年度後期の 82.79%と比較すると、それぞれ

5.03 ポイント、1.89 ポイント上昇している。学生は自身の熱意を概ね高く認識している。

学生熱意の平均値は 4.13 であり、2025 年度前期の 4.06 よりも上昇している。全共科目全体と比較しても、4 と 5 の合計は全共科目全体の 83.50%を 1.18 ポイント上回っており、人文系科目に対する学生の意欲は比較的高い水準にある。

全共科目全体の回答分布と比較すると、「3 どちらとも言えない」の割合が減少し、「4 どちらかと言えばそう思う」の割合が増加している学科は、14 学科であった。なかでも、教育学科は「4」の割合が全共科目全体の 47.83%から人文系科目の 70.00%へ、書道学科は 51.11%から 56.25%へ上昇している。所属学科に関わらず、学生は人文系科目に真面目に取り組んだことがうかがえる。

その一方で、「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の割合の合計が全共科目全体よりも高くなっている学科は、中国文学科（1.75%→5.26%）、英米文学科（3.60%→4.31%）、現代経済学科（3.25%→3.75%）、中国語学科（2.50%→6.45%）、英語学科（3.42%→3.73%）、日本語学科（6.67%→8.00%）、国際文化学科（2.42%→3.92%）の 7 学科であった。特に日本語学科は 8.00%、中国語学科は 6.45%と相対的に高い数値を示している。2025 年度前期も日本語学科が 9.09%と高く、2025 年度後期は中国文学科 16.67%、書道学科 13.64%と高い値を示した。

変動係数は 18.42%であり、全共科目全体の 19.13%よりも低い数値となっている。学科別では、最も高い中国文学科 21.89%と最も低い書道学科 12.45%の間に 9.44 ポイントの差が生じているものの、全体としては人文系科目に対する学生の意欲・熱意は高く、学科間のバラツキも比較的小さい。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	195	4.164	0.726	17.432%
中国文学科	19	4.053	0.887	21.886%
英米文学科	116	4.198	0.843	20.080%
教育学科	30	4.100	0.539	13.135%
書道学科	32	4.375	0.545	12.454%
歴史文化学科	84	4.095	0.766	18.695%
社会経済学科	66	4.152	0.857	20.645%
現代経済学科	80	4.063	0.827	20.352%
中国語学科	62	3.919	0.829	21.148%
英語学科	161	4.068	0.850	20.886%
日本語学科	75	4.013	0.872	21.720%
法律学科	104	4.038	0.692	17.143%
政治学科	74	4.135	0.644	15.563%
国際関係学科	51	4.294	0.666	15.498%
国際文化学科	51	4.137	0.715	17.271%
経営学科	184	4.120	0.665	16.142%
スポーツ科学科	59	4.153	0.820	19.736%
健康科学科	16	4.438	0.704	15.872%
看護学科	33	4.242	0.605	14.250%
社会学科	42	4.310	0.636	14.753%
全 学	1,534	4.128	0.760	18.421%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	941	4.134	0.769
2	457	4.127	0.758
3	56	4.071	0.703
4	79	4.101	0.704

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	3.077%	10.256%	53.846%	32.821%
中国文学科	0.000%	5.263%	21.053%	36.842%	36.842%
英米文学科	2.586%	1.724%	6.897%	50.862%	37.931%
教育学科	0.000%	0.000%	10.000%	70.000%	20.000%
書道学科	0.000%	0.000%	3.125%	56.250%	40.625%
歴史文化学科	1.190%	1.190%	14.286%	53.571%	29.762%
社会経済学科	1.515%	1.515%	16.667%	40.909%	39.394%
現代経済学科	1.250%	2.500%	16.250%	48.750%	31.250%
中国語学科	0.000%	6.452%	19.355%	50.000%	24.194%
英語学科	2.484%	1.242%	14.286%	50.932%	31.056%
日本語学科	1.333%	6.667%	9.333%	54.667%	28.000%
法律学科	0.000%	1.923%	16.346%	57.692%	24.038%
政治学科	0.000%	1.351%	10.811%	60.811%	27.027%
国際関係学科	0.000%	0.000%	11.765%	47.059%	41.176%
国際文化学科	0.000%	3.922%	7.843%	58.824%	29.412%
経営学科	0.000%	1.630%	11.957%	59.239%	27.174%
スポーツ科学科	0.000%	3.390%	16.949%	40.678%	38.983%
健康科学科	0.000%	0.000%	12.500%	31.250%	56.250%
看護学科	0.000%	0.000%	9.091%	57.576%	33.333%
社会学科	0.000%	0.000%	9.524%	50.000%	40.476%
全 学	0.717%	2.216%	12.386%	52.934%	31.747%

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.063%	2.019%	11.371%	53.560%	31.987%
2	0.219%	2.845%	13.348%	51.204%	32.385%
3	0.000%	3.571%	10.714%	60.714%	25.000%
4	0.000%	0.000%	20.253%	49.367%	30.380%

6.8 Q6　教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員の熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が９割を超えており（94.47%）、2025 年度前期の 94.11%と比較すると 0.36 ポイント上昇した。2025 年度後期の 94.54%とほぼ同じ水準である。多くの学生が教員の熱意を感じている。教員の熱意に関する全学平均値は 4.55 であり、2025 年度前期の 4.57、2025 年度

後期の 4.58 と比較すると、わずかに低下しているが、依然として高い水準を維持している。また、全共科目全体の 4 と 5 の合計 92.94%を 1.53 ポイント上回っており、人文系科目を担当する教員の熱意は高い。

ただし、「1 まったくそう思わない」は大半の学科が 0.00%であるのに対し、日本語学科 1.33%、政治学科 1.35%、社会経済学科 1.52%、歴史文化学科 1.19%、英米文学科 0.86%が相対的に高い。2025 年度前期は日本語学科 2.27%、2025 年度後期は書道学科 4.55%、国際関係学科 5.13%が相対的に高い数値であった。2026 年度前期の全学平均は 0.33%であり、否定的な回答は減っている。

「2 どちらかと言えばそう思わない」は大半の学科が 2.00%未満であるが、健康科学科は 6.25%、社会学科は 2.38%を示し、他学科に比べて高い数値である。ただし、健康科学科の回答者数は 16 名と少なく、この点には留意が必要であろう。2025 年度前期は中国文学科 12.50%、2025 年度後期は政治学科 2.53%が最も高かったことと比較すれば、否定的な回答の割合は全体として低い水準にある。

変動係数は 14.19%であり、全共科目全体の 15.21%よりも低い数値となっている。学科別では、最も高い社会学科 17.17%と最も低い書道学科 8.65%の間に 8.52 ポイントの差が生じているが、他の質問項目と比較するとバラツキは小さい。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	196	4.607	0.557	12.084%
中国文学科	19	4.316	0.567	13.135%
英米文学科	116	4.612	0.667	14.453%
教育学科	30	4.467	0.670	15.000%
書道学科	32	4.781	0.413	8.646%
歴史文化学科	84	4.476	0.698	15.599%
社会経済学科	66	4.515	0.744	16.467%
現代経済学科	80	4.563	0.668	14.639%
中国語学科	62	4.435	0.638	14.385%
英語学科	161	4.571	0.628	13.730%
日本語学科	75	4.400	0.748	17.008%
法律学科	105	4.476	0.649	14.493%
政治学科	74	4.486	0.721	16.074%
国際関係学科	51	4.725	0.563	11.911%
国際文化学科	53	4.698	0.459	9.772%
経営学科	184	4.543	0.606	13.346%
スポーツ科学科	59	4.542	0.646	14.228%
健康科学科	16	4.625	0.781	16.878%
看護学科	33	4.667	0.586	12.558%
社会学科	42	4.429	0.760	17.171%
全 学	1,538	4.549	0.645	14.188%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	942	4.557	0.617
2	459	4.519	0.687
3	56	4.661	0.544
4	80	4.563	0.772

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.510%	2.041%	33.673%	63.776%
中国文学科	0.000%	0.000%	5.263%	57.895%	36.842%
英米文学科	0.862%	0.000%	5.172%	25.000%	68.966%
教育学科	0.000%	0.000%	10.000%	33.333%	56.667%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	21.875%	78.125%
歴史文化学科	1.190%	0.000%	4.762%	38.095%	55.952%
社会経済学科	1.515%	0.000%	6.061%	30.303%	62.121%
現代経済学科	0.000%	1.250%	6.250%	27.500%	65.000%
中国語学科	0.000%	1.613%	3.226%	45.161%	50.000%
英語学科	0.000%	0.621%	5.590%	29.814%	63.975%
日本語学科	1.333%	0.000%	8.000%	38.667%	52.000%
法律学科	0.000%	1.905%	2.857%	40.952%	54.286%
政治学科	1.351%	0.000%	5.405%	35.135%	58.108%
国際関係学科	0.000%	1.961%	0.000%	21.569%	76.471%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	30.189%	69.811%
経営学科	0.000%	0.000%	5.978%	33.696%	60.326%
スポーツ科学科	0.000%	1.695%	3.390%	33.898%	61.017%
健康科学科	0.000%	6.250%	0.000%	18.750%	75.000%
看護学科	0.000%	0.000%	6.061%	21.212%	72.727%
社会学科	0.000%	2.381%	9.524%	30.952%	57.143%
全 学	0.325%	0.650%	4.551%	32.705%	61.769%

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.212%	0.531%	3.822%	34.183%	61.253%
2	0.436%	0.654%	6.536%	31.373%	61.002%
3	0.000%	0.000%	3.571%	26.786%	69.643%
4	1.250%	2.500%	2.500%	26.250%	67.500%

6.9 Q7　この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 88.81%であり、2025 年度後期の 89.40%と比較すると 0.59 ポイント低下したものの、依然として高い水準を維持している。成長感覚の平均値は 4.28 であり、全学共通科目全

体の平均値 4.30 とほぼ同水準であった。

学科別に「4」と「5」の回答割合の合計をみると、最も高かったのは国際文化学科の 96.30%であり、次いで書道学科の 93.75%、国際関係学科の 94.12%、日本文学科の 92.35%、英米文学科の 92.24%である。一方、中国語学科は 80.33%、看護学科は 72.73%であり、学科間で一定の相違が確認された。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答割合の合計は 2.93%であった。書道学科と国際文化学科では「1 と 2」の合計が 0.00%となっており、成長を実感していない学生はみられなかった。一方、看護学科では「1 と 2」の合計が 18.18%となり、他学科と比較して高い割合を示した。ただし、看護学科の回答者数は 33 名である。結果の解釈には留意が必要である。

変動係数をみると、全学平均は 18.00%であり、2025 年度後期の 17.30%と比較すると 0.70 ポイント上昇した。学科別では、看護学科が 32.99%と最も高く、次いで現代経済学科 20.28%、中国文学科 19.76%、健康科学科 19.47%、英米文学科 19.32%、スポーツ科学科 19.13%、社会経済学科 18.99%、日本語学科 18.67%などが全学平均を上回っている。特に看護学科は、平均値が 3.79 と全学平均 4.28 を下回り、変動係数も他学科に比べて著しく高いことから、成長感覚に対する学生の評価に大きなバラツキがみられる。

人文系科目における学生の成長感覚は全体として高い水準にあり、2025 年度後期とほぼ同様の傾向が確認された。ただし、一部の学科では成長感覚に対する評価が分散しており、学生の学修成果の実感には学科間で相違がみられる。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	196	4.388	0.672	15.317%
中国文学科	19	4.211	0.832	19.764%
英米文学科	116	4.276	0.826	19.321%
教育学科	30	4.200	0.748	17.817%
書道学科	32	4.531	0.612	13.497%
歴史文化学科	84	4.333	0.729	16.828%
社会経済学科	66	4.348	0.826	18.986%
現代経済学科	80	4.313	0.875	20.280%
中国語学科	61	4.049	0.711	17.564%
英語学科	161	4.298	0.771	17.937%
日本語学科	75	4.133	0.772	18.671%
法律学科	105	4.305	0.692	16.070%
政治学科	73	4.164	0.722	17.331%
国際関係学科	51	4.451	0.666	14.965%
国際文化学科	54	4.426	0.564	12.753%
経営学科	184	4.266	0.752	17.618%
スポーツ科学科	59	4.136	0.791	19.127%
健康科学科	16	4.438	0.864	19.465%
看護学科	33	3.788	1.249	32.985%
社会学科	42	4.262	0.758	17.781%
全 学	1,537	4.280	0.770	17.996%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	940	4.284	0.759
2	460	4.230	0.804
3	56	4.500	0.567
4	80	4.350	0.792

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	1.531%	6.122%	44.388%	47.959%
中国文学科	0.000%	5.263%	10.526%	42.105%	42.105%
英米文学科	2.586%	1.724%	3.448%	50.000%	42.241%
教育学科	0.000%	3.333%	10.000%	50.000%	36.667%
書道学科	0.000%	0.000%	6.250%	34.375%	59.375%
歴史文化学科	1.190%	0.000%	8.333%	45.238%	45.238%
社会経済学科	1.515%	1.515%	9.091%	36.364%	51.515%
現代経済学科	1.250%	3.750%	8.750%	35.000%	51.250%
中国語学科	0.000%	1.639%	18.033%	54.098%	26.230%
英語学科	1.242%	1.242%	8.075%	45.342%	44.099%
日本語学科	1.333%	1.333%	12.000%	53.333%	32.000%
法律学科	0.000%	0.952%	10.476%	45.714%	42.857%
政治学科	0.000%	1.370%	15.068%	49.315%	34.247%
国際関係学科	0.000%	1.961%	3.922%	41.176%	52.941%
国際文化学科	0.000%	0.000%	3.704%	50.000%	46.296%
経営学科	0.543%	2.717%	7.065%	48.913%	40.761%
スポーツ科学科	0.000%	5.085%	10.169%	50.847%	33.898%
健康科学科	0.000%	6.250%	6.250%	25.000%	62.500%
看護学科	9.091%	9.091%	9.091%	39.394%	33.333%
社会学科	0.000%	4.762%	4.762%	50.000%	40.476%
全 学	0.846%	2.082%	8.263%	45.869%	42.941%

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.851%	1.809%	8.085%	46.596%	42.660%
2	0.870%	2.826%	9.783%	45.435%	41.087%
3	0.000%	0.000%	3.571%	42.857%	53.571%
4	1.250%	2.500%	5.000%	42.500%	48.750%

9.10 Q8　すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

【総合満足】

学科別の平均値は 8.17 である。2025 年度後期の 8.30 からほぼ横ばいで、高い数値である。満足度の高い「10」から「8」までの回答割合の合計は 71.29%であり、約 7 割

の学生が人文系科目に対して総合的に高い満足度を示している。2025 年度後期の 72.77%と比較すると 3.12 ポイント減少しているものの、依然として高い値である。

中位の「7」から「5」までの回答割合の合計は 25.25%であり、2025 年度後期の 25.43%と比較してほぼ横ばいである。満足度の低い「1 から 3」までの回答割合の合計は 1.96%であり、2025 年度後期の 1.17%から 0.79 ポイント増加しているが、人文系科目に対する満足度は依然として高い水準を維持している。

変動係数を用いて総合満足度を判断すると、次のように説明できる。まず、変動係数の全学平均値は 21.42%であり、これを上回り、回答のバラツキが相対的に大きい学科は 8 学科であった。これらの学科では、満足度に対する回答が各点に分散しており、学生間で授業に対する評価に相違がみられる。

2025 年度後期に変動係数が 20%を超えたのは 7 学科であった。2026 年度前期は看護学科の変動係数が最も高かったが」、32.32%から 27.20%へと低下している。一方、スポーツ科学科は 22.01%から 25.61%へ、中国語学科は 21.48%から 24.64%へと上昇しており、回答のバラツキが拡大している。

次に、変動係数が全学平均値を下回った学科は、12 学科であった。特に国際関係学科は、変動係数が 14.36%と最も低く、平均値も 8.88 と最も高い数値を示しており、学生の満足度が高い水準に集中していると言える。また、書道学科、中国文学科、国際文化学科、健康科学科も平均値が高く、変動係数が比較的小さいことから、総合満足度に対する評価が比較的安定していると考えられる。ただし、中国文学科と健康科学科は回答者数がそれぞれ 19 名、16 名と少ないため、結果の解釈には留意が必要である。

2025 年度後期には、中国文学科、英米文学科、現代経済学科、日本語学科、法律学科、健康科学科などで回答のバラツキが比較的小さかったが、2026 年度前期には国際関係学科、書道学科、中国文学科、国際文化学科などで変動係数が低くなっている。特に国際関係学科は、2025 年度後期の 24.17%から 2026 年度前期の 14.36%へと大きく低下しており、回答のバラツキが縮小したことが確認できる。

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	195	8.292	1.553	18.729%
中国文学科	19	8.579	1.350	15.737%
英米文学科	114	8.053	2.085	25.895%
教育学科	30	7.667	1.938	25.277%
書道学科	32	8.625	1.269	14.709%
歴史文化学科	84	8.202	1.653	20.154%
社会経済学科	66	8.470	1.794	21.183%
現代経済学科	80	7.925	1.902	24.006%
中国語学科	61	7.885	1.943	24.636%
英語学科	161	8.186	1.713	20.925%
日本語学科	71	7.972	1.768	22.179%
法律学科	105	8.190	1.568	19.145%
政治学科	73	7.877	1.916	24.320%
国際関係学科	50	8.880	1.275	14.358%
国際文化学科	54	8.426	1.435	17.031%
経営学科	184	8.141	1.639	20.133%
スポーツ科学科	59	7.610	1.949	25.606%
健康科学科	16	8.750	1.521	17.379%
看護学科	33	7.879	2.143	27.196%
社会学科	42	8.381	1.745	20.822%
全 学	1,529	8.165	1.749	21.424%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	936	8.137	1.749
2	458	8.124	1.796
3	56	8.571	1.425
4	78	8.449	1.622

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	1.026%	1.538%	3.590%	7.179%	10.769%	25.128%	25.128%	25.641%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.263%	26.316%	10.526%	21.053%	36.842%
英米文学科	3.509%	0.877%	0.877%	0.000%	5.263%	1.754%	18.421%	21.930%	17.544%	29.825%
教育学科	0.000%	3.333%	0.000%	3.333%	6.667%	13.333%	10.000%	23.333%	23.333%	16.667%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.125%	3.125%	9.375%	28.125%	25.000%	31.250%
歴史文化学科	1.190%	0.000%	0.000%	1.190%	3.571%	8.333%	13.095%	22.619%	26.190%	23.810%
社会経済学科	1.515%	0.000%	0.000%	0.000%	4.545%	7.576%	12.121%	19.697%	10.606%	43.939%
現代経済学科	1.250%	0.000%	1.250%	2.500%	5.000%	11.250%	15.000%	21.250%	15.000%	27.500%
中国語学科	0.000%	3.279%	1.639%	0.000%	8.197%	6.557%	11.475%	24.590%	22.951%	21.311%
英語学科	0.000%	1.242%	0.000%	3.727%	2.484%	6.832%	12.422%	26.708%	18.634%	27.950%
日本語学科	2.817%	0.000%	0.000%	0.000%	1.408%	7.042%	28.169%	18.310%	21.127%	21.127%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.905%	7.619%	5.714%	9.524%	28.571%	22.857%	23.810%
政治学科	1.370%	0.000%	1.370%	0.000%	12.329%	5.479%	13.699%	27.397%	10.959%	27.397%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.000%	0.000%	16.000%	20.000%	14.000%	48.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.556%	7.407%	7.407%	25.926%	25.926%	27.778%
経営学科	0.000%	0.543%	1.630%	1.087%	3.804%	7.065%	14.674%	23.913%	24.457%	22.826%
スポーツ科学科	1.695%	0.000%	1.695%	1.695%	6.780%	15.254%	18.644%	18.644%	13.559%	22.034%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	6.250%	6.250%	12.500%	25.000%	43.750%
看護学科	0.000%	0.000%	6.061%	3.030%	6.061%	9.091%	15.152%	15.152%	9.091%	36.364%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	9.524%	0.000%	0.000%	11.905%	23.810%	21.429%	33.333%
全 学	0.719%	0.458%	0.785%	1.504%	4.644%	6.736%	13.865%	23.414%	20.275%	27.600%

【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.534%	0.534%	0.962%	1.389%	5.342%	6.410%	14.423%	23.077%	20.406%	26.923%
2	1.092%	0.437%	0.655%	1.747%	3.712%	8.297%	14.192%	22.489%	19.869%	27.511%
3	0.000%	0.000%	0.000%	1.786%	3.571%	1.786%	10.714%	26.786%	21.429%	33.929%
4	1.282%	0.000%	0.000%	1.282%	2.564%	5.128%	7.692%	29.487%	20.513%	32.051%

6.11 クロス表に関する結果(人文系)

人文系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表(表 1：回答数、表 2：パーセント)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に 4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表 1 に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、右端の列の数字(2→4→16→326→880)から、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことが顕著になる。

教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値(赤字：1→2→55→296→427)からも互いに上昇していることを確認できる。この結果から、学生が教員の熱意を感じるよ

うになると、自分自身の意欲も強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

●【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［回答数］

		学生意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	2	0	1	1	1	5	2
	2 どちらかと言えばそう思わない	1	1	5	3	0	10	3
	3 どちらとも言えない	2	6	38	23	1	70	24
	4 どちらかと言えばそう思う	4	16	92	354	35	501	389
	5 強くそう思う	2	11	54	431	450	948	881
合 計		11	34	190	812	487	1,534	1299

表 2

●【 全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［パーセント］

		学生意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	40.000%	0.000%	20.000%	20.000%	20.000%	100.000%	40.000%
	2 どちらかと言えばそう思わない	10.000%	10.000%	50.000%	30.000%	0.000%	100.000%	30.000%
	3 どちらとも言えない	2.857%	8.571%	54.286%	32.857%	1.429%	100.000%	34.286%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.798%	3.194%	18.363%	70.659%	6.986%	100.000%	77.645%
	5 強くそう思う	0.211%	1.160%	5.696%	45.464%	47.468%	100.000%	92.932%

6.12　相関係数表に関する結果(人文系)

相関係数に関しては、＋0.3 以上＋0.6 未満（－0.3～－0.6）で弱い正（負）の相関関係、＋0.6 以上＋1 未満（－0.6～－1）で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の　すべての変数（項目）に関して、正の相関関係がみられた。

まず、人文系科目に対する学生の「総合満足度」は、特に「成長感覚」との間に強い正の相関関係 0.609 がみられ、正の相関関係の強い順に「学生意欲 0.544」「教員熱意 0.524」「シラバス通り 0.428」「FB 丁寧 0.427」となっている。これは、成長したという実感を持てるかどうかが、総合満足度の向上と最も強く関連していることを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「学生意欲」との間に弱い正の相関関係 0.568 がみられた。その後は正の相関関係の強い順に、「教員熱意 0.538」「シラバス通り 0.440」「FB 丁寧 0.440」と続く。つまり、学生自身が意欲や熱意を持って授業に取り組んでいるかどうかが、「成長感覚」の向上と比較的強く関連していることを示している。

また、「教員熱意」と「学生意欲」との間にも弱い正の相関関係 0.469 がみられた。教員の熱意を高く評価している学生ほど、自身の学習意欲も高く評価する傾向が確認できる。この結果は、先に示したクロス表の分析結果とも一致している。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、他の項目との間には

相関関係がみられない.。しかし、人文系では、この Q2（難易度適切）において 4 と 5 の合計が 51.14%で、昨年度後期 44.38%と比較しても「難しい」と感じる学生が増加しているにもかかわらず、教員熱意や学生の意欲、成長感覚は高い水準を維持している。このことは、単に難しいから満足度が下がるのではなく、授業を通して成長を実感することが満足度につながっている可能性がある。このことは、授業を組み立てる際の一つのヒントになると思われる。

まとめると、人文系科目では、「教員熱意」と「学生意欲」との間に正の相関関係がみられ、特に「学生意欲」が「成長感覚」と比較的強く関連し、「成長感覚」が「総合満足度」と強い相関関係にあることが示された。全学共通科目全体の分析と同様に、「成長感覚」が総合満足度と最も強く関連している点は共通している。

一方、人文系科目では、「教員熱意」よりも「学生意欲」の方が「成長感覚」との相関係数が高いことが特徴である。人文系科目の「成長感覚」に対する学生の認識は、概ね高い傾向にあると言えるだろう。今後の授業改善においては、教員の熱意を学生に伝えるとともに、学生自身の学習意欲を高め、成長を実感できる授業を展開することが重要であり、参考にすべき傾向であろう。

●【 **全学共通科目（人文系）〈学生所属別〉** 】相関係数表

		Q1b 【シラバス通り】	Q2 【難易度適切】	Q4 【FB丁寧】	Q5 【学生意欲】	Q6 【教員熱意】	Q7 【成長感覚】	Q8 【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.159	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.452	-0.005	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.358	-0.160	0.461	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.393	-0.086	0.400	0.469	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.440	-0.178	0.440	0.568	0.538	1.000	
Q8	【総合満足】	0.428	-0.305	0.427	0.544	0.524	0.609	1.000

7 全学共通科目（社会系・学生所属別）の調査結果と分析

7.1.対象科目数・対象人数・回答率

次に社会系科目を学生所属別に分析していく。対象科目数は30科目であり、対象人数は4,560名である。

回答率は39.06%であり、全共科目全体の42.90%に比べ低い結果となった。特に、健康科学科15.69%、国際関係学科24.26%、英米文学科29.93%は30%に満たず、低い回答率であった。また、国際文化学科も30.00%にとどまっている。

2025年度後期の回答率は33.93%であり、全共科目全体の34.28%を下回っていた。2026年度前期は2025年度後期と比べて5.13ポイント上昇したものの、全共科目全体の回答率を下回る傾向は変わらなかった。

2025年度後期に回答率が30%に満たなかったのは、スポーツ科学科、国際関係学科、経営学科、健康科学科、中国語学科、英語学科、英米文学科の7学科であった。2026年度前期も国際関係学科、健康科学科、英米文学科では30%を下回っており、これらの学科では引き続き回答率の低さが確認された一方、30%未満の学科数は7学科から3学科に減少しており、一定の改善がみられた。なお、看護学科68.48%、書道学科61.19%、日本文学科57.37%、歴史文化学科51.91%の4学科では回答率が50%を超えている。

また、学年別では、1年生54.54%、2年生32.95%、3年生22.33%、4年生17.47%となっており、学年が上がるにつれて回答率が低下する傾向が顕著にみられた。

社会系科目の回答率は前年度後期より改善しているものの、特に回答率の低い学科や上級学年に対して、今後も回答率の向上に向けた取り組みが必要である。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	183	136	319	57.367%
中国文学科	26	43	69	37.681%
英米文学科	88	206	294	29.932%
教育学科	51	96	147	34.694%
書道学科	41	26	67	61.194%
歴史文化学科	68	63	131	51.908%
社会経済学科	116	188	304	38.158%
現代経済学科	84	155	239	35.146%
中国語学科	96	115	211	45.498%
英語学科	168	214	382	43.979%
日本語学科	59	99	158	37.342%
法律学科	89	95	184	48.370%
政治学科	61	119	180	33.889%
国際関係学科	57	178	235	24.255%
国際文化学科	51	119	170	30.000%
経営学科	268	483	751	35.686%
スポーツ科学科	116	228	344	33.721%
健康科学科	16	86	102	15.686%
看護学科	63	29	92	68.478%
社会学科	80	101	181	44.199%
全 学	1,781	2,779	4,560	39.057%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	1,039	866	1,905	54.541%
2	538	1,095	1,633	32.945%
3	111	386	497	22.334%
4	91	430	521	17.466%

7.2【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

シラバス既知率は 80.84%であり、全共科目全体の 81.90%に比べると、わずかに低い結果となった。2025 年度後期の既知率は 77.98%であり、全共科目全体の 81.97%を下回っていた。2026 年度前期は 2025 年度後期と比べて 2.86 ポイント上昇しており、全共科目全体との差も縮小した。

学科別にみると、スポーツ科学科 68.10%、日本語学科 68.85%は 70%に満たず、低い既知率であった。2025 年度後期は、法律学科、健康科学科、教育学科の 3 学科が 70%を下回っていた。2026 年度前期は 70%に満たない学科が 2 学科に減少しており、一定の改善がみられた。

政治学科 90.16%、看護学科 88.89%、国際文化学科 88.24%、国際関係学科 87.72%、中国語学科 87.50%など、比較的高い既知率を示す学科もみられ、学科間で相違が生じている。

学年別にみると、1 年生 79.27%、2 年生 81.63%、3 年生 83.78%、4 年生 90.11%となっており、学年が上がるにつれてシラバス既知率が高くなる傾向が確認された。

全体として、社会系科目のシラバス既知率は 2025 年度後期よりも上昇しており、全共科目全体とほぼ同じ水準となった。ただし、学科間には依然として差がみられることから、特に既知率の低い学科については、シラバス内容の周知を徹底するなど、

改善に向けた取り組みが必要である。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	16.848%	83.152%
中国文学科	17.857%	82.143%
英米文学科	21.591%	78.409%
教育学科	17.647%	82.353%
書道学科	23.810%	76.190%
歴史文化学科	26.471%	73.529%
社会経済学科	19.298%	80.702%
現代経済学科	20.238%	79.762%
中国語学科	12.500%	87.500%
英語学科	20.359%	79.641%
日本語学科	31.148%	68.852%
法律学科	22.472%	77.528%
政治学科	9.836%	90.164%
国際関係学科	12.281%	87.719%
国際文化学科	11.765%	88.235%
経営学科	17.100%	82.900%
スポーツ科学科	31.897%	68.103%
健康科学科	25.000%	75.000%
看護学科	11.111%	88.889%
社会学科	16.250%	83.750%
全 学	19.160%	80.840%

学年	1	2
1	20.729%	79.271%
2	18.367%	81.633%
3	16.216%	83.784%
4	9.890%	90.110%

7.3 【Q1b】この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 8 割を超えており（88.56%）、平均値も 4.31 であった。全共科目全体の平均 4.38 と比べても大差はない。2025 年度後期は、4 と 5 の合計が 88.77%、平均値は 4.33 であり、2026 年度前期はそれぞれ 0.21 ポイント、0.02 ポイント低下したものの、ほぼ同じ水準を維持している。

変動係数をみても、全学平均は 17.81%であり、2025 年度後期の 16.97%と比べて 0.84 ポイント上昇したものの、全体として大きなバラツキはみられない。ただし、学科別にみると、社会経済学科 23.99%、法律学科 21.41%、書道学科 20.65%では 20%を超えており、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。

ただし、健康科学科は 4 と 5 の合計が 80.00%であり、「3 どちらとも言えない」が 20.00%を示した。他学科は 3 の比率が 10%未満（11 学科）、もしくは 10%台（8 学科）であるのに対し、健康科学科は 20.00%と高かった。2025 年度後期も 4 と 5 の割合は

77.78%であり、3 は 16.67%であった。2026 年度前期は 3 の割合も上昇しており、特に 4 と 5 の合計が 2.22 ポイント向上した。

一方、2025 年度後期は中国文学科で 1、2、3 の回答割合の合計が 0.00%であったが、2026 年度前期は 11.54%となった。2026 年度前期に 1、2、3 の合計が最も低かったのは国際関係学科の 5.56%であり、4 と 5 の合計は 94.44%と高い数値を示した。

全体として、社会系科目においても、学生はおおむね授業がシラバスの記述通りに行われていると評価している。ただし、一部の学科では回答のバラツキや中間的な評価が比較的多い。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	162	4.389	0.650	14.816%
中国文学科	26	4.346	0.676	15.556%
英米文学科	73	4.274	0.848	19.846%
教育学科	45	4.378	0.739	16.882%
書道学科	36	3.944	0.815	20.652%
歴史文化学科	55	4.182	0.663	15.856%
社会経済学科	104	4.144	0.994	23.995%
現代経済学科	70	4.314	0.622	14.418%
中国語学科	88	4.398	0.683	15.536%
英語学科	147	4.299	0.760	17.669%
日本語学科	47	4.383	0.731	16.675%
法律学科	72	4.333	0.928	21.414%
政治学科	60	4.267	0.750	17.574%
国際関係学科	54	4.537	0.600	13.220%
国際文化学科	49	4.306	0.645	14.987%
経営学科	240	4.388	0.798	18.196%
スポーツ科学科	97	4.165	0.755	18.139%
健康科学科	15	4.267	0.772	18.087%
看護学科	60	4.533	0.763	16.832%
社会学科	74	4.149	0.651	15.693%
全 学	1,574	4.312	0.768	17.806%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	908	4.351	0.760
2	479	4.244	0.781
3	98	4.398	0.635
4	87	4.184	0.865

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.617%	0.000%	5.556%	47.531%	46.296%
中国文学科	0.000%	0.000%	11.538%	42.308%	46.154%
英米文学科	1.370%	1.370%	13.699%	35.616%	47.945%
教育学科	0.000%	4.444%	2.222%	44.444%	48.889%
書道学科	2.778%	0.000%	19.444%	55.556%	22.222%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	14.545%	52.727%	32.727%
社会経済学科	5.769%	0.000%	8.654%	45.192%	40.385%
現代経済学科	0.000%	0.000%	8.571%	51.429%	40.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	11.364%	37.500%	51.136%
英語学科	1.361%	1.361%	6.122%	48.299%	42.857%
日本語学科	0.000%	0.000%	14.894%	31.915%	53.191%
法律学科	2.778%	2.778%	6.944%	33.333%	54.167%
政治学科	0.000%	3.333%	8.333%	46.667%	41.667%
国際関係学科	0.000%	0.000%	5.556%	35.185%	59.259%
国際文化学科	0.000%	0.000%	10.204%	48.980%	40.816%
経営学科	1.250%	1.667%	7.500%	36.250%	53.333%
スポーツ科学科	0.000%	1.031%	18.557%	43.299%	37.113%
健康科学科	0.000%	0.000%	20.000%	33.333%	46.667%
看護学科	1.667%	0.000%	6.667%	26.667%	65.000%
社会学科	0.000%	1.351%	10.811%	59.459%	28.378%
全 学	1.080%	0.953%	9.403%	42.821%	45.743%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.991%	0.991%	8.590%	40.749%	48.678%
2	1.044%	1.253%	11.273%	45.094%	41.336%
3	0.000%	0.000%	8.163%	43.878%	47.959%
4	3.448%	0.000%	9.195%	49.425%	37.931%

7.4【Q2】自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答割合の合計は 47.75%で、最小 30.68%（法律学科）から最大 70.69%（スポーツ科学科）の間に分布している（全学平均 47.75%）。2025 年度後期の 48.53%から、0.78 ポイント減少している。2025 年度後期は、最小 42.86%（歴史文化学科）から最大 69.57%（健康科学科）の間に分布して

いた。

「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の回答割合の合計は 3.93%で、最小 0.00%（現代経済学科・健康科学科）から最大 10.91%（国際関係学科）の間に分布している。授業内容の難易度の平均値は 3.55 であった。2025 年度後期は、最小 0.00%（中国文学科・書道学科・中国語学科・日本語学科・国際関係学科・スポーツ科学科）から最大 13.33%（国際文化学科）の間に分布しており、全学平均は 2.74%であった。学科別評価の平均値は 3.55 であった。2026 年度前期もほとんど同じ水準となっている。

授業の難易度に対する認識は、全共科目全体の数値と比較して同じような傾向を示すが、社会系に限定すると、法律学科とスポーツ科学科に特徴がみられる。

法律学科は「3 適切であった」が 65.91%と高く、「4」と「5」の合計は 30.68%にとどまっている。一方、スポーツ科学科は「3」が 26.72%と低く、「4」と「5」の合計は 70.69%に達しており、授業内容を難しいと認識する学生の割合が高い。また、書道学科も「4」と「5」の合計が 66.67%、教育学科は 56.86%、日本語学科は 57.38%となっており、全学平均を上回っている。2025 年度後期は、「4」と「5」の割合が平均よりも 10 ポイント以上高かった学科は 6 学科であった。学科数は減少している。

この授業認識の相違および格差は、変動係数にも表れている。変動係数の全学平均値は 21.89%であり、これを下回っているのは 10 である。特に、健康科学科 16.54%、国際文化学科 17.59%、歴史文化学科 18.66%、日本文学科 18.79%は相対的にバラツキが小さい。ただし、変動係数が低い学科でも、難易度に対する認識は一様ではなく、歴史文化学科や国際文化学科では「3 適切であった」に回答が集中しているのに対し、スポーツ科学科では「4」と「5」に回答が集中している。つまり、バラツキが小さいことが、必ずしも授業内容を難しいと認識していることを意味するわけではない。

2025 年度後期は、変動係数の平均値 20.56%を下回っていたのは 13 学科であった。2026 年度前期は全学平均が 21.89%となり、前年度後期より 1.33 ポイント上昇していることから、難易度に対する学生の認識には、ややバラツキが大きくなる傾向がみられる。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	184	3.457	0.650	18.794%
中国文学科	28	3.643	0.934	25.641%
英米文学科	88	3.670	0.779	21.232%
教育学科	51	3.804	0.886	23.293%
書道学科	42	3.833	0.843	21.986%
歴史文化学科	68	3.500	0.653	18.658%
社会経済学科	114	3.561	0.848	23.824%
現代経済学科	83	3.494	0.665	19.044%
中国語学科	94	3.564	0.806	22.626%
英語学科	168	3.560	0.785	22.041%
日本語学科	61	3.689	0.714	19.352%
法律学科	88	3.318	0.666	20.086%
政治学科	61	3.590	0.710	19.778%
国際関係学科	55	3.218	0.706	21.925%
国際文化学科	51	3.392	0.597	17.590%
経営学科	269	3.480	0.802	23.057%
スポーツ科学科	116	3.905	0.798	20.447%
健康科学科	16	3.625	0.599	16.537%
看護学科	63	3.571	0.886	24.801%
社会学科	80	3.525	0.790	22.416%
全 学	1,780	3.552	0.778	21.889%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,039	3.605	0.803
2	539	3.527	0.744
3	111	3.315	0.643
4	89	3.393	0.744

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.717%	54.891%	36.413%	5.978%
中国文学科	3.571%	0.000%	46.429%	28.571%	21.429%
英米文学科	0.000%	2.273%	45.455%	35.227%	17.045%
教育学科	0.000%	3.922%	39.216%	29.412%	27.451%
書道学科	2.381%	0.000%	30.952%	45.238%	21.429%
歴史文化学科	0.000%	1.471%	54.412%	36.765%	7.353%
社会経済学科	1.754%	1.754%	51.754%	28.070%	16.667%
現代経済学科	0.000%	0.000%	60.241%	30.120%	9.639%
中国語学科	0.000%	4.255%	51.064%	28.723%	15.957%
英語学科	0.595%	4.762%	44.643%	38.095%	11.905%
日本語学科	0.000%	1.639%	40.984%	44.262%	13.115%
法律学科	1.136%	2.273%	65.909%	25.000%	5.682%
政治学科	0.000%	4.918%	39.344%	47.541%	8.197%
国際関係学科	0.000%	10.909%	61.818%	21.818%	5.455%
国際文化学科	0.000%	1.961%	60.784%	33.333%	3.922%
経営学科	2.230%	3.717%	47.212%	37.546%	9.294%
スポーツ科学科	0.862%	1.724%	26.724%	47.414%	23.276%
健康科学科	0.000%	0.000%	43.750%	50.000%	6.250%
看護学科	1.587%	6.349%	41.270%	34.921%	15.873%
社会学科	1.250%	2.500%	51.250%	32.500%	12.500%
全 学	0.843%	3.090%	48.315%	35.506%	12.247%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.770%	3.272%	45.332%	35.900%	14.726%
2	1.113%	2.226%	49.165%	37.848%	9.647%
3	0.000%	5.405%	62.162%	27.928%	4.505%
4	1.124%	3.371%	59.551%	26.966%	8.989%

7.5【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

全共科目全体と同様の傾向が見られるが、「質問したことがある」と回答した学生の割合は 12.44%であり、2025 年度後期の 9.75%と比べて 2.69 ポイント増加している。

学科別にみると、教育学科の「質問したことがある」割合が 23.53%と最も高く、次いで国際関係学科 19.30%、健康科学科 18.75%、英米文学科 18.18%となっており、いずれも全学平均 12.44%を上回っている。一方、日本語学科は 5.00%と最も低く、看護学科 6.45%、現代経済学科 7.14%、日本文学科 8.15%、政治学科 8.20%も 10%未満であった。

2025 年度後期は、全学平均が 9.75%であり、中国語学科が 25.64%と相対的に高かった。また、法律学科、国際文化学科、看護学科、歴史文化学科は 5%以下であった。これに対して、2026 年度前期の中国語学科は 12.77%となり、前年度後期より 12.87 ポイント減少している。一方、教育学科は 23.53%と高い割合を示しており、質問経験の割合が高い学科に変化がみられる。

このように、2026 年度前期は全学平均で質問経験のある学生の割合が増加しているものの、学科間には依然として相違がみられる。その原因は検討に値する。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q３「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	91.848%	8.152%
中国文学科	85.714%	14.286%
英米文学科	81.818%	18.182%
教育学科	76.471%	23.529%
書道学科	85.000%	15.000%
歴史文化学科	89.552%	10.448%
社会経済学科	84.821%	15.179%
現代経済学科	92.857%	7.143%
中国語学科	87.234%	12.766%
英語学科	85.030%	14.970%
日本語学科	95.000%	5.000%
法律学科	87.640%	12.360%
政治学科	91.803%	8.197%
国際関係学科	80.702%	19.298%
国際文化学科	90.196%	9.804%
経営学科	86.466%	13.534%
スポーツ科学科	88.496%	11.504%
健康科学科	81.250%	18.750%
看護学科	93.548%	6.452%
社会学科	88.608%	11.392%
全 学	87.564%	12.436%

学年	1	2
1	85.853%	14.147%
2	91.028%	8.972%
3	88.073%	11.927%
4	85.714%	14.286%

7.6【Q4】質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 62.69%で、全共科目全体の 65.78%と比べると 3.09 ポイント低い水準である。授業内容の認識に関するフィードバックの全学平均値は 3.94 であった。2025 年度後期は、社会系科目の平均値が 3.95、全共科目全体の平均値が 4.00 であり、2026 年度前期はほぼ同じ水準となっている。また、2025 年度後期の「4」と「5」の合計は 62.23%であったことから、2026 年度前期は 0.46 ポイント増加している。

ただし、中国文学科、英米文学科、日本語学科、国際関係学科、健康科学科は「5」の比率が高く、教員の質問対応が多いと評価している。健康科学科は 55.56%、中国文学科は 57.14%、英米文学科は 51.61%を示している。また、国際文化学科は「4」と「5」の合計が 86.67%、健康科学科は 88.89%と高い割合を示している。一方、政治学科は 43.48%、書道学科は 54.55%、英語学科は 55.22%にとどまっており、学科間で評価に相違がみられる。

変動係数の全学平均値は 25.66%であり、これを上回るのは 6 学科であった。これらの学科では、質問対応に対する評価が相対的に分散していることが確認できる。特に、看護学科と書道学科は 33%を超えており、他学科に比べてバラツキが大きい。一方、健康科学科 15.41%、国際文化学科 15.93%は変動係数が低く、教員の質問対応に対する評価が比較的安定している。

2025 年度後期は、「4」と「5」の合計が 62.23%であり、全共科目全体の 64.92%を下回っていた。2026 年度前期も同様の傾向がみられるものの、肯定的な回答割合はわずかながら増加している。ただし、変動係数が高い学科もみられることから、教員の質問対応に対する学生の認識には一定の格差がある。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	36	3.861	0.947	24.534%
中国文学科	7	4.286	0.881	20.548%
英米文学科	31	4.161	1.019	24.489%
教育学科	21	3.857	1.166	30.241%
書道学科	11	3.818	1.266	33.163%
歴史文化学科	14	3.786	0.773	20.409%
社会経済学科	54	3.741	1.220	32.613%
現代経済学科	21	3.810	0.794	20.842%
中国語学科	32	3.938	1.116	28.350%
英語学科	67	3.836	0.956	24.915%
日本語学科	13	4.154	0.863	20.787%
法律学科	23	3.913	1.100	28.109%
政治学科	23	3.609	0.872	24.157%
国際関係学科	27	4.185	0.904	21.605%
国際文化学科	15	4.267	0.680	15.934%
経営学科	107	4.075	0.993	24.357%
スポーツ科学科	59	3.847	0.953	24.779%
健康科学科	9	4.444	0.685	15.411%
看護学科	11	3.636	1.226	33.727%
社会学科	22	4.136	0.814	19.688%
全 学	603	3.942	1.012	25.660%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	369	3.995	1.001
2	156	3.763	1.001
3	43	4.140	0.824
4	35	3.943	1.241

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.778%	44.444%	16.667%	36.111%
中国文学科	0.000%	0.000%	28.571%	14.286%	57.143%
英米文学科	3.226%	0.000%	25.806%	19.355%	51.613%
教育学科	4.762%	9.524%	19.048%	28.571%	38.095%
書道学科	9.091%	0.000%	36.364%	9.091%	45.455%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	42.857%	35.714%	21.429%
社会経済学科	9.259%	1.852%	29.630%	24.074%	35.185%
現代経済学科	0.000%	0.000%	42.857%	33.333%	23.810%
中国語学科	6.250%	0.000%	28.125%	25.000%	40.625%
英語学科	1.493%	1.493%	41.791%	22.388%	32.836%
日本語学科	0.000%	0.000%	30.769%	23.077%	46.154%
法律学科	4.348%	0.000%	39.130%	13.043%	43.478%
政治学科	0.000%	4.348%	52.174%	21.739%	21.739%
国際関係学科	0.000%	3.704%	22.222%	25.926%	48.148%
国際文化学科	0.000%	0.000%	13.333%	46.667%	40.000%
経営学科	1.869%	1.869%	28.972%	21.495%	45.794%
スポーツ科学科	1.695%	1.695%	38.983%	25.424%	32.203%
健康科学科	0.000%	0.000%	11.111%	33.333%	55.556%
看護学科	9.091%	9.091%	18.182%	36.364%	27.273%
社会学科	0.000%	0.000%	27.273%	31.818%	40.909%
全 学	2.653%	1.824%	32.836%	24.046%	38.640%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.710%	1.626%	29.268%	26.287%	40.108%
2	1.923%	3.205%	43.590%	19.231%	32.051%
3	0.000%	0.000%	27.907%	30.233%	41.860%
4	8.571%	0.000%	28.571%	14.286%	48.571%

7.7【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が約 8 割（80.20%）で、学生は概ね熱意をもって授業に臨んでいる。2025 年度後期は、全共科目全体が 81.87%であったのに対し、社会系科目は 78.85%であり、2026 年度前期

は前年度後期より 1.35 ポイント増加している。学生熱意の平均値は 4.05 で、2025 年度後期は 3.98（全共科目全体は 4.09）であった。ほぼ横ばいである。

学科別にみると、国際文化学科は「4」と「5」の合計が 90.20%と最も高く、次いで看護学科 87.30%、社会学科 86.08%、教育学科 84.31%、現代経済学科 84.52%となっている。一方、書道学科は 69.05%、日本語学科は 68.85%、日本文学科は 72.68%、スポーツ科学科は 73.91%にとどまり、学科間で学生の意欲に相違がみられる。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答割合の合計は 4.15%であり、2025 年度後期の 4.78%と比べて 0.63 ポイント減少している。学科別では、書道学科が 16.67%と最も高く、次いで日本語学科 8.20%、政治学科 8.20%、スポーツ科学科 7.83%となっており、全学平均を上回っている。これに対し、中国文学科、中国語学科、健康科学科は「1」と「2」の合計が 0.00%であった。

変動係数の全学平均値は 20.15%であり、これを上回ったのは、7 学科であった。特に、書道学科は 27.74%と最も高く、学生の意欲に対する認識のバラツキが大きい。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	183	3.951	0.851	21.542%
中国文学科	28	4.179	0.710	16.987%
英米文学科	88	4.159	0.796	19.141%
教育学科	51	4.157	0.776	18.678%
書道学科	42	3.714	1.030	27.735%
歴史文化学科	68	3.941	0.705	17.879%
社会経済学科	116	3.922	0.939	23.942%
現代経済学科	84	4.119	0.680	16.502%
中国語学科	96	4.115	0.659	16.026%
英語学科	166	4.127	0.815	19.758%
日本語学科	61	3.918	0.929	23.698%
法律学科	89	4.034	0.867	21.494%
政治学科	61	3.951	0.838	21.215%
国際関係学科	57	4.246	0.756	17.802%
国際文化学科	51	4.196	0.741	17.671%
経営学科	269	4.130	0.772	18.699%
スポーツ科学科	115	3.887	0.930	23.934%
健康科学科	16	4.125	0.696	16.872%
看護学科	63	4.222	0.744	17.625%
社会学科	79	4.063	0.663	16.307%
全 学	1,783	4.054	0.817	20.147%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,040	4.051	0.837
2	539	4.058	0.772
3	111	4.144	0.733
4	91	3.967	0.931

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.546%	4.372%	22.404%	44.809%	27.869%
中国文学科	0.000%	0.000%	17.857%	46.429%	35.714%
英米文学科	0.000%	5.682%	7.955%	51.136%	35.227%
教育学科	0.000%	3.922%	11.765%	49.020%	35.294%
書道学科	2.381%	14.286%	14.286%	47.619%	21.429%
歴史文化学科	0.000%	1.471%	23.529%	54.412%	20.588%
社会経済学科	3.448%	2.586%	19.828%	46.552%	27.586%
現代経済学科	0.000%	1.190%	14.286%	55.952%	28.571%
中国語学科	0.000%	0.000%	16.667%	55.208%	28.125%
英語学科	1.807%	1.205%	13.253%	50.000%	33.735%
日本語学科	0.000%	8.197%	22.951%	37.705%	31.148%
法律学科	1.124%	3.371%	19.101%	43.820%	32.584%
政治学科	0.000%	8.197%	13.115%	54.098%	24.590%
国際関係学科	0.000%	3.509%	8.772%	47.368%	40.351%
国際文化学科	1.961%	0.000%	7.843%	56.863%	33.333%
経営学科	0.743%	1.859%	14.126%	50.186%	33.086%
スポーツ科学科	2.609%	5.217%	18.261%	48.696%	25.217%
健康科学科	0.000%	0.000%	18.750%	50.000%	31.250%
看護学科	0.000%	3.175%	9.524%	49.206%	38.095%
社会学科	0.000%	2.532%	11.392%	63.291%	22.785%
全 学	0.897%	3.253%	15.648%	49.916%	30.286%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.769%	4.231%	15.288%	48.558%	31.154%
2	0.742%	2.412%	15.399%	53.247%	28.200%
3	0.000%	0.000%	20.721%	44.144%	35.135%
4	4.396%	1.099%	15.385%	51.648%	27.473%

7.8【Q6】教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 90%を超えており（90.71%）、学生が教員の熱意を高く評価していると言える。教員熱意に対する平均値は 4.43 であった。2025 年度後期は、4 と 5 の合計が 93.05%、平均値は 4.50 であり、2026 年度前期はそれぞれ 2.34 ポイント、0.07 ポイント低下したもの

の、引き続き高い評価を維持している。

学科別にみると、4 と 5 の合計が 90%を超えているのは、12 学科であった。特に、国際文化学科は 98.04%、看護学科は 98.41%、国際関係学科は 98.25%、教育学科は 96.08%と高い割合を示した。

5 の比率が低い学科もみられるが、4 の比率が高くなっている学科もあり、総合的には教員の熱意を高く評価する学生が多い。平均値についても、教育学科が 4.69 と最も高く、次いで看護学科 4.65、国際文化学科 4.61、歴史文化学科 4.52、国際関係学科 4.51 となっている。

変動係数をみると、全学平均は 16.96%であった。これを上回っているのは 7 学科であり、他学科に比べて評価にバラツキがみられる。特に、社会経済学科と法律学科は 20%を超えており、教員の熱意に対する認識が学生間で分散していることがわかる。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	183	4.383	0.758	17.302%
中国文学科	28	4.286	0.795	18.559%
英米文学科	88	4.500	0.707	15.713%
教育学科	51	4.686	0.542	11.565%
書道学科	42	4.310	0.771	17.894%
歴史文化学科	68	4.515	0.606	13.426%
社会経済学科	116	4.293	0.983	22.892%
現代経済学科	84	4.476	0.587	13.116%
中国語学科	96	4.427	0.703	15.887%
英語学科	168	4.399	0.741	16.849%
日本語学科	61	4.344	0.787	18.113%
法律学科	89	4.315	0.955	22.137%
政治学科	61	4.295	0.817	19.015%
国際関係学科	57	4.509	0.596	13.218%
国際文化学科	51	4.608	0.527	11.434%
経営学科	269	4.476	0.749	16.744%
スポーツ科学科	116	4.397	0.741	16.863%
健康科学科	16	4.438	0.609	13.728%
看護学科	63	4.651	0.646	13.897%
社会学科	80	4.375	0.678	15.492%
全 学	1,787	4.429	0.751	16.956%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,043	4.435	0.752
2	540	4.430	0.733
3	111	4.486	0.683
4	91	4.275	0.890

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	1.093%	1.093%	7.104%	39.891%	50.820%
中国文学科	0.000%	3.571%	10.714%	39.286%	46.429%
英米文学科	1.136%	0.000%	5.682%	34.091%	59.091%
教育学科	0.000%	0.000%	3.922%	23.529%	72.549%
書道学科	0.000%	2.381%	11.905%	38.095%	47.619%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	5.882%	36.765%	57.353%
社会経済学科	4.310%	1.724%	6.897%	34.483%	52.586%
現代経済学科	0.000%	0.000%	4.762%	42.857%	52.381%
中国語学科	0.000%	2.083%	6.250%	38.542%	53.125%
英語学科	0.000%	1.786%	10.119%	34.524%	53.571%
日本語学科	0.000%	1.639%	14.754%	31.148%	52.459%
法律学科	2.247%	4.494%	7.865%	30.337%	55.056%
政治学科	0.000%	4.918%	8.197%	39.344%	47.541%
国際関係学科	0.000%	1.754%	0.000%	43.860%	54.386%
国際文化学科	0.000%	0.000%	1.961%	35.294%	62.745%
経営学科	0.743%	1.115%	7.807%	30.483%	59.851%
スポーツ科学科	0.000%	1.724%	10.345%	34.483%	53.448%
健康科学科	0.000%	0.000%	6.250%	43.750%	50.000%
看護学科	1.587%	0.000%	0.000%	28.571%	69.841%
社会学科	0.000%	2.500%	3.750%	47.500%	46.250%
全 学	0.727%	1.511%	7.051%	35.590%	55.120%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.767%	1.630%	6.520%	35.475%	55.609%
2	0.370%	1.667%	7.407%	35.741%	54.815%
3	0.000%	0.901%	8.108%	32.432%	58.559%
4	3.297%	0.000%	9.890%	39.560%	47.253%

7.9 【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 80%を超えており（85.73%）、学生は自身の成長感覚は高いと評価している。特に教育学科は、5 と 4 の回答比率の合計が 96.08%と、成長感覚の認識が非常に高い。これに対

して、日本語学科 77.05%、スポーツ科学科 77.59%、書道学科 78.57%、社会経済学科 80.17%の 4 学科は、平均値 85.73%を下回っている。社会系科目に対する成長感覚の平均値は 4.24 であった（標準偏差 0.78）。

2025 年度後期は、5 と 4 の合計は 89.05%、平均値は 4.30 であった。2026 年度前期は、5 と 4 の合計が 3.32 ポイント、平均値が 0.06 ポイント低下しており、学生の成長感覚に対する評価は前年度後期と比較して横ばいかやや低下している。

変動係数から社会系科目に対する授業認識をみると、学科間の相違が明確になる。5 と 4 の割合が 96.08%と最も高い教育学科の変動係数は、全学平均値 18.43%と比べて、低い 12.80%であった。認識のバラツキが小さく、かつ 5 と 4 に集中している。

5 と 4 の割合が相対的に低くなっている 4 学科（日本語学科、スポーツ科学科、書道学科、社会経済学科）の変動係数は、それぞれ 18.44%、21.00%、22.49%、23.81%を示している。このうち、スポーツ科学科、書道学科、社会経済学科の 3 学科は平均値（18.43%）を上回っており、認識のバラツキが大きく、評価が分散している。一方、日本語学科は平均値とほぼ同水準であった。

また、変動係数が最も高いのは社会経済学科（23.81%）であり、次いで書道学科（22.49%）、スポーツ科学科（21.00%）、看護学科（20.14%）、法律学科（20.03%）となっている。これらの学科では、学生の成長感覚に対する評価に一定のバラツキが見られる。

2025 年度後期は、変動係数の平均値は 16.40%であったが、2026 年度前期は、全学平均値が 18.43%に上昇しており、成長感覚に対する評価のバラツキが前年度後期よりも大きくなっている。

以上の結果から、社会系科目に対する学生の成長感覚は引き続き高い水準にあるものの、2025 年度後期と比較すると肯定的な評価がやや減少し、学科によって評価の分散が見られる。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	184	4.261	0.735	17.257%
中国文学科	28	4.214	0.818	19.399%
英米文学科	88	4.307	0.774	17.971%
教育学科	51	4.471	0.572	12.802%
書道学科	42	4.095	0.921	22.487%
歴史文化学科	68	4.265	0.740	17.351%
社会経済学科	116	4.103	0.977	23.813%
現代経済学科	84	4.262	0.638	14.980%
中国語学科	96	4.313	0.712	16.503%
英語学科	168	4.232	0.771	18.225%
日本語学科	61	4.148	0.765	18.438%
法律学科	89	4.236	0.848	20.026%
政治学科	61	4.115	0.812	19.728%
国際関係学科	57	4.474	0.704	15.725%
国際文化学科	51	4.353	0.621	14.259%
経営学科	268	4.224	0.774	18.325%
スポーツ科学科	116	4.026	0.845	21.001%
健康科学科	16	4.438	0.609	13.728%
看護学科	63	4.333	0.873	20.143%
社会学科	80	4.263	0.627	14.718%
全 学	1,787	4.237	0.781	18.427%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,044	4.224	0.791
2	539	4.237	0.736
3	111	4.369	0.746
4	91	4.220	0.935

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.543%	1.087%	10.870%	46.739%	40.761%
中国文学科	0.000%	3.571%	14.286%	39.286%	42.857%
英米文学科	0.000%	2.273%	12.500%	37.500%	47.727%
教育学科	0.000%	0.000%	3.922%	45.098%	50.980%
書道学科	2.381%	2.381%	16.667%	40.476%	38.095%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	17.647%	38.235%	44.118%
社会経済学科	4.310%	0.862%	14.655%	40.517%	39.655%
現代経済学科	0.000%	0.000%	10.714%	52.381%	36.905%
中国語学科	0.000%	1.042%	11.458%	42.708%	44.792%
英語学科	1.190%	1.190%	10.119%	48.214%	39.286%
日本語学科	0.000%	0.000%	22.951%	39.344%	37.705%
法律学科	1.124%	2.247%	13.483%	38.202%	44.944%
政治学科	0.000%	6.557%	8.197%	52.459%	32.787%
国際関係学科	0.000%	3.509%	1.754%	38.596%	56.140%
国際文化学科	0.000%	0.000%	7.843%	49.020%	43.137%
経営学科	0.746%	0.746%	14.552%	43.284%	40.672%
スポーツ科学科	1.724%	1.724%	18.966%	47.414%	30.172%
健康科学科	0.000%	0.000%	6.250%	43.750%	50.000%
看護学科	3.175%	1.587%	3.175%	42.857%	49.206%
社会学科	0.000%	1.250%	6.250%	57.500%	35.000%
全 学	0.895%	1.343%	12.031%	44.600%	41.130%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.958%	1.437%	12.548%	44.349%	40.709%
2	0.557%	1.113%	11.317%	48.052%	38.961%
3	0.000%	1.802%	10.811%	36.036%	51.351%
4	3.297%	1.099%	12.088%	37.363%	46.154%

7.10【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

【総合満足】

社会系科目の総合満足度に関する認識の平均値は 8.06 であった。2025 年度後期は 8.22 であり、0.16 ポイント低下している。

満足度の高い 10（大いに満足した）から 8 までの回答割合の合計が 7 割に近く（67.43%）、総合的に満足度を高く評価していると言えるが、2025 年度後期は 71.62%であり、4.19 ポイント低下している。満足度の低い 1（まったく満足できなかった）から 3 までの回答比率の合計は 1.80%であった。2025 年度後期は 0.56%であり、1.24 ポイント上昇している。さらに、全共科目全体の総合満足度の 1 から 3 までの合計 2.06%よりも低い数値となっている。

この結果から、社会系科目に対する総合満足度は高い水準にあるものの、前年度後期と比較すると高い満足度を示す学生の割合が減少し、低い満足度を示す学生の割合が増加している。

変動係数から総合満足度を判断すると、次のように説明できる。まず、変動係数の平均値（21.77%）を上回っている学科は 8 学科であった。この結果は、総合満足度に関する評価が分散していることを示す。

2025 年度後期は、変動係数の平均値が 18.31%であり、それを上回る学科は 8 学科であった。2026 年度前期は、変動係数の平均値が 3.46 ポイント上昇しており、総合満足度に関する学生の評価のバラツキが前年度後期よりも大きくなっている。また、前年度後期に引き続き平均値を上回った学科は 5 学科あり、評価が分散する傾向が継続している。

次に、学生の認識が上位評価に集中している学科は、社会系科目全体の平均値 67.46%を上回る 11 学科であった（国際関係学科 84.21%、国際文化学科 84.31%、教育学科 76.47%、中国文学科 69.23%、英米文学科 76.14%、歴史文化学科 72.06%、中国語学科 72.92%、日本語学科 67.80%、法律学科 71.91%、現代経済学科 65.48%、健康科学科 75.00%）。このうち、現代経済学科は平均値を下回っているため、実際に平均値を上回る学科は 10 学科である。

2025 年度後期は、上位評価の平均値が約 71%であり、それを上回ったのは 10 学科であった。2026 年度前期は、社会系科目全体の上位評価の割合が 67.46%に低下しているものの、国際関係学科、国際文化学科、英米文学科、教育学科などでは、引き続き高い満足度が示されている。特に国際関係学科と国際文化学科は、8 から 10 までの回答割合が 8 割を超えており、社会系科目に対する満足度が非常に高い。

以上の結果から、社会系科目に対する学生の総合満足度は概ね高い水準を維持しているものの、2025 年度後期と比較すると平均値および上位評価の割合が低下し、変動係数も上昇し、学生の満足度のバラツキが大きくなっている。

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	183	7.913	1.712	21.641%
中国文学科	26	8.077	2.037	25.216%
英米文学科	88	8.341	1.296	15.536%
教育学科	51	8.333	1.617	19.403%
書道学科	41	7.537	1.862	24.710%
歴史文化学科	68	8.103	1.506	18.589%
社会経済学科	116	7.836	2.185	27.885%
現代経済学科	84	8.179	1.575	19.255%
中国語学科	96	8.375	1.576	18.820%
英語学科	168	8.107	1.535	18.939%
日本語学科	59	8.102	1.893	23.364%
法律学科	89	8.022	1.994	24.858%
政治学科	61	7.770	1.731	22.277%
国際関係学科	57	8.772	1.414	16.125%
国際文化学科	51	8.627	1.283	14.869%
経営学科	268	8.104	1.805	22.271%
スポーツ科学科	116	7.336	2.137	29.133%
健康科学科	16	8.313	1.158	13.925%
看護学科	63	8.175	1.778	21.746%
社会学科	80	7.888	1.275	16.161%
全 学	1,781	8.056	1.754	21.770%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,039	7.970	1.756
2	538	8.143	1.680
3	111	8.405	1.668
4	91	8.077	2.150

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.546%	0.000%	1.093%	1.639%	4.372%	9.836%	22.951%	21.311%	13.661%	24.590%
中国文学科	0.000%	0.000%	3.846%	3.846%	7.692%	7.692%	7.692%	11.538%	26.923%	30.769%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.409%	4.545%	15.909%	29.545%	23.864%	22.727%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.961%	5.882%	7.843%	7.843%	27.451%	15.686%	33.333%
書道学科	2.439%	0.000%	0.000%	2.439%	9.756%	7.317%	17.073%	36.585%	7.317%	17.073%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	1.471%	0.000%	2.941%	11.765%	11.765%	32.353%	17.647%	22.059%
社会経済学科	5.172%	0.000%	0.862%	0.862%	4.310%	5.172%	17.241%	21.552%	21.552%	23.276%
現代経済学科	0.000%	0.000%	1.190%	2.381%	2.381%	3.571%	25.000%	17.857%	22.619%	25.000%
中国語学科	1.042%	0.000%	0.000%	1.042%	1.042%	6.250%	17.708%	20.833%	21.875%	30.208%
英語学科	0.000%	0.000%	0.595%	0.595%	4.762%	8.333%	20.238%	22.619%	18.452%	24.405%
日本語学科	1.695%	0.000%	0.000%	1.695%	6.780%	8.475%	13.559%	18.644%	18.644%	30.508%
法律学科	2.247%	0.000%	1.124%	2.247%	5.618%	7.865%	8.989%	26.966%	15.730%	29.213%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	4.918%	6.557%	13.115%	14.754%	24.590%	14.754%	21.311%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.754%	3.509%	0.000%	10.526%	21.053%	21.053%	42.105%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.961%	5.882%	7.843%	29.412%	21.569%	33.333%
経営学科	1.119%	0.000%	0.746%	1.119%	5.224%	10.448%	13.806%	18.657%	20.896%	27.985%
スポーツ科学科	1.724%	0.862%	1.724%	6.034%	11.207%	8.621%	18.103%	18.966%	12.931%	19.828%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	18.750%	31.250%	25.000%	18.750%
看護学科	1.587%	0.000%	1.587%	0.000%	3.175%	7.937%	12.698%	25.397%	20.635%	26.984%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.250%	3.750%	5.000%	26.250%	33.750%	18.750%	11.250%
全 学	1.011%	0.056%	0.730%	1.628%	4.829%	7.805%	16.508%	23.245%	18.641%	25.547%

【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.770%	0.000%	0.770%	2.214%	5.679%	9.047%	15.977%	22.618%	19.634%	23.292%
2	0.929%	0.000%	0.929%	0.743%	3.160%	7.435%	18.773%	23.978%	16.543%	27.509%
3	0.000%	0.901%	0.000%	1.802%	6.306%	1.802%	11.712%	25.225%	17.117%	35.135%
4	5.495%	0.000%	0.000%	0.000%	3.297%	3.297%	15.385%	23.077%	20.879%	28.571%

7.11 クロス表に関する結果(社会系)

社会系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生熱意」とのクロス表（表１：回答数、表２：パーセント）では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。また、右端の列（4+5）に 4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。なお、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表 1 に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。まず、それぞれの行で最も高い数値（7→4→68→432→487）から、教員熱意が向上するにつれて、学生自身の意欲も高く評価される傾向が確認できる。

次に、教員熱意と学生意欲とのクロスチェック数値（赤字：7→4→68→432→487）をみ

ると、教員熱意を 4「どちらかと言えばそう思う」と評価した学生では、学生意欲も 4 と回答した割合が 68.14%と高くなっている。また、教員熱意を 5「強くそう思う」と評価した学生では、学生意欲も 5 と回答した割合が 49.59%を示している。

一方、教員熱意を 1「まったくそう思わない」と評価した学生では、学生意欲も 1 と回答した割合が 53.85%であり、教員熱意を 2「どちらかと言えばそう思わない」と評価した学生では、学生意欲も 2 と回答した割合が 14.81%であった。ただし、教員熱意を低く評価した学生の回答数は少ないため、この点には留意が必要である。

この結果から、学生が教員の熱意を強く感じるほど、自分自身の意欲も高く認識する傾向があることがわかる。社会系科目においても、教員の授業に対する熱意と学生自身の学習意欲との間には密接な関連があることが示された。2025 年度後期と比較しても、同様の傾向が確認できる。

表 1

●【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［回答数］

		学生意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	7	1	4	1	0	13	1
	2 どちらかと言えばそう思わない	2	4	10	10	1	27	11
	3 どちらとも言えない	2	17	68	32	7	126	39
	4 どちらかと言えばそう思う	3	22	133	432	44	634	476
	5 強くそう思う	2	14	64	415	487	982	902
合 計		16	58	279	890	539	1,782	1,429

表 2

●【 全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［パーセント］

		学生意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	53.846%	7.692%	30.769%	7.692%	0.000%	100.000%	7.692%
	2 どちらかと言えばそう思わない	7.407%	14.815%	37.037%	37.037%	3.704%	100.000%	40.741%
	3 どちらとも言えない	1.587%	13.492%	53.968%	25.397%	5.556%	100.000%	30.952%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.473%	3.470%	20.978%	68.139%	6.940%	100.000%	75.079%
	5 強くそう思う	0.204%	1.426%	6.517%	42.261%	49.593%	100.000%	91.853%

7.12 相関係数表に関する結果(社会系)

相関係数に関しては、＋0.3 以上＋0.6 未満（－0.3～－0.6）で弱い正（負）の相関関係、＋0.6 以上＋1 未満（－0.6～－1）で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外のすべての変数（項目）に関して、正の相関関係がみられた。

まず、「総合満足度」に対する社会系科目を履修している学生の授業認識では、特に「成長実感（成長感覚）」との間に強い正の相関関係（0.625）がみられ、正の相関関係の強い順に「シラバス通り 0.555」「学生意欲 0.548」「教員熱意 0.544」「FB 丁寧 0.480」となっている。ここから、「総合満足度」の向上には、学生が自身の成長実感を持てているかどうかが、最も強く関係していることが示されている。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に強い正の相関関係(0.611)がみられた。また、「学生意欲」との間にも強い正の相関関係(0.600)が確認された。その後は正の相関関係の強い順に、「シラバス通り 0.515」「FB 丁寧 0.514」と続く。つまり、「成長感覚」の向上には、教員の熱意があるかどうかに加えて、学生自身の学習意欲も強く関係していることを示している。

さらに、「学生意欲」と「FB 丁寧」との間には 0.581 の正の相関関係がみられ、「教員熱意」と「FB 丁寧」との間にも 0.536 の正の相関関係が確認された。また、「学生意欲」と「教員熱意」との間にも 0.527 の正の相関関係がみられた。この結果から、教員の熱意や質問に対する丁寧な対応と、学生自身の学習意欲との間にも一定の関連があることがわかる。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、他の項目との間に相関関係が確認されない。

まとめると、「教員熱意」と学生の「成長感覚」との間に強い正の相関関係があり、さらに「成長感覚」と「総合満足度」との間にも強い正の相関関係が示された。また、「学生意欲」と「成長感覚」との間にも強い正の相関関係が確認された。社会系科目においても、教員の熱意や学生自身の学習意欲が成長実感と密接に関連し、その成長実感が授業の総合満足度と強く結びついていると言える。

●【 **全学共通科目（社会系）〈学生所属別〉** 】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラバス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【学生意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.080	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.460	-0.014	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.455	-0.112	0.581	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.504	-0.052	0.536	0.527	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.515	-0.085	0.514	0.600	0.611	1.000	
Q8	【総合満足】	0.555	-0.176	0.480	0.548	0.544	0.625	1.000

8 全学共通科目（自然系・学生所属別）の調査結果と分析

8.1.対象科目数・対象人数・回答率

次に自然系科目を学生所属別に分析していく。対象科目数は9科目、人数は1,250名である。

自然系科目の回答率は45.68%であり、全共科目全体の回答率42.90%と比べて2.78ポイント高い結果となった。2025年度後期の回答率は28.62%であり、2026年度前期は17.06ポイント上昇した。また、2025年度後期の全共科目全体の回答率34.28%と比較しても、回答率の改善が確認できる。

そのなかで、回答率が30%以下の学科は国際関係学科（27.66%）の1学科のみであった。一方、回答率が高かったのは、看護学科89.36%、法律学科66.67%、歴史文化学科59.26%、日本文学科55.95%、スポーツ科学科54.41%、現代経済学科50.30%であり、6学科が50%を超える結果となった。

2025年度後期は、6学科が20%以下であったが、2026年度前期は20%以下の学科はなくなった。ただし、国際関係学科27.66%と看護学科89.36%の間には61.70ポイントの差があり、学科間の相違は依然として大きい。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	47	37	84	55.952%
中国文学科	4	6	10	40.000%
英米文学科	30	40	70	42.857%
教育学科	5	9	14	35.714%
書道学科	4	5	9	44.444%
歴史文化学科	16	11	27	59.259%
社会経済学科	53	87	140	37.857%
現代経済学科	83	82	165	50.303%
中国語学科	26	41	67	38.806%
英語学科	35	72	107	32.710%
日本語学科	6	9	15	40.000%
法律学科	26	13	39	66.667%
政治学科	15	24	39	38.462%
国際関係学科	13	34	47	27.660%
国際文化学科	11	12	23	47.826%
経営学科	85	117	202	42.079%
スポーツ科学科	37	31	68	54.412%
健康科学科	8	15	23	34.783%
看護学科	42	5	47	89.362%
社会学科	25	29	54	46.296%
全 学	571	679	1,250	45.680%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	280	165	445	62.921%
2	195	312	507	38.462%
3	48	67	115	41.739%
4	48	135	183	26.230%

8.2【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

自然系科目のシラバス既知率は 82.69%であり、全共科目全体の 81.90%よりもやや高い数値である。2025 年度後期の既知率 83.18%と比較すると、0.49 ポイント低下したものの、ほぼ同じ水準を維持している。また、2025 年度後期の全共科目全体の既知率は 81.97%であり、自然系科目の既知率が全共科目全体をやや上回る傾向は、2026 年度前期も継続している。

4 学科では、既知率が 100.00%となっている。ただし、これらの学科は回答者数が 10 名以下の少人数であり、この点には留意が必要である。

一方、5 学科は、既知率が 80%を下回っている。特に社会学科は全共科目全体の既知率 81.90%を 21.90 ポイント下回っている。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	17.021%	82.979%
中国文学科	0.000%	100.000%
英米文学科	16.667%	83.333%
教育学科	0.000%	100.000%
書道学科	0.000%	100.000%
歴史文化学科	25.000%	75.000%
社会経済学科	20.755%	79.245%
現代経済学科	9.639%	90.361%
中国語学科	11.538%	88.462%
英語学科	11.429%	88.571%
日本語学科	16.667%	83.333%
法律学科	15.385%	84.615%
政治学科	13.333%	86.667%
国際関係学科	7.692%	92.308%
国際文化学科	0.000%	100.000%
経営学科	28.235%	71.765%
スポーツ科学科	23.684%	76.316%
健康科学科	12.500%	87.500%
看護学科	9.524%	90.476%
社会学科	40.000%	60.000%
全 学	17.308%	82.692%

学年	1	2
1	16.014%	83.986%
2	18.462%	81.538%
3	20.833%	79.167%
4	16.667%	83.333%

8.3【Q1b】この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

回答平均は 4.37（全共科目全体 4.38）であり、回答分布は「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 9 割を超えていた（92.86%、全共科目全体 90.92%）。2025 年度後期の平均値 4.45（全共科目全体 4.40）と比較すると、

0.08 ポイント低下したものの、依然として高い評価を維持している。4 と 5 の合計も 2025 年度後期の 94.15%を 1.29 ポイント下回ったが、学生は極めて高い割合で自然系科目がシラバスの記述通りに実施されていると評価している。

ただし、スポーツ科学科 81.82%、社会学科 88.89%、社会経済学科 89.36%、経営学科 88.73%と、相対的に低い結果となった。一方、7 学科では、4 と 5 の回答割合の合計が 100.00%となった。2025 年度後期は 100%となった学科は 8 学科であったから、ほぼ同じ傾向である。ただし、中国文学科、教育学科、書道学科、日本語学科、健康科学科は回答者数が 10 名以下であり、この点には留意が必要である。

「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計は 0.60%であり、全共科目全体の 1.46%と比較しても低い数値となっている。ただし、社会学科 5.56%、スポーツ科学科 3.03%、経営学科 1.41%が比較的高い数値を示している。2025 年度後期は、書道学科 20.00%、歴史文化学科 9.09%、日本文学科 7.14%が高い数値を示していたが、2026 年度前期はこれらの学科がいずれも 0.00%となっている。

変動係数の平均は 14.68%であり、2025 年度後期の 14.75%と比較してほぼ横ばいで、授業認識のバラツキは全体として変わらない。ただし、8 学科は平均値を上回っており、評価に一定のバラツキがみられる。特にスポーツ科学科は、4 と 5 の合計が 81.82%と相対的に低く、変動係数も最も高いことから、学生の授業認識が他学科よりも分散していると言える。

2025 年度後期は、書道学科の変動係数が 14.22%と高かったが、2026 年度前期は 9.12%へと大幅に低下した。また、国際関係学科は 7.20%から 13.27%、日本語学科は 19.25%から 11.13%、看護学科は 20.41%から 12.29%となっており、学科によって変化の方向に相違がみられた。

全体として、自然系科目に対する「シラバス通り」の評価は割合が高く、2025 年度後期と比較して平均値はやや低下したものの、肯定的な回答割合は上昇し、評価のバラツキも小さくなっている。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	42	4.333	0.642	14.825%
中国文学科	4	5.000	0.000	0.000%
英米文学科	27	4.519	0.569	12.592%
教育学科	5	4.600	0.490	10.650%
書道学科	4	4.750	0.433	9.116%
歴史文化学科	12	4.250	0.595	14.003%
社会経済学科	47	4.468	0.680	15.208%
現代経済学科	75	4.427	0.546	12.331%
中国語学科	25	4.400	0.632	14.374%
英語学科	31	4.516	0.615	13.628%
日本語学科	5	4.400	0.490	11.134%
法律学科	23	4.435	0.496	11.178%
政治学科	13	4.385	0.625	14.253%
国際関係学科	12	4.167	0.553	13.266%
国際文化学科	11	4.455	0.498	11.178%
経営学科	71	4.183	0.718	17.168%
スポーツ科学科	33	4.242	0.818	19.272%
健康科学科	7	4.571	0.495	10.825%
看護学科	39	4.436	0.545	12.289%
社会学科	18	4.000	0.667	16.667%
全 学	504	4.371	0.642	14.684%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	249	4.378	0.623
2	174	4.276	0.681
3	40	4.450	0.589
4	41	4.659	0.523

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	9.524%	47.619%	42.857%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	3.704%	40.741%	55.556%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	40.000%	60.000%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	8.333%	58.333%	33.333%
社会経済学科	0.000%	0.000%	10.638%	31.915%	57.447%
現代経済学科	0.000%	0.000%	2.667%	52.000%	45.333%
中国語学科	0.000%	0.000%	8.000%	44.000%	48.000%
英語学科	0.000%	0.000%	6.452%	35.484%	58.065%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	60.000%	40.000%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	56.522%	43.478%
政治学科	0.000%	0.000%	7.692%	46.154%	46.154%
国際関係学科	0.000%	0.000%	8.333%	66.667%	25.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	54.545%	45.455%
経営学科	1.408%	0.000%	9.859%	56.338%	32.394%
スポーツ科学科	0.000%	3.030%	15.152%	36.364%	45.455%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	42.857%	57.143%
看護学科	0.000%	0.000%	2.564%	51.282%	46.154%
社会学科	0.000%	5.556%	5.556%	72.222%	16.667%
全 学	0.198%	0.397%	6.548%	47.817%	45.040%

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	0.402%	6.426%	48.193%	44.980%
2	0.575%	0.575%	8.046%	52.299%	38.506%
3	0.000%	0.000%	5.000%	45.000%	50.000%
4	0.000%	0.000%	2.439%	29.268%	68.293%

8.4【Q2】自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答割合の合計は 45.71%で、最小 26.67%（政治学科）から最大 100.00%（書道学科）の間に分布している。2025 年度後期は回答割合は 58.86%であり、最小 25.00%（中国文学科）から最大 85.71%（書道学科）の間に分布していた。2026 年度前期は、4 と 5 の合計が 13.15 ポイント低下して

おり、自然系科目を難しいと認識する学生の割合は前年度後期と比較して減少している。

「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の回答割合の合計は、最小 0.00%（10 学科）から最大 20.00%（教育学科）の間に分布している（全学平均割合 4.55%）。難易度の全学平均値は 3.50 であった。2025 年度後期は、1 と 2 の合計が 0.00%となった学科は 13 学科であり、2026 年度前期は 9 学科となった。

この分布から、自然科学系科目を難しいと認識している学生が一定の割合でいることがわかる。ただし、「3 どちらとも言えない」の回答割合が 49.74%と最も高く、4 と 5 の合計 45.71%を上回っていることから、難易度に対する認識は中位の評価に集中している。2025 年度後期と比較すると、自然系科目を難しいと認識する傾向は弱まっていると言える。

変動係数の平均値（22.25%）を下回っているのは 16 学科であった。これらの 16 学科のバラツキは相対的に小さいが、回答分布は必ずしも 4 と 5 の評価に集中しているわけではなく、3 の評価に集中している学科も多い。

一方、教育学科 39.90%、歴史文化学科 31.94%、現代経済学科 23.55%、スポーツ科学科 27.81%の 4 学科は、平均値を上回るが、変動係数の平均値（22.25%）を上回り、バラツキがみられる。特に教育学科は 39.90%と突出して高く、学生の難易度に対する認識が分散している。ただし、教育学科の回答者数は 5 名であり、この点には留意が必要である。

2025 年度後期は、変動係数の平均値 20.18%を上回っていたのは、4 学科であった。2026 年度前期も 4 学科は平均値 22.25%を上回っており、難易度に対する評価のバラツキが比較的大きい傾向が継続している。

人文系、社会系、自然系といった学部の相違にかかわらず、自然系科目を難しいと認識している学生が一定の割合でいることが示されたが、2026 年度前期は「3 どちらとも言えない」の割合が最も高く、2025 年度後期と比較して難しいと認識する学生の割合が減少していることから、難易度に対する学生の認識には変化がみられる。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	47	3.596	0.641	17.830%
中国文学科	4	3.750	0.829	22.111%
英米文学科	30	3.433	0.616	17.928%
教育学科	5	3.400	1.356	39.896%
書道学科	4	4.500	0.500	11.111%
歴史文化学科	16	3.500	1.118	31.944%
社会経済学科	53	3.509	0.768	21.878%
現代経済学科	83	3.193	0.752	23.548%
中国語学科	25	3.520	0.755	21.441%
英語学科	35	3.657	0.754	20.611%
日本語学科	6	4.000	0.577	14.434%
法律学科	26	3.385	0.625	18.464%
政治学科	15	3.333	0.596	17.889%
国際関係学科	13	3.923	0.615	15.686%
国際文化学科	11	3.909	0.668	17.089%
経営学科	85	3.588	0.756	21.071%
スポーツ科学科	38	3.474	0.966	27.814%
健康科学科	8	3.625	0.696	19.199%
看護学科	42	3.429	0.728	21.246%
社会学科	25	3.560	0.697	19.591%
全 学	571	3.503	0.779	22.248%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	280	3.439	0.781
2	195	3.549	0.772
3	48	3.771	0.770
4	48	3.417	0.731

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.128%	42.553%	48.936%	6.383%
中国文学科	0.000%	0.000%	50.000%	25.000%	25.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	63.333%	30.000%	6.667%
教育学科	20.000%	0.000%	20.000%	40.000%	20.000%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
歴史文化学科	6.250%	6.250%	43.750%	18.750%	25.000%
社会経済学科	0.000%	5.660%	49.057%	33.962%	11.321%
現代経済学科	4.819%	3.614%	61.446%	27.711%	2.410%
中国語学科	0.000%	8.000%	40.000%	44.000%	8.000%
英語学科	0.000%	0.000%	51.429%	31.429%	17.143%
日本語学科	0.000%	0.000%	16.667%	66.667%	16.667%
法律学科	0.000%	0.000%	69.231%	23.077%	7.692%
政治学科	0.000%	0.000%	73.333%	20.000%	6.667%
国際関係学科	0.000%	0.000%	23.077%	61.538%	15.385%
国際文化学科	0.000%	0.000%	27.273%	54.545%	18.182%
経営学科	0.000%	3.529%	47.059%	36.471%	12.941%
スポーツ科学科	2.632%	10.526%	39.474%	31.579%	15.789%
健康科学科	0.000%	0.000%	50.000%	37.500%	12.500%
看護学科	2.381%	0.000%	57.143%	33.333%	7.143%
社会学科	0.000%	4.000%	44.000%	44.000%	8.000%
全 学	1.401%	3.152%	49.737%	35.201%	10.508%

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.786%	3.571%	52.857%	32.500%	9.286%
2	1.538%	1.538%	48.718%	36.923%	11.282%
3	0.000%	4.167%	31.250%	47.917%	16.667%
4	0.000%	6.250%	54.167%	31.250%	8.333%

8.5【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

自然系科目では、「2 質問したことがある」と回答した割合は 16.55％であり、2025 年度後期の 10.35％と比較すると 6.20 ポイント増加した。

そのなかで、7 学科は、自然系科目の平均値 16.55％を大きく上回っている。特に

中国文学科と教育学科は 40%以上と高い数値を示しているが、回答者数がそれぞれ 4 名、5 名と少ない。

一方、書道学科と日本語学科は「質問したことがある」と回答した割合が 0.00%であった。ただし、両学科とも回答者数が少ないため、慎重に判断する必要がある。また、法律学科 3.85%、政治学科 6.67%、国際関係学科 7.69%、国際文化学科 9.09%、経営学科 9.41%の 5 学科は 10%未満であり、質問経験のある学生の割合が相対的に低い結果となった。

2025 年度後期は、中国文学科、日本語学科、社会学科の 3 学科が 0.00%であったが、2026 年度前期は書道学科と日本語学科の 2 学科となった。特に中国文学科は 0.00%から 50.00%へ、社会学科は 0.00%から 12.00%へと上昇している。ただし、中国文学科は回答者数が少ないため、数値の変化には留意する必要がある。

全体として、自然系科目において教員に質問した経験のある学生の割合は、2025 年度後期より低下している。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q３「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	84.444%	15.556%
中国文学科	50.000%	50.000%
英米文学科	86.667%	13.333%
教育学科	60.000%	40.000%
書道学科	100.000%	0.000%
歴史文化学科	68.750%	31.250%
社会経済学科	75.472%	24.528%
現代経済学科	86.747%	13.253%
中国語学科	76.000%	24.000%
英語学科	79.412%	20.588%
日本語学科	100.000%	0.000%
法律学科	96.154%	3.846%
政治学科	93.333%	6.667%
国際関係学科	92.308%	7.692%
国際文化学科	90.909%	9.091%
経営学科	90.588%	9.412%
スポーツ科学科	76.316%	23.684%
健康科学科	87.500%	12.500%
看護学科	71.429%	28.571%
社会学科	88.000%	12.000%
全 学	83.451%	16.549%

学年	1	2
1	82.143%	17.857%
2	86.458%	13.542%
3	87.500%	12.500%
4	75.000%	25.000%

8.6【Q4】質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 63.48%で、学生は教員の対応を概ね適切と評価している。ただし、2025 年度後期の 69.93%と比較すると、6.45 ポイント低下した。フィードバックが適切であったかどうかの平均値は 3.98 であり、2025 年度後期の 4.06 から 0.08 ポイント低下した。

変動係数の平均値は 25.40%であった。これを上回ったのは、6 学科であり、質問対応やフィードバックに対する評価が分散している。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	17	3.765	0.807	21.424%
中国文学科	3	4.333	0.943	21.757%
英米文学科	16	3.938	1.144	29.052%
教育学科	2	4.000	1.000	25.000%
書道学科	1	5.000	0.000	0.000%
歴史文化学科	6	4.000	1.000	25.000%
社会経済学科	32	3.969	0.918	23.131%
現代経済学科	25	4.160	1.007	24.211%
中国語学科	13	3.846	1.099	28.566%
英語学科	12	4.000	0.913	22.822%
日本語学科	3	4.333	0.943	21.757%
法律学科	4	4.750	0.433	9.116%
政治学科	3	3.333	1.247	37.417%
国際関係学科	2	4.000	1.000	25.000%
国際文化学科	3	3.667	0.471	12.856%
経営学科	36	3.806	1.023	26.869%
スポーツ科学科	21	4.048	1.133	27.989%
健康科学科	4	3.750	0.829	22.111%
看護学科	19	4.053	1.099	27.118%
社会学科	8	4.250	0.661	15.563%
全 学	230	3.978	1.011	25.402%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	115	3.983	0.995
2	77	3.948	0.979
3	14	3.714	1.030
4	24	4.208	1.117

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	47.059%	29.412%	23.529%
中国文学科	0.000%	0.000%	33.333%	0.000%	66.667%
英米文学科	6.250%	0.000%	31.250%	18.750%	43.750%
教育学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
社会経済学科	0.000%	3.125%	34.375%	25.000%	37.500%
現代経済学科	0.000%	8.000%	20.000%	20.000%	52.000%
中国語学科	0.000%	15.385%	23.077%	23.077%	38.462%
英語学科	0.000%	0.000%	41.667%	16.667%	41.667%
日本語学科	0.000%	0.000%	33.333%	0.000%	66.667%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
政治学科	0.000%	33.333%	33.333%	0.000%	33.333%
国際関係学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%	0.000%
経営学科	2.778%	2.778%	38.889%	22.222%	33.333%
スポーツ科学科	4.762%	0.000%	33.333%	9.524%	52.381%
健康科学科	0.000%	0.000%	50.000%	25.000%	25.000%
看護学科	5.263%	5.263%	10.526%	36.842%	42.105%
社会学科	0.000%	0.000%	12.500%	50.000%	37.500%
全 学	1.739%	3.478%	31.304%	22.174%	41.304%

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.739%	5.217%	24.348%	30.435%	38.261%
2	1.299%	1.299%	38.961%	18.182%	40.260%
3	0.000%	7.143%	50.000%	7.143%	35.714%
4	4.167%	0.000%	29.167%	4.167%	62.500%

8.7【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生の意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が約 8 割（78.25%）で、学生は概ね自身の熱意を評価している。2025 年度後期の 80.77%と比較すると、1.02 ポイント上昇した。学生意欲の平均値は 4.02 であり、20

25 年度後期の 4.06 と比較すると、横ばいである。

気になるのは、歴史文化学科と社会経済学科の傾向である。歴史文化学科の変動係数は 23.64%で、平均値 20.67%を上回っている。回答分布をみると、「3 どちらとも言えない」が 43.75%と高く、「4」と「5」の合計は 50.00%にとどまっている。社会経済学科も変動係数が 24.13%と高く、「1」と「2」の合計が 7.69%、「3」が 23.08%を占めており、学生の意欲に対する認識にバラツキがみられる。また、英語学科 22.94%、スポーツ科学科 22.61%、現代経済学科 21.97%、中国語学科 21.43%も平均値を上回っており、評価が分散している。

一方、中国文学科（9.12%）、教育学科（9.52%）、書道学科（10.19%）、国際文化学科（10.38%）、健康科学科（11.07%）の変動係数は低く、かつ「1」と「2」が 0.00%であり、意欲の高さは顕著であった。特に、中国文学科、教育学科、書道学科、国際文化学科、健康科学科は「4」と「5」の合計が 100.00%となっており、上位評価に集中している。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q 5「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	47	4.021	0.729	18.129%
中国文学科	4	4.750	0.433	9.116%
英米文学科	30	4.067	0.680	16.718%
教育学科	5	4.200	0.400	9.524%
書道学科	4	4.250	0.433	10.189%
歴史文化学科	16	3.625	0.857	23.640%
社会経済学科	52	3.846	0.928	24.125%
現代経済学科	82	3.951	0.868	21.972%
中国語学科	26	4.077	0.874	21.430%
英語学科	35	4.086	0.937	22.939%
日本語学科	6	4.000	0.816	20.412%
法律学科	26	3.923	0.781	19.900%
政治学科	15	4.200	0.833	19.825%
国際関係学科	13	3.923	0.730	18.602%
国際文化学科	11	4.636	0.481	10.375%
経営学科	85	3.965	0.804	20.269%
スポーツ科学科	38	4.053	0.916	22.606%
健康科学科	8	4.375	0.484	11.066%
看護学科	42	4.167	0.814	19.538%
社会学科	25	3.920	0.688	17.556%
全 学	570	4.016	0.830	20.673%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	280	3.954	0.875
2	194	4.005	0.783
3	48	3.979	0.803
4	48	4.458	0.611

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	2.128%	19.149%	53.191%	25.532%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	20.000%	53.333%	26.667%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	80.000%	20.000%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	75.000%	25.000%
歴史文化学科	0.000%	6.250%	43.750%	31.250%	18.750%
社会経済学科	1.923%	5.769%	23.077%	44.231%	25.000%
現代経済学科	2.439%	2.439%	18.293%	51.220%	25.610%
中国語学科	3.846%	0.000%	11.538%	53.846%	30.769%
英語学科	2.857%	2.857%	14.286%	42.857%	37.143%
日本語学科	0.000%	0.000%	33.333%	33.333%	33.333%
法律学科	0.000%	3.846%	23.077%	50.000%	23.077%
政治学科	0.000%	6.667%	6.667%	46.667%	40.000%
国際関係学科	0.000%	7.692%	7.692%	69.231%	15.385%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	36.364%	63.636%
経営学科	1.176%	2.353%	20.000%	51.765%	24.706%
スポーツ科学科	0.000%	10.526%	7.895%	47.368%	34.211%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	62.500%	37.500%
看護学科	0.000%	4.762%	11.905%	45.238%	38.095%
社会学科	0.000%	0.000%	28.000%	52.000%	20.000%
全 学	1.053%	3.333%	17.368%	49.474%	28.772%

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.429%	4.286%	19.286%	47.500%	27.500%
2	1.031%	2.062%	18.041%	53.093%	25.773%
3	0.000%	6.250%	14.583%	54.167%	25.000%
4	0.000%	0.000%	6.250%	41.667%	52.083%

8.8【Q6】教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員の熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 93.01%であった。2025 年度後期の 90.22%と比較すると 2.79 ポイント上昇しており、学生は教員の熱意を非常に高いと評価している。教員熱意の平均値は 4.57 であり、2025 年度後期の 4.475 と比較しても上昇している。

特に、中国文学科、英米文学科、教育学科、書道学科、国際文化学科、健康科学科は、「1」から「3」までの回答割合が 0.00%であり、「4」と「5」の合計が 100.00%を示した。また、日本文学科 80.85%、教育学科 80.00%、政治学科 80.00%、スポーツ科学科 76.32%、看護学科 85.71%は、「5 強くそう思う」の割合が高く、自然系科目の教員の熱意は非常に高いと評価している。

一方で、歴史文化学科は「2」が 6.25%、「4」と「5」の合計が 93.75%であった。また、日本語学科は「3」が 16.67%と比較的高く、「4」と「5」の合計は 83.33%にとどまっている。書道学科は、「5」が 100.00%となり、評価が大きく改善した。

変動係数の平均値は 14.67%であった。これを上回ったのは、8 学科であり、教員熱意に対する評価に一定のバラツキがみられる。一方、書道学科の変動係数は 0.00%であり、全員が「5」と回答している。

この結果から、自然系科目に対する教員熱意の評価は 2025 年度後期よりも向上しており、学生の認識は上位評価に集中していることが確認できる。ただし、書道学科や中国文学科、教育学科などは回答者数が少ないため、これらの特徴的な傾向については留意しておく必要があるだろう。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	47	4.766	0.514	10.788%
中国文学科	4	4.750	0.433	9.116%
英米文学科	30	4.700	0.458	9.750%
教育学科	5	4.800	0.400	8.333%
書道学科	4	5.000	0.000	0.000%
歴史文化学科	16	4.375	0.781	17.843%
社会経済学科	53	4.491	0.717	15.966%
現代経済学科	83	4.434	0.698	15.733%
中国語学科	26	4.538	0.634	13.977%
英語学科	35	4.629	0.636	13.748%
日本語学科	6	4.500	0.764	16.973%
法律学科	26	4.500	0.747	16.595%
政治学科	15	4.667	0.789	16.903%
国際関係学科	13	4.462	0.634	14.218%
国際文化学科	11	4.727	0.445	9.421%
経営学科	85	4.388	0.737	16.798%
スポーツ科学科	38	4.711	0.558	11.838%
健康科学科	8	4.750	0.433	9.116%
看護学科	42	4.810	0.499	10.384%
社会学科	25	4.440	0.804	18.108%
全 学	572	4.565	0.670	14.673%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	281	4.537	0.700
2	195	4.559	0.649
3	48	4.542	0.706
4	48	4.771	0.467

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	4.255%	14.894%	80.851%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	30.000%	70.000%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	80.000%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
歴史文化学科	0.000%	6.250%	0.000%	43.750%	50.000%
社会経済学科	0.000%	1.887%	7.547%	30.189%	60.377%
現代経済学科	0.000%	2.410%	4.819%	39.759%	53.012%
中国語学科	0.000%	0.000%	7.692%	30.769%	61.538%
英語学科	0.000%	0.000%	8.571%	20.000%	71.429%
日本語学科	0.000%	0.000%	16.667%	16.667%	66.667%
法律学科	0.000%	3.846%	3.846%	30.769%	61.538%
政治学科	0.000%	6.667%	0.000%	13.333%	80.000%
国際関係学科	0.000%	0.000%	7.692%	38.462%	53.846%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	27.273%	72.727%
経営学科	0.000%	2.353%	8.235%	37.647%	51.765%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	5.263%	18.421%	76.316%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
看護学科	0.000%	0.000%	4.762%	9.524%	85.714%
社会学科	0.000%	4.000%	8.000%	28.000%	60.000%
全 学	0.000%	1.573%	5.420%	27.972%	65.035%

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	2.135%	5.694%	28.470%	63.701%
2	0.000%	1.026%	5.641%	29.744%	63.590%
3	0.000%	2.083%	6.250%	27.083%	64.583%
4	0.000%	0.000%	2.083%	18.750%	79.167%

8.9【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 89.14%であり、学生自身の成長感覚は高い。2025 年度後期の 90.23%と比較すると、0.53 ポイント上昇した。特に、4 学科が、5 と 4 の合計が 100.00%で、成長感覚が非常に高い。こ

れに対して、6 学科は、全体の平均値 89.14%を下回っている。

成長感覚の平均値は 4.31 であった（標準偏差 0.73）。2025 年度後期の平均値 4.34 と比較すると、わずかに低下したものの、上位評価の割合は上昇しており、学生の成長感覚は概ね高い水準を維持している。

変動係数からみると、学科間の相違と格差が明確となる。変動係数は、5 と 4 の割合が 100.00%であった中国文学科が 0.00%、日本語学科が 10.88%を示し、平均値 16.92%と比べて非常に低かった。逆に、5 と 4 の割合が 80.00%であった教育学科の変動係数は 27.27%と最も高く、次いで国際関係学科 20.79%、政治学科 19.99%、経営学科 18.95%、中国語学科 18.73%、社会学科 18.71%、歴史文化学科 18.40%、書道学科 17.68%、現代経済学科 17.86%となっており、平均値を上回っている。これらの学科では、成長感覚に対する認識にバラツキがみられる。

2025 年度後期は変動係数の平均値が 17.27%であり、それを上回った学科は 5 学科であった。2026 年度前期は平均値が 16.92%となり、それを上回った学科は 6 学科であった。2025 年度後期と比較してやや低下した。このことから、成長感覚に対する学生の認識のバラツキはやや小さくなっているか横ばいである。

また、学年別にみると、4 年生の平均値が 4.67 と最も高く、次いで 3 年生 4.35、2 年生 4.29、1 年生 4.25 となっている。特に 4 年生は、「4」と「5」の合計が 97.92%と高く、他の学年に比べて成長感覚を強く認識している。

以上の結果から、自然系科目に対する学生の成長感覚は全体として高く評価されており、2025 年度後期と比較しても上位評価の割合がわずかに上昇している。また、変動係数の平均値も低下していることから、学生の認識が高い評価に集中する傾向が確認された。ただし、教育学科や書道学科、中国文学科などは回答者数が少ないため、留意する必要がある。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	47	4.468	0.614	13.735%
中国文学科	4	5.000	0.000	0.000%
英米文学科	30	4.400	0.611	13.887%
教育学科	5	4.400	1.200	27.273%
書道学科	4	4.000	0.707	17.678%
歴史文化学科	16	4.063	0.747	18.397%
社会経済学科	53	4.226	0.691	16.342%
現代経済学科	83	4.265	0.762	17.862%
中国語学科	26	4.192	0.785	18.734%
英語学科	35	4.371	0.680	15.550%
日本語学科	6	4.333	0.471	10.879%
法律学科	26	4.308	0.666	15.465%
政治学科	15	4.400	0.879	19.986%
国際関係学科	13	4.154	0.863	20.787%
国際文化学科	11	4.455	0.498	11.178%
経営学科	84	4.190	0.794	18.947%
スポーツ科学科	38	4.474	0.595	13.310%
健康科学科	8	4.625	0.484	10.468%
看護学科	42	4.452	0.662	14.868%
社会学科	25	4.000	0.748	18.708%
全 学	571	4.305	0.728	16.922%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	281	4.246	0.759
2	194	4.289	0.710
3	48	4.354	0.692
4	48	4.667	0.514

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	6.383%	40.426%	53.191%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	6.667%	46.667%	46.667%
教育学科	0.000%	20.000%	0.000%	0.000%	80.000%
書道学科	0.000%	0.000%	25.000%	50.000%	25.000%
歴史文化学科	0.000%	6.250%	6.250%	62.500%	25.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	15.094%	47.170%	37.736%
現代経済学科	1.205%	1.205%	8.434%	48.193%	40.964%
中国語学科	0.000%	3.846%	11.538%	46.154%	38.462%
英語学科	0.000%	0.000%	11.429%	40.000%	48.571%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	66.667%	33.333%
法律学科	0.000%	0.000%	11.538%	46.154%	42.308%
政治学科	0.000%	6.667%	6.667%	26.667%	60.000%
国際関係学科	0.000%	7.692%	7.692%	46.154%	38.462%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	54.545%	45.455%
経営学科	2.381%	0.000%	9.524%	52.381%	35.714%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	5.263%	42.105%	52.632%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
看護学科	0.000%	0.000%	9.524%	35.714%	54.762%
社会学科	0.000%	4.000%	16.000%	56.000%	24.000%
全 学	0.525%	1.226%	9.107%	45.534%	43.608%

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.712%	1.423%	11.032%	46.263%	40.569%
2	0.515%	1.031%	8.763%	48.454%	41.237%
3	0.000%	2.083%	6.250%	45.833%	45.833%
4	0.000%	0.000%	2.083%	29.167%	68.750%

8.10【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

【総合満足】

授業内容の認識に関する総合満足の平均値は 8.32 であった。2025 年度後期は 8.29 であり、前年度後期と比較すると 0.03 ポイント上昇し、ほぼ同水準を維持している。

満足度の高い 10（大いに満足した）から 8 までの回答割合の合計は 73.56%であり、7 割を超えていることから、学生は自然系科目に対して総合的に高い満足度を示している。2025 年度後期は 71.48%であり、2.08 ポイント上昇した。一方、満足度の低い 1 から 4 までの回答割合の合計は 2.28%であった。2025 年度後期は 1 から 3 までの回答割合が 0.92%であり、集計範囲が異なるため単純な比較はできないが、2026 年度前期の 1 から 3 までの合計は 0.88%であり、前年度後期とほぼ同水準であった。

変動係数から授業認識の総合満足度を判断すると、次のように説明できる。変動係数の平均値（18.40%）を上回っている学科は 6 学科であった。

2025 年度後期は変動係数の平均値が 19.44%であり、それを上回ったのは 9 学科であった。2026 年度前期は平均値が 18.40%に低下しており、総合満足度に関する評価のバラツキは前年度後期よりも 1 ポイント小さくなっている。

次に、満足度の高い 8 から 10 までの回答割合に注目すると、健康科学科 100.00%、国際関係学科 92.31%、スポーツ科学科 86.49%などが高い。特に健康科学科は 8 から 10 までの回答割合が 100.00%であり、かつ総合満足度の平均値も 9.50 と非常に高い。ただし、健康科学科は回答者数が 8 名、中国文学科は 4 名、教育学科は 5 名と少ないため、この点には留意が必要である。

一方、歴史文化学科は 8 から 10 までの合計が下回ったのは 7 学科ある。特に歴史文化学科は平均値 7.50 と最も低く、8 から 10 までの回答割合も 56.25%にとどまっている。また、社会経済学科は変動係数が 21.60%と高く、総合満足度に関する学生の評価にバラツキがみられる。

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	47	8.447	1.381	16.348%
中国文学科	4	9.250	1.299	14.044%
英米文学科	30	8.533	1.335	15.645%
教育学科	5	8.600	1.200	13.953%
書道学科	4	8.500	1.118	13.153%
歴史文化学科	16	7.500	1.414	18.856%
社会経済学科	53	7.906	1.708	21.599%
現代経済学科	83	8.205	1.471	17.924%
中国語学科	26	8.577	1.758	20.496%
英語学科	35	8.486	1.442	16.989%
日本語学科	6	8.500	0.957	11.264%
法律学科	26	8.346	1.663	19.923%
政治学科	15	8.267	1.843	22.291%
国際関係学科	13	8.231	1.423	17.283%
国際文化学科	11	8.455	1.157	13.686%
経営学科	85	8.165	1.721	21.076%
スポーツ科学科	37	8.811	1.159	13.151%
健康科学科	8	9.500	0.707	7.443%
看護学科	42	8.571	1.348	15.723%
社会学科	25	7.800	1.327	17.008%
全 学	571	8.319	1.531	18.401%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	280	8.182	1.617
2	195	8.267	1.509
3	48	8.458	1.274
4	48	9.188	0.928

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.128%	8.511%	17.021%	14.894%	29.787%	27.660%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	0.000%	0.000%	75.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.333%	0.000%	0.000%	16.667%	23.333%	30.000%	26.667%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	40.000%	0.000%	40.000%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	25.000%	25.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	6.250%	0.000%	31.250%	37.500%	12.500%	6.250%
社会経済学科	0.000%	0.000%	1.887%	0.000%	7.547%	11.321%	20.755%	15.094%	20.755%	22.642%
現代経済学科	0.000%	0.000%	1.205%	1.205%	2.410%	3.614%	19.277%	32.530%	14.458%	25.301%
中国語学科	0.000%	0.000%	3.846%	0.000%	3.846%	3.846%	3.846%	30.769%	7.692%	46.154%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.857%	5.714%	20.000%	20.000%	14.286%	37.143%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	16.667%	33.333%	33.333%	16.667%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.846%	3.846%	3.846%	23.077%	3.846%	30.769%	30.769%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	6.667%	6.667%	0.000%	20.000%	6.667%	26.667%	33.333%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	7.692%	0.000%	0.000%	0.000%	53.846%	23.077%	15.385%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	27.273%	27.273%	18.182%	27.273%
経営学科	0.000%	2.353%	0.000%	1.176%	3.529%	3.529%	17.647%	31.765%	9.412%	30.588%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	5.405%	8.108%	21.622%	29.730%	35.135%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	25.000%	62.500%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.762%	2.381%	11.905%	23.810%	26.190%	30.952%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	4.000%	4.000%	4.000%	16.000%	48.000%	16.000%	8.000%
全 学	0.000%	0.350%	0.525%	1.401%	3.152%	4.203%	16.813%	25.394%	19.440%	28.722%

【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.000%	0.357%	1.071%	1.071%	4.643%	5.714%	17.143%	24.286%	18.929%	26.786%
2	0.000%	0.513%	0.000%	2.051%	2.564%	3.590%	20.000%	25.128%	19.487%	26.667%
3	0.000%	0.000%	0.000%	2.083%	0.000%	2.083%	14.583%	35.417%	18.750%	27.083%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.167%	22.917%	22.917%	50.000%

8.11　クロス表に関する結果(自然系)

自然系科目を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意と学生意欲」とのクロス表（表 1：回答数、表 2：パーセント）では、それぞれの行で最も高い数値を赤字で示している。また、右端の列（4＋5）には、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の回答割合を加算した数値を記載している。なお、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表に示した割合との間に小数点以下の誤差が生じる場合がある。

この回答数を示した表 1 に注目すると、教員熱意に対する評価が高くなるにつれて、学生意欲に対する評価も高くなる傾向がみられる。特に、教員熱意を 4「どちらかと言えばそう思う」と評価した学生では、学生意欲を 4 と評価した回答が 103 件と最も多く、その割合は 64.78%であった。また、教員熱意を 5「強くそう思う」と

評価した学生では、学生意欲を 5 と評価した回答が 155 件と最も多く、その割合は41.78%であった。

一方、教員熱意に対する評価が低い学生については、学生意欲に対する評価も低い傾向がみられる。教員熱意を 2「どちらかと言えばそう思わない」と評価した学生では、学生意欲を 2 と評価した回答が 3 件であり、33.33%を占めている。また、教員熱意を 3「どちらとも言えない」と評価した学生では、学生意欲を 3 と評価した回答が 20 件と最も多かった。

このように、教員熱意と学生意欲のクロス集計では、両者の評価が同じ水準に集中する傾向が確認できる。特に、教員熱意に対して肯定的な評価をしている学生ほど、自分自身の授業への意欲についても肯定的に評価する傾向がみられる。

以上の結果から、自然系科目においても、学生が教員の熱意を高く評価することと、学生自身が授業に意欲的に取り組んでいると認識することとの間には、一定の関連性があると考えられる。

表 1

●【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［回答数］

		学生意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	2 どちらかと言えばそう思わない	1	3	3	0	2	9	2
	3 どちらとも言えない	2	2	20	6	1	31	7
	4 どちらかと言えばそう思う	1	6	43	103	6	159	109
	5 強くそう思う	2	8	33	173	155	371	328
合 計		6	19	99	282	164	570	446

表 2

●【 全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［パーセント］

		学生意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%
	2 どちらかと言えばそう思わない	11.111%	33.333%	33.333%	0.000%	22.222%	100.000%	22.222%
	3 どちらとも言えない	6.452%	6.452%	64.516%	19.355%	3.226%	100.000%	22.581%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.629%	3.774%	27.044%	64.780%	3.774%	100.000%	68.553%
	5 強くそう思う	0.539%	2.156%	8.895%	46.631%	41.779%	100.000%	88.410%

8.12　相関係数表に関する結果(自然系)

相関係数に関しては、＋0.3 以上＋0.6 未満（－0.3 以下－0.6 超）で弱い正（負）の相関関係、＋0.6 以上＋1 未満（－0.6 以下－1 超）で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ示している。

分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外のすべての変数（項目）に関して、正の相関関係がみられた。

まず、自然系科目に対する学生の「総合満足度」は、特に「成長実感（成長感覚）」との間に強い正の相関関係（0.667）がみられた。続いて、相関係数の高い順に「教員熱意

0.548」「学生意欲 0.521」「シラバス通り 0.451」「FB 丁寧 0.434」となっている。この結果から、「総合満足度」は、学生が授業を通じて「成長感覚」を得られたと認識しているかどうかと、最も強く関連していることがわかる。

次に、「成長感覚」との相関関係を順にみていくと、「学生意欲」との間に弱い正の相関関係 0.578 がみられた。その後は、相関係数の高い順に「教員熱意 0.567」「シラバス通り 0.483」「FB 丁寧 0.479」と続く。つまり、「成長感覚」は、学生自身が意欲をもって授業に取り組んでいるかどうかと最も強く関連しており、教員の熱意とも比較的強い関連性があることを示している。ただし、いずれも 0.6 未満であり、本報告書の基準では弱い正の相関関係に分類される。

さらに、「学生意欲」と「教員熱意」との間には、弱い正の相関関係 0.454 がみられた。また、「FB 丁寧」と「教員熱意」との間には 0.436、「FB 丁寧」と「学生意欲」との間には 0.395 の弱い正の相関関係が確認された。この結果から、教員の熱意や丁寧なフィードバックに対する評価と、学生自身の授業への意欲との間にも一定の関連性があることがわかる。

「難易度が適切かどうか」に関しては、相関係数表に基づくと、他の項目との間に本報告書の基準に該当する相関関係は確認されなかった。

まとめると、自然系科目においては、「成長感覚」と「総合満足度」との間に強い正の相関関係（0.667）が確認された。また、「学生意欲」と「成長感覚」(0.578)、「教員熱意」と「成長感覚」(0.567）との間にも比較的高い正の相関関係がみられた。このことから、学生が意欲的に授業に取り組み、教員の熱意を感じることと、授業を通じた成長実感との間には関連性があり、さらに成長実感は総合満足度と強く結びついていることが示された。

したがって、自然系科目における学生の総合満足度を考えるうえでは、授業を通じて知識や技能が向上したという「成長感覚」が重要な要素となっていると考えられる。

●【 **全学共通科目（自然系）〈学生所属別〉** 】相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラバス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【学生意欲】	【教員熱意】	【成長感覚】	【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	-0.012	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.486	-0.044	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.388	0.041	0.395	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.378	0.031	0.436	0.454	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.483	-0.053	0.479	0.578	0.567	1.000	
Q8	【総合満足】	0.451	-0.085	0.434	0.521	0.548	0.667	1.000

9 全学共通科目（保健体育系・学生所属別）の調査結果と分析

9.1.対象科目数・対象人数・回答率

次に、保健体育系の科目を学生書z区別に分析する。対象科目は23科目、対象人数は1.677名である。

保健体育系科目の回答率は41.98%であり、2025年度後期の回答率32.44%と比較すると9.54ポイント上昇しており、回答状況は改善している。ただし、2026年度前期の全共科目全体の回答率42.90%との比較では、やや低い。2025年度後期には全共科目全体の回答率34.28%を1.84ポイント下回っていたので、同様の傾向である。

学科別の回答率をみると、最も高かったのは看護学科72.55%であり、次いで書道学科65.00%、健康科学科60.22%、歴史文化学科50.00%と続く。回答率が50%以上となったのは、この4学科であった。

これに対して、回答率が30%を下回ったのは、国際文化学科19.23%、中国文学科20.83%、国際関係学科23.73%の3学科であった。最も高い看護学科と最も低い国際文化学科との間には53.32ポイントの差があり、学科間の回答状況に大きな相違がみられる。

学年別にみると、1年生51.92%、2年生30.64%、3年生23.26%、4年生13.58%となっており、学年が上がるにつれて回答率が低下している。特に1年生と4年生の差は38.34ポイントに達している。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

学科別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	54	61	115	46.957%
中国文学科	5	19	24	20.833%
英米文学科	44	78	122	36.066%
教育学科	29	42	71	40.845%
書道学科	13	7	20	65.000%
歴史文化学科	38	38	76	50.000%
社会経済学科	42	50	92	45.652%
現代経済学科	31	66	97	31.959%
中国語学科	16	26	42	38.095%
英語学科	47	71	118	39.831%
日本語学科	23	25	48	47.917%
法律学科	17	35	52	32.692%
政治学科	28	43	71	39.437%
国際関係学科	14	45	59	23.729%
国際文化学科	10	42	52	19.231%
経営学科	86	160	246	34.959%
スポーツ科学科	32	47	79	40.506%
健康科学科	56	37	93	60.215%
看護学科	74	28	102	72.549%
社会学科	45	53	98	45.918%
全 学	704	973	1,677	41.980%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	514	476	990	51.919%
2	159	360	519	30.636%
3	20	66	86	23.256%
4	11	70	81	13.580%

9.1【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。【シラバス既知】

保健体育系科目のシラバス既知率は 82.63%であり、全共科目全体の 81.90%を 0.73 ポイント上回っている。2025 年度後期の既知率 80.50%と比較すると 2.13 ポイント上昇しており、シラバスに対する学生の認識はやや改善傾向にある。

学科別にみると、既知率が最も高かったのは看護学科 94.52%であり、次いで経営学科 93.02%、国際文化学科 90.91%と続く。これらの学科では、9 割以上の学生がシラバス内容を認識している。

これに対して、中国文学科 50.00%、歴史文化学科 69.23%、スポーツ科学科 71.88%、教育学科 72.41%、社会学科 73.33%、日本語学科 73.91%では、全体平均を相対的に大きく下回っている。特に中国文学科は回答者数が 5 名と少ないものの、既知率が 50.00%にとどまっている。

2025 年度後期には、日本語学科、政治学科、国際関係学科、国際文化学科の 4 学科で既知率が 100%であったが、2026 年度前期には 100%の学科はみられなかった。一方で、保健体育系科目全体の既知率は上昇していることから、学科ごとの変動はあるものの、総合的にはシラバスに対する認識は改善している。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	16.667%	83.333%
中国文学科	50.000%	50.000%
英米文学科	20.455%	79.545%
教育学科	27.586%	72.414%
書道学科	15.385%	84.615%
歴史文化学科	30.769%	69.231%
社会経済学科	16.279%	83.721%
現代経済学科	16.129%	83.871%
中国語学科	18.750%	81.250%
英語学科	17.021%	82.979%
日本語学科	26.087%	73.913%
法律学科	17.647%	82.353%
政治学科	17.857%	82.143%
国際関係学科	14.286%	85.714%
国際文化学科	9.091%	90.909%
経営学科	6.977%	93.023%
スポーツ科学科	28.125%	71.875%
健康科学科	15.789%	84.211%
看護学科	5.479%	94.521%
社会学科	26.667%	73.333%
全 学	17.373%	82.627%

学年	1	2
1	17.021%	82.979%
2	20.000%	80.000%
3	10.000%	90.000%
4	9.091%	90.909%

9.2【Q1b】この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。【シラバス通り】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 93.60%であり、9 割を大きく超えている。回答平均値は 4.55、標準偏差 0.66 であった。2025 年度後期は、4 と 5 の合計が 94.49%、平均値 4.56 であったことから、2026 年度前期はそれぞれ 0.89 ポイント、0.01 ポイント低下したものの、ほぼ同水準を維持している。

学科別にみると、8 学科では、4 と 5 の回答割合の合計が 100%であった。これらの学科では、シラバスに沿った授業運営が認知されている。

一方、歴史文化学科では 4 と 5 の合計が 76.67%であり、他学科と比較して低い水準となった。また、教育学科 88.00%、健康科学科 88.68%、スポーツ科学科 84.62%でも、全体平均を下回っている。これらの学科では、シラバスと実際の授業内容との一致に関する認識に相違がみられる。

変動係数の平均値は 14.42%であり、2025 年度後期の 13.28%から 1.14 ポイント上昇した。変動係数が高い学科は、中国語学科 20.40%、歴史文化学科 20.63%、英

語学科 17.65%、スポーツ科学科 16.60%、経営学科 15.79%、健康科学科 15.52%、教育学科 15.48%などであり、回答のバラツキが相対的に大きい。

これに対して、現代経済学科 8.20%、国際文化学科 8.33%、看護学科 10.38%、書道学科 10.54%、日本語学科 10.65%などでは変動係数が低く、学生の評価が上位に集中している。ただし、中国文学科は回答者数が 3 名であり、変動係数 0.00%という結果については、少人数による影響に留意する必要がある。

以上の結果から、保健体育系科目では、シラバスに沿った授業運営が概ね高く評価されている。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	47	4.681	0.510	10.890%
中国文学科	3	5.000	0.000	0.000%
英米文学科	36	4.528	0.687	15.165%
教育学科	25	4.520	0.700	15.480%
書道学科	13	4.615	0.487	10.541%
歴史文化学科	30	4.167	0.860	20.630%
社会経済学科	38	4.579	0.674	14.720%
現代経済学科	26	4.808	0.394	8.198%
中国語学科	14	4.429	0.904	20.402%
英語学科	42	4.500	0.794	17.652%
日本語学科	20	4.600	0.490	10.650%
法律学科	14	4.500	0.500	11.111%
政治学科	27	4.556	0.497	10.908%
国際関係学科	12	4.583	0.493	10.757%
国際文化学科	10	4.800	0.400	8.333%
経営学科	82	4.427	0.699	15.789%
スポーツ科学科	26	4.500	0.747	16.595%
健康科学科	53	4.396	0.682	15.522%
看護学科	72	4.750	0.493	10.379%
社会学科	35	4.600	0.595	12.940%
全 学	625	4.549	0.656	14.416%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	457	4.556	0.656
2	140	4.529	0.670
3	18	4.611	0.591
4	10	4.400	0.490

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	2.128%	27.660%	70.213%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
英米文学科	0.000%	2.778%	2.778%	33.333%	61.111%
教育学科	0.000%	0.000%	12.000%	24.000%	64.000%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	38.462%	61.538%
歴史文化学科	0.000%	3.333%	20.000%	33.333%	43.333%
社会経済学科	0.000%	2.632%	2.632%	28.947%	65.789%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	19.231%	80.769%
中国語学科	0.000%	7.143%	7.143%	21.429%	64.286%
英語学科	0.000%	4.762%	4.762%	26.190%	64.286%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	40.000%	60.000%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	44.444%	55.556%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	41.667%	58.333%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	80.000%
経営学科	1.220%	0.000%	4.878%	42.683%	51.220%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	15.385%	19.231%	65.385%
健康科学科	0.000%	0.000%	11.321%	37.736%	50.943%
看護学科	0.000%	0.000%	2.778%	19.444%	77.778%
社会学科	0.000%	0.000%	5.714%	28.571%	65.714%
全 学	0.160%	0.960%	5.280%	31.040%	62.560%

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	1.094%	5.908%	29.322%	63.676%
2	0.714%	0.714%	3.571%	35.000%	60.000%
3	0.000%	0.000%	5.556%	27.778%	66.667%
4	0.000%	0.000%	0.000%	60.000%	40.000%

9.3【Q2】自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。【難易度適切】

「3 適切だった」の回答割合は 67.19%であり、約 3 分の 2 の学生が保健体育系科目の難易度を適切であると認識している。「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の回答割合の合計は 15.98%であった。2025 年度後期の 21.83%と比較すると 5.85 ポイント低下しており、授業内容を難しいと認識する学生の割合は減少してい

る。

一方、「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の回答割合の合計は 16.83%であり、2025 年度後期の 13.93%から 2.90 ポイント上昇した。難しいと認識する学生が減少する一方、易しいと認識する学生が増加していることが確認できる。

難易度の平均値は 2.97 であり、2025 年度後期の 3.05 から 0.08 ポイント低下した。この結果から、保健体育系科目の難易度に関する学生の認識は、前年度後期と比較してやや易しい方向に変化したと言える。

学科別に「3 適切だった」の割合をみると、国際文化学科 81.82%が最も高く、次いで中国語学科 75.00%、国際関係学科 75.00%、社会経済学科 72.09%、現代経済学科 70.97%などとなっている。これらの学科では、授業内容の難易度が適切であるという認識が比較的強い。

一方、難しいと認識する学生の割合（4 と 5 の合計）が高かったのは、英米文学科 22.73%、書道学科 23.08%、歴史文化学科 23.08%、英語学科 23.40%、社会学科 22.22%、政治学科 21.43%などであった。これに対して、易しいと認識する学生の割合（1 と 2 の合計）が高かったのは、中国文学科 33.33%、政治学科 28.57%、国際関係学科 25.00%、歴史文化学科 20.51%、社会経済学科 20.93%などである。

変動係数の平均値は 28.72%であり、2025 年度後期の 28.52%と比較すると 0.20 ポイント上昇している。変動係数が平均値を上回ったのは、9 学科であった。特にスポーツ科学科 41.16%と政治学科 37.70%では、回答のバラツキが大きく、授業内容の難易度に対する学生の認識が分散している。これに対して、国際文化学科 13.69%、国際関係学科 15.75%では変動係数が低く、回答が「3 適切だった」に集中している。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	54	2.963	0.719	24.271%
中国文学科	6	2.500	0.764	30.551%
英米文学科	44	3.205	0.624	19.487%
教育学科	29	3.034	0.850	28.020%
書道学科	13	3.154	0.863	27.378%
歴史文化学科	39	2.974	0.947	31.838%
社会経済学科	43	2.744	0.838	30.532%
現代経済学科	31	3.097	0.817	26.393%
中国語学科	16	3.063	0.899	29.362%
英語学科	47	2.979	0.934	31.347%
日本語学科	23	2.870	0.740	25.802%
法律学科	17	3.176	0.785	24.707%
政治学科	28	2.964	1.117	37.698%
国際関係学科	12	2.750	0.433	15.746%
国際文化学科	11	2.818	0.386	13.686%
経営学科	86	3.047	0.791	25.965%
スポーツ科学科	32	2.813	1.158	41.156%
健康科学科	57	2.807	0.887	31.610%
看護学科	74	2.892	0.863	29.848%
社会学科	45	3.111	0.706	22.700%
全 学	707	2.966	0.852	28.724%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	518	2.950	0.868
2	160	2.988	0.814
3	20	3.050	0.740
4	9	3.333	0.667

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	5.556%	9.259%	70.370%	12.963%	1.852%
中国文学科	16.667%	16.667%	66.667%	0.000%	0.000%
英米文学科	0.000%	6.818%	70.455%	18.182%	4.545%
教育学科	6.897%	6.897%	68.966%	10.345%	6.897%
書道学科	7.692%	0.000%	69.231%	15.385%	7.692%
歴史文化学科	10.256%	10.256%	56.410%	17.949%	5.128%
社会経済学科	13.953%	6.977%	72.093%	4.651%	2.326%
現代経済学科	3.226%	9.677%	70.968%	6.452%	9.677%
中国語学科	6.250%	6.250%	75.000%	0.000%	12.500%
英語学科	10.638%	8.511%	57.447%	19.149%	4.255%
日本語学科	8.696%	8.696%	69.565%	13.043%	0.000%
法律学科	0.000%	11.765%	70.588%	5.882%	11.765%
政治学科	10.714%	17.857%	50.000%	7.143%	14.286%
国際関係学科	0.000%	25.000%	75.000%	0.000%	0.000%
国際文化学科	0.000%	18.182%	81.818%	0.000%	0.000%
経営学科	3.488%	11.628%	68.605%	9.302%	6.977%
スポーツ科学科	18.750%	9.375%	56.250%	3.125%	12.500%
健康科学科	14.035%	5.263%	70.175%	7.018%	3.509%
看護学科	10.811%	6.757%	68.919%	9.459%	4.054%
社会学科	4.444%	4.444%	68.889%	20.000%	2.222%
全 学	7.921%	8.911%	67.185%	10.608%	5.375%

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q２「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	8.880%	8.687%	66.023%	11.390%	5.019%
2	5.625%	10.625%	69.375%	8.125%	6.250%
3	5.000%	5.000%	75.000%	10.000%	5.000%
4	0.000%	0.000%	77.778%	11.111%	11.111%

9.4【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

全学共通科目全体で質問したことがある学生は 13.48%で。保健体育系で質問したことがある学生は 12.54%と、全共科目全体よりも低かった。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q３「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	92.593%	7.407%
中国文学科	83.333%	16.667%
英米文学科	77.273%	22.727%
教育学科	79.310%	20.690%
書道学科	92.308%	7.692%
歴史文化学科	89.744%	10.256%
社会経済学科	90.476%	9.524%
現代経済学科	90.323%	9.677%
中国語学科	87.500%	12.500%
英語学科	85.106%	14.894%
日本語学科	77.273%	22.727%
法律学科	100.000%	0.000%
政治学科	84.615%	15.385%
国際関係学科	92.857%	7.143%
国際文化学科	90.909%	9.091%
経営学科	87.209%	12.791%
スポーツ科学科	78.125%	21.875%
健康科学科	89.286%	10.714%
看護学科	90.411%	9.589%
社会学科	90.909%	9.091%
全 学	87.464%	12.536%

学年	1	2
1	86.745%	13.255%
2	89.241%	10.759%
3	95.000%	5.000%
4	81.818%	18.182%

9.6【Q4】質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 7 割を超えており（71.61%）、学生は質問に対する教員の対応を適切であったと評価している。2025 年度後期の 70.71%と比較すると 0.90 ポイント上昇で、大きな変化はみられなかった。一方、フィードバックの平均値は 4.16（標準偏差 1.02）であり、2025 年度後期の 4.10 から 0.06 ポイント上昇した。変動係数からフィードバックに対する授業認識をみると、全学平均は 24.76%であった。これを上回っているのは 7 学科であった。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	11	4.364	0.771	17.678%
中国文学科	1	4.000	0.000	0.000%
英米文学科	15	4.200	1.166	27.766%
教育学科	15	4.200	0.909	21.648%
書道学科	4	4.000	0.707	17.678%
歴史文化学科	10	4.200	0.980	23.328%
社会経済学科	21	4.190	0.906	21.621%
現代経済学科	9	4.556	0.685	15.035%
中国語学科	7	4.143	0.833	20.107%
英語学科	17	4.294	0.892	20.775%
日本語学科	7	4.571	0.728	15.934%
法律学科	4	4.250	0.829	19.510%
政治学科	7	4.714	0.700	14.845%
国際関係学科	5	4.000	0.632	15.811%
国際文化学科	2	4.000	1.000	25.000%
経営学科	30	3.767	1.359	36.067%
スポーツ科学科	13	4.538	0.929	20.480%
健康科学科	28	3.679	0.928	25.224%
看護学科	27	4.259	1.142	26.802%
社会学科	10	4.400	0.663	15.076%
全 学	243	4.160	1.024	24.609%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	183	4.180	1.043
2	53	4.057	0.998
3	5	4.400	0.490
4	2	4.500	0.500

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	18.182%	27.273%	54.545%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
英米文学科	6.667%	0.000%	20.000%	13.333%	60.000%
教育学科	0.000%	0.000%	33.333%	13.333%	53.333%
書道学科	0.000%	0.000%	25.000%	50.000%	25.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	40.000%	0.000%	60.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	33.333%	14.286%	52.381%
現代経済学科	0.000%	0.000%	11.111%	22.222%	66.667%
中国語学科	0.000%	0.000%	28.571%	28.571%	42.857%
英語学科	0.000%	0.000%	29.412%	11.765%	58.824%
日本語学科	0.000%	0.000%	14.286%	14.286%	71.429%
法律学科	0.000%	0.000%	25.000%	25.000%	50.000%
政治学科	0.000%	0.000%	14.286%	0.000%	85.714%
国際関係学科	0.000%	0.000%	20.000%	60.000%	20.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	50.000%	0.000%	50.000%
経営学科	13.333%	0.000%	26.667%	16.667%	43.333%
スポーツ科学科	0.000%	7.692%	7.692%	7.692%	76.923%
健康科学科	3.571%	0.000%	42.857%	32.143%	21.429%
看護学科	7.407%	0.000%	11.111%	22.222%	59.259%
社会学科	0.000%	0.000%	10.000%	40.000%	50.000%
全 学	3.292%	0.412%	24.691%	20.165%	51.440%

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q４「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	3.825%	0.546%	22.404%	20.219%	53.005%
2	1.887%	0.000%	35.849%	15.094%	47.170%
3	0.000%	0.000%	0.000%	60.000%	40.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%

9.7【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。【学生意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 9 割を超えており（93.48%）、学生が自身の熱意を高く評価していると言える。平均値は 4.51（標準偏差 0.65）であった。2025 年度後期の肯定的回答割合 91.06%と比較すると 2.42 ポ

イント上昇しており、平均値も 4.50 から 4.51 へとわずかに上昇した。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 5「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	53	4.528	0.499	11.024%
中国文学科	6	4.167	0.687	16.492%
英米文学科	44	4.636	0.526	11.349%
教育学科	29	4.621	0.665	14.394%
書道学科	12	4.583	0.493	10.757%
歴史文化学科	39	4.359	0.862	19.774%
社会経済学科	43	4.465	0.659	14.768%
現代経済学科	31	4.484	0.713	15.893%
中国語学科	16	4.438	0.609	13.728%
英語学科	47	4.574	0.676	14.782%
日本語学科	23	4.565	0.577	12.635%
法律学科	17	4.235	0.644	15.215%
政治学科	28	4.464	0.680	15.242%
国際関係学科	13	4.154	0.863	20.787%
国際文化学科	11	4.636	0.643	13.865%
経営学科	86	4.488	0.624	13.903%
スポーツ科学科	32	4.625	0.696	15.048%
健康科学科	57	4.404	0.672	15.254%
看護学科	74	4.689	0.568	12.107%
社会学科	45	4.378	0.569	13.001%
全 学	706	4.506	0.652	14.479%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	517	4.513	0.666
2	159	4.522	0.602
3	20	4.400	0.490
4	10	4.100	0.831

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	47.170%	52.830%
中国文学科	0.000%	0.000%	16.667%	50.000%	33.333%
英米文学科	0.000%	0.000%	2.273%	31.818%	65.909%
教育学科	0.000%	0.000%	10.345%	17.241%	72.414%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	41.667%	58.333%
歴史文化学科	0.000%	5.128%	10.256%	28.205%	56.410%
社会経済学科	0.000%	0.000%	9.302%	34.884%	55.814%
現代経済学科	0.000%	3.226%	3.226%	35.484%	58.065%
中国語学科	0.000%	0.000%	6.250%	43.750%	50.000%
英語学科	0.000%	2.128%	4.255%	27.660%	65.957%
日本語学科	0.000%	0.000%	4.348%	34.783%	60.870%
法律学科	0.000%	0.000%	11.765%	52.941%	35.294%
政治学科	0.000%	3.571%	0.000%	42.857%	53.571%
国際関係学科	0.000%	7.692%	7.692%	46.154%	38.462%
国際文化学科	0.000%	0.000%	9.091%	18.182%	72.727%
経営学科	0.000%	1.163%	3.488%	40.698%	54.651%
スポーツ科学科	0.000%	3.125%	3.125%	21.875%	71.875%
健康科学科	0.000%	0.000%	10.526%	38.596%	50.877%
看護学科	0.000%	0.000%	5.405%	20.270%	74.324%
社会学科	0.000%	0.000%	4.444%	53.333%	42.222%
全 学	0.000%	1.133%	5.382%	35.269%	58.215%

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q５「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	1.354%	5.609%	33.462%	59.574%
2	0.000%	0.000%	5.660%	36.478%	57.862%
3	0.000%	0.000%	0.000%	60.000%	40.000%
4	0.000%	10.000%	0.000%	60.000%	30.000%

9.8【Q6】教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計は 9 割を大きく超えており（95.20%）、学生は教員の熱意を非常に高く評価している。学科別にみると、書道学科・中国語学科・法律学科・看護学科の 4 学科では、「1 まったくそう思わない」から「3 どちらとも言えない」までの回答割合が 0.00%であった。また、

全 20 学科で「1 まったくそう思わない」の回答割合が 0.00%となっており、教員の熱意に対する否定的な評価が極めて少ないことが特徴である。特に、「5 強くそう思う」の回答割合が 9 割を超えた学科が 18 学科で、教員の熱意を非常に高く評価していることがわかる。中国文学科と政治学科の「3}の割合が多くのはやや目立った傾向である。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Ｑ６「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	54	4.704	0.496	10.535%
中国文学科	6	4.333	0.745	17.201%
英米文学科	44	4.864	0.404	8.307%
教育学科	29	4.724	0.638	13.499%
書道学科	13	4.846	0.361	7.445%
歴史文化学科	39	4.564	0.709	15.528%
社会経済学科	43	4.581	0.655	14.304%
現代経済学科	31	4.742	0.566	11.939%
中国語学科	16	4.688	0.464	9.888%
英語学科	47	4.617	0.670	14.514%
日本語学科	23	4.696	0.547	11.639%
法律学科	17	4.706	0.456	9.682%
政治学科	28	4.607	0.724	15.716%
国際関係学科	14	4.429	0.623	14.061%
国際文化学科	11	4.727	0.617	13.043%
経営学科	85	4.647	0.588	12.658%
スポーツ科学科	32	4.656	0.643	13.803%
健康科学科	57	4.509	0.625	13.856%
看護学科	74	4.865	0.342	7.027%
社会学科	45	4.644	0.523	11.262%
全 学	708	4.674	0.582	12.448%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	517	4.665	0.602
2	160	4.694	0.536
3	20	4.750	0.433
4	11	4.636	0.481

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	1.852%	25.926%	72.222%
中国文学科	0.000%	0.000%	16.667%	33.333%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	2.273%	9.091%	88.636%
教育学科	0.000%	3.448%	0.000%	17.241%	79.310%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	15.385%	84.615%
歴史文化学科	0.000%	2.564%	5.128%	25.641%	66.667%
社会経済学科	0.000%	2.326%	2.326%	30.233%	65.116%
現代経済学科	0.000%	0.000%	6.452%	12.903%	80.645%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	31.250%	68.750%
英語学科	0.000%	2.128%	4.255%	23.404%	70.213%
日本語学科	0.000%	0.000%	4.348%	21.739%	73.913%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	29.412%	70.588%
政治学科	0.000%	0.000%	14.286%	10.714%	75.000%
国際関係学科	0.000%	0.000%	7.143%	42.857%	50.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	9.091%	9.091%	81.818%
経営学科	0.000%	0.000%	5.882%	23.529%	70.588%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	9.375%	15.625%	75.000%
健康科学科	0.000%	0.000%	7.018%	35.088%	57.895%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	13.514%	86.486%
社会学科	0.000%	0.000%	2.222%	31.111%	66.667%
全 学	0.000%	0.565%	4.237%	22.458%	72.740%

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q６「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.000%	0.774%	4.642%	21.857%	72.727%
2	0.000%	0.000%	3.750%	23.125%	73.125%
3	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	36.364%	63.636%

9.9【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の回答割合の合計が 9 割を超えており（92.51%）、「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答割合の合計が 1.41%と低いことから、学生は「成長感覚」を高く持っている。「成

長感覚」の平均値は 4.48（標準偏差 0.69）であった。変動係数の結果を見ると、全学平均値（15.36%）を上回っているのは 8 学科であった。特に、中国文学科（25.51%）と歴史文化学科（22.74%）は変動係数が高く、回答にバラツキがみられた。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q 7「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	54	4.481	0.601	13.403%
中国文学科	6	4.333	1.106	25.512%
英米文学科	44	4.523	0.723	15.978%
教育学科	29	4.517	0.856	18.946%
書道学科	13	4.538	0.499	10.984%
歴史文化学科	39	4.128	0.939	22.737%
社会経済学科	43	4.512	0.544	12.067%
現代経済学科	31	4.452	0.559	12.551%
中国語学科	16	4.625	0.484	10.468%
英語学科	47	4.489	0.768	17.114%
日本語学科	23	4.522	0.651	14.391%
法律学科	17	4.471	0.606	13.547%
政治学科	28	4.536	0.731	16.118%
国際関係学科	14	4.500	0.627	13.929%
国際文化学科	11	4.455	0.656	14.717%
経営学科	85	4.541	0.565	12.435%
スポーツ科学科	32	4.563	0.864	18.932%
健康科学科	57	4.281	0.669	15.628%
看護学科	74	4.662	0.576	12.355%
社会学科	45	4.333	0.632	14.595%
全 学	708	4.477	0.687	15.355%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	517	4.451	0.723
2	160	4.563	0.578
3	20	4.500	0.592
4	11	4.455	0.498

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	1.852%	0.000%	46.296%	51.852%
中国文学科	0.000%	16.667%	0.000%	16.667%	66.667%
英米文学科	0.000%	2.273%	6.818%	27.273%	63.636%
教育学科	3.448%	0.000%	3.448%	27.586%	65.517%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	46.154%	53.846%
歴史文化学科	0.000%	7.692%	15.385%	33.333%	43.590%
社会経済学科	0.000%	0.000%	2.326%	44.186%	53.488%
現代経済学科	0.000%	0.000%	3.226%	48.387%	48.387%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
英語学科	0.000%	4.255%	4.255%	29.787%	61.702%
日本語学科	0.000%	0.000%	8.696%	30.435%	60.870%
法律学科	0.000%	0.000%	5.882%	41.176%	52.941%
政治学科	0.000%	0.000%	14.286%	17.857%	67.857%
国際関係学科	0.000%	0.000%	7.143%	35.714%	57.143%
国際文化学科	0.000%	0.000%	9.091%	36.364%	54.545%
経営学科	0.000%	0.000%	3.529%	38.824%	57.647%
スポーツ科学科	3.125%	0.000%	6.250%	18.750%	71.875%
健康科学科	0.000%	0.000%	12.281%	47.368%	40.351%
看護学科	0.000%	0.000%	5.405%	22.973%	71.622%
社会学科	0.000%	0.000%	8.889%	48.889%	42.222%
全 学	0.282%	1.130%	6.073%	35.593%	56.921%

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q７「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.387%	1.547%	6.770%	35.203%	56.093%
2	0.000%	0.000%	4.375%	35.000%	60.625%
3	0.000%	0.000%	5.000%	40.000%	55.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	54.545%	45.455%

9.10【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

【総合満足】

満足度の高い 10（「大いに満足した」）から 8 までの回答割合の合計が 89.06%と高く、学生の総合的な満足度は非常に高い。満足度の低い 1（「まったく満足できなかっ

た」）から 4 までの回答割合の合計はわずか 0.57%であった。総合満足度の平均値は 9.08（標準偏差 1.26）であり、2025 年度後期の平均値 8.89 よりも上昇している。

変動係数から総合満足度を判断すると、次のように説明できる。変動係数の全学平均値は 13.88%であり、総合満足度に対する学生の授業評価が上位段階（10〜8）に集中しており、評価のバラツキも比較的小さい。変動係数の全学平均値（13.88%）を上回っている学科は 6 学科であった。

回答分布を見ると、1 から 3 までの回答割合は全学科で 0.00%であり、4 の回答も日本文学科 1.85%、歴史文化学科 2.63%、政治学科 3.57%、看護学科 1.35%の 4 学科に限られている。学生の授業評価は全体として高い水準で安定していると言える。

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Ｑ８「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	54	9.056	1.177	13.000%
中国文学科	5	8.200	1.600	19.512%
英米文学科	44	9.250	1.151	12.439%
教育学科	29	9.241	1.134	12.274%
書道学科	13	9.538	0.634	6.650%
歴史文化学科	38	8.711	1.571	18.039%
社会経済学科	42	9.214	1.245	13.509%
現代経済学科	31	9.129	1.211	13.269%
中国語学科	16	9.563	0.704	7.366%
英語学科	47	9.149	1.110	12.138%
日本語学科	23	9.522	0.773	8.117%
法律学科	17	8.235	1.554	18.871%
政治学科	28	8.821	1.712	19.412%
国際関係学科	14	9.214	0.860	9.335%
国際文化学科	10	9.900	0.300	3.030%
経営学科	86	9.047	1.210	13.370%
スポーツ科学科	32	9.063	1.478	16.306%
健康科学科	56	8.964	1.180	13.159%
看護学科	74	9.284	1.180	12.711%
社会学科	45	8.667	1.333	15.385%
全 学	704	9.082	1.261	13.883%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	514	9.029	1.322
2	159	9.220	1.097
3	20	9.300	0.900
4	11	9.182	0.833

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.852%	0.000%	0.000%	7.407%	16.667%	27.778%	46.296%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	20.000%	20.000%	20.000%	0.000%	40.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.273%	2.273%	2.273%	13.636%	20.455%	59.091%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.448%	0.000%	3.448%	10.345%	27.586%	55.172%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.692%	30.769%	61.538%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	2.632%	0.000%	13.158%	5.263%	7.895%	28.947%	42.105%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.762%	0.000%	2.381%	14.286%	19.048%	59.524%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.226%	0.000%	9.677%	6.452%	29.032%	51.613%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	18.750%	68.750%
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.128%	8.511%	17.021%	17.021%	55.319%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.348%	4.348%	26.087%	65.217%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	11.765%	0.000%	17.647%	17.647%	29.412%	23.529%
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	3.571%	7.143%	0.000%	7.143%	10.714%	17.857%	53.571%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	21.429%	50.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	10.000%	90.000%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.488%	1.163%	3.488%	18.605%	25.581%	47.674%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	3.125%	3.125%	15.625%	9.375%	62.500%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.571%	12.500%	12.500%	26.786%	44.643%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.351%	0.000%	1.351%	5.405%	14.865%	12.162%	64.865%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.444%	0.000%	13.333%	26.667%	17.778%	37.778%
全 学	0.000%	0.000%	0.000%	0.568%	2.273%	1.847%	6.250%	14.631%	21.591%	52.841%

【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】

Q８「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.000%	0.000%	0.000%	0.778%	2.529%	2.140%	7.588%	13.424%	21.595%	51.946%
2	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	1.887%	1.258%	3.145%	15.723%	22.642%	55.346%
3	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	30.000%	10.000%	60.000%
4	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	27.273%	27.273%	45.455%

9.11 クロス表に関する結果（保健体育系）

2026 年度前期の保健体育系科目における「教員熱意」と「学生意欲」とのクロス表（表 1：回答数、表 2：パーセント）では、それぞれの行で最も高い回答数値を赤字で示している。また、右端の列（4＋5）には、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。

この回答数を示した表 1 に注目すると、教員熱意の評価が高くなるにつれて、学生意欲の高い回答が増加する傾向がみられる。特に、各行で最も高い回答数を示した数値（赤字：0→2→13→105→371）は、教員熱意の評価が高くなるほど増加している。2025 年度後期の該当数値（0→0→14→105→287）と比較すると、教員熱意を 5「強くそう思う」と評価し、学生意欲も 5「強くそう思う」と回答した学生が大きく増加していることがわかる。

次に、表 2 の回答割合を見ると、教員熱意を 3「どちらとも言えない」と評価した学生では、学生意欲の 3「どちらとも言えない」が 43.33%で最も高かった。これに対して、教員熱意を 4「どちらかと言えばそう思う」と評価した学生では、学生意欲の 4「どちらかと言えばそう思う」が 66.46%、教員熱意を 5「強くそう思う」と評価した学生では、学生意欲の 5「強くそう思う」が 72.32%と、それぞれ高い割合を示している。

以上の結果から、教員の熱意を高く評価する学生ほど、自身の授業に対する意欲も高く評価する傾向が確認できる。特に、教員熱意と学生意欲の双方を最高評価の 5 とした回答が多く、教員熱意と学生意欲との間には密接な関連性があることが示唆される。

表 1

●【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［回答数］

		学生意欲					合 計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	2 どちらかと言えばそう思わない	0	2	0	0	2	4	2
	3 どちらとも言えない	0	4	13	11	2	30	13
	4 どちらかと言えばそう思う	0	1	17	105	35	158	140
	5 強くそう思う	0	1	8	133	371	513	504
合 計		0	8	38	249	410	705	659

表 2

●【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】クロス集計（【学生意欲】×【教員熱意】）［パーセント］

		学生意欲					合 計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.00%
	2 どちらかと言えばそう思わない	0.000%	50.000%	0.000%	0.000%	50.000%	100.000%	50.00%
	3 どちらとも言えない	0.000%	13.333%	43.333%	36.667%	6.667%	100.000%	43.33%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.000%	0.633%	10.759%	66.456%	22.152%	100.000%	88.61%
	5 強くそう思う	0.000%	0.195%	1.559%	25.926%	72.320%	100.000%	98.25%

9.12 相関係数表に関する結果(保健体育系)

相関係数に関しては、＋0.3 以上＋0.6 未満（－0.3 以下－0.6 超）で弱い正（負）の相関関係、＋0.6 以上＋1 未満（－0.6 以下－1 超）で強い正（負）の相関関係があると解釈する。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字でそれぞれ記している。

分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わる項目を除き、複数の変数（項目）間で弱い正の相関関係がみられた。ただし、今回の相関係数表では、＋0.6 以上の強い正の相関関係は確認されなかった。

まず、「総合満足度」との相関関係を見ると、「学生意欲」との間に弱い正の相関関係（0.501）がみられ、次いで「成長感覚」(0.499)、「教員熱意」(0.476）の順となっている。特に、「学生意欲」と「成長感覚」はほぼ同程度の相関係数を示しており、学生自身の授業に対する意欲と成長の実感が、総合満足度と密接に関連していることがわかる。

次に、「成長感覚」との相関関係を順に見ていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相

関関係（0.570）がみられた。次いで「学生意欲」(0.497)、「シラバス通り」(0.414)の順となっている。

さらに、「教員熱意」と「学生意欲」との間にも弱い正の相関関係（0.538）がみられた。これは、教員の熱意を高く評価している学生ほど、自身の授業に対する意欲も高く評価する傾向があることを示している。また、「シラバス通り」と「教員熱意」との間にも弱い正の相関関係（0.492）がみられ、シラバスに沿った授業運営に対する評価と教員の熱意に対する評価にも関連性が認められる。

「難易度が適切か」に関しては、相関係数表に基づくと、他の項目との間に今回の判定基準に該当する相関関係はみられなかった。

まとめると、2026 年度前期の保健体育系科目では、「教員熱意」と「学生意欲」(0.538)、「教員熱意」と「成長感覚」(0.570)、さらに「学生意欲」と「総合満足度」(0.501)、「成長感覚」と「総合満足度」(0.499）との間に、それぞれ弱い正の相関関係が確認された。この結果は、教員の熱意が学生の意欲や成長実感と関連し、それらが総合満足度とも関連していることを示唆している。

●【 全学共通科目（保健体育系）〈学生所属別〉】相関係数表

		Q1b 【シラバス通り】	Q2 【難易度適切】	Q4 【FB丁寧】	Q5 【学生意欲】	Q6 【教員熱意】	Q7 【成長感覚】	Q8 【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	0.053	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.285	0.115	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.436	-0.034	0.393	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.492	0.049	0.346	0.538	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.414	0.069	0.341	0.497	0.570	1.000	
Q8	【総合満足】	0.355	-0.073	0.277	0.501	0.476	0.499	1.000

10 まとめと結論【全学共通科目・4 系分類（学生所属別）】

2025 年度前期から、全学共通科目を人文系・社会系・自然系・保健体育系に分類し、各系科目に対する授業認識の相違が生じるかどうかの分析を行っている。全共科目全体では各質問項目の上位評価が多いが、4 分類で比較すると、難易度や総合満足度、項目間の相関関係に相違がみられる。学科別の特徴については各系の本文で言及したため、ここでは分類単位で学生の認識を比較し、その特徴をまとめる。

回答者数（回答率）は、人文系 1,529 人（47.78%）、社会系 1,781 人（39.06%）、自然系 571 人（45.68%）、保健体育系 704 人（41.98%）であった。科目数や履修者構成が系統間で異なることに留意する必要がある。結果は以下の通りである。

1.「質問に対するフィードバック」「教員の熱意」「学生の成長感覚」は、全共科目全体でみると上位評価に集中する傾向にあり、4 分類でも概ね同様であった。ただし、上位評価の割合や学科間のバラツキには系統ごとの違いがある。全体として肯定的な評価が多いことを踏まえつつ、平均値だけでなく回答分布にも注意する必要がある。

2. 4 分類に共通して、他の質問項目と異なる動きが示されたのは「難易度」であった。「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の割合の合計は、人文系 51.14%、社会系 47.75%、自然系 45.71%であった。人文系では 2025 年度を上回り、難しいと受け止める学生が増えている。社会系は 2025 年度から横ばいであり、自然系は 2025 年度より「3 適切だった」の割合が増え、49.74%であった。保健体育系は 4 と 5 の合計が 15.98%、1 と 2 の合計が 16.83%、「3 適切だった」が 67.19%であり、他の 3 分類とは明確に異なる傾向を有する。系統ごとに異なる変化が生じているので、今後も経年変化を確認する必要がある。

3. 総合満足度は、「概ね満足している（8＋9＋10)」の割合が最も高かったのは保健体育系 89.06%であり、自然系 73.56%、人文系 71.29%、社会系 67.43%と続いた。保健体育系と社会系との差は 21.19 ポイントであり、2025 年度と同様、保健体育系が他の 3 分類を大きく上回った。総合満足度の平均値も保健体育系 9.08、自然系 8.32、人文系 8.17、社会系 8.06 の順である。

4. 相関係数からは、人文系（0.609)、社会系（0.625)、自然系（0.667）において、「成長感覚」と「総合満足度」の間に強い正の相関関係がみられた。学生が成長を実感していることと、授業に対する満足度が高いことが密接に関連している。一方、保健体育系では両者の相関係数は 0.499 であり、弱い正の相関関係にとどまった。同系では「学生意欲」と「総合満足度」の相関係数 0.501 が最も高く、他の 3 分類とは異なる特徴を示している。また、いずれの系統でも「難易度が適切かどうか」と他の項目との間には、本報告書の判定基準に該当する相関関係が確認されなかった。なお、相関関係は因果関係を直接示すものではなく、難易度の認識が異なる理由も今回の分析だけでは特定でき

ない。

5. 全共科目は履修する学生の所属学科や学年が多岐にわたり、科目担当教員には幅広い層への対応が求められる。それでも、4 分類の「教員熱意」と「学生意欲」のクロス集計では、教員の熱意を高く評価する学生ほど、自身の授業への意欲も高く評価する傾向が共通して確認された。相関係数でも、人文系 0.469、社会系 0.527、自然系 0.454、保健体育系 0.538 と、両者に正の関連がみられる。加えて、人文系・社会系・自然系では成長感覚と総合満足度の結びつきが強いことから、学生自身の意欲を引き出し、成長を実感できる授業づくりが重要と考えられる。各質問項目を詳細にみると、系統全体では良好な結果であっても、一部の学科では極端な数値や大きなバラツキがみられる。回答者数の少ない学科もあるため、単年度の結果だけで判断せず、継続的なデータの蓄積を通じて、ある段階で総合的な検討を行う必要がある。

11 全学共通科目（オンデマンド授業・学生所属別）の調査結果と分析

11.1.対象科目数・対象人数・回答率

最期に、オンデマンド授業を学生所属別に分析する。対象科目数は 5 科目、対象人数は 3080 人である。

2026 年度前期のオンデマンド授業について、学生所属学科・学年別の回答分布、平均値、標準偏差および変動係数を確認し、教員熱意と学生意欲のクロス集計、主要項目間の相関係数を分析した。構成と検討論点は、同年度前期の全学共通科目（対面授業）の報告書に準拠する。

回答率は 12.08%であり、対面型授業の 41.45%に比べ、-33.37 ポイントとなった。

なお、学科別の回答者数が少なく極端な値が生じやすいため、対面型授業との差の解釈等には慎重である必要がある。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	18	83	101	17.822%
中国文学科	8	38	46	17.391%
英米文学科	21	195	216	9.722%
教育学科	17	80	97	17.526%
書道学科	10	53	63	15.873%
歴史文化学科	7	45	52	13.462%
社会経済学科	34	302	336	10.119%
現代経済学科	26	223	249	10.442%
中国語学科	2	88	90	2.222%
英語学科	32	183	215	14.884%
日本語学科	11	68	79	13.924%
法律学科	16	80	96	16.667%
政治学科	17	185	202	8.416%
国際関係学科	15	126	141	10.638%
国際文化学科	16	86	102	15.686%
経営学科	69	504	573	12.042%
スポーツ科学科	9	84	93	9.677%
健康科学科	6	46	52	11.538%
看護学科	6	34	40	15.000%
社会学科	32	205	237	13.502%
全 学	372	2,708	3,080	12.078%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	161	534	695	23.165%
2	112	1,047	1,159	9.664%
3	72	712	784	9.184%
4	27	415	442	6.109%

11.2【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。[シラバス既知]

「2」の回答割合は 79.84%であった。対面授業の 81.90%と比較すると+6.89 ポイントである。シラバスの認知度は高い水準にある。

学科別では「2」の割合が最も高いのは中国語学科 100.00%、最も低いのは書道学科 66.67%であった。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 1a「シラバス既知」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科	1	2
日本文学科	33.333%	66.667%
中国文学科	25.000%	75.000%
英米文学科	14.286%	85.714%
教育学科	23.529%	76.471%
書道学科	50.000%	50.000%
歴史文化学科	14.286%	85.714%
社会経済学科	11.765%	88.235%
現代経済学科	19.231%	80.769%
中国語学科	0.000%	100.000%
英語学科	21.875%	78.125%
日本語学科	27.273%	72.727%
法律学科	31.250%	68.750%
政治学科	11.765%	88.235%
国際関係学科	13.333%	86.667%
国際文化学科	18.750%	81.250%
経営学科	17.391%	82.609%
スポーツ科学科	22.222%	77.778%
健康科学科	16.667%	83.333%
看護学科	0.000%	100.000%
社会学科	25.000%	75.000%
全 学	20.161%	79.839%

学年	1	2
1	22.360%	77.640%
2	25.893%	74.107%
3	12.500%	87.500%
4	3.704%	96.296%

11.3【Q1b】この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の合計は 98.32%、「1」と「2」の合計は 0.00%であった。対面授業の肯定的回答割合 90.92%と比較すると +7.40 ポイントである。

集計表記載の平均値は 4.498、標準偏差は 0.533、変動係数は 11.84%、回答者数は 297 であった。

学科別の平均値はスポーツ科学科 4.714 が最も高く、国際文化学科 4.154 が最も低い。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 1b「シラバス通り」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	12	4.583	0.493	10.757%
中国文学科	6	4.500	0.500	11.111%
英米文学科	18	4.556	0.497	10.908%
教育学科	13	4.462	0.499	11.174%
書道学科	5	4.400	0.490	11.134%
歴史文化学科	6	4.667	0.471	10.102%
社会経済学科	30	4.400	0.554	12.586%
現代経済学科	21	4.619	0.486	10.513%
中国語学科	2	4.500	0.500	11.111%
英語学科	25	4.480	0.640	14.286%
日本語学科	8	4.500	0.500	11.111%
法律学科	11	4.636	0.481	10.375%
政治学科	15	4.400	0.611	13.887%
国際関係学科	13	4.692	0.462	9.836%
国際文化学科	13	4.154	0.533	12.830%
経営学科	57	4.491	0.500	11.131%
スポーツ科学科	7	4.714	0.452	9.583%
健康科学科	5	4.600	0.490	10.650%
看護学科	6	4.667	0.471	10.102%
社会学科	24	4.417	0.493	11.162%
全 学	297	4.498	0.533	11.840%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	125	4.552	0.543
2	83	4.482	0.523
3	63	4.429	0.526
4	26	4.462	0.499

Q 1b「シラバス通り」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	41.667%	58.333%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	44.444%	55.556%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	53.846%	46.154%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	60.000%	40.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
社会経済学科	0.000%	0.000%	3.333%	53.333%	43.333%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	38.095%	61.905%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
英語学科	0.000%	0.000%	8.000%	36.000%	56.000%
日本語学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	36.364%	63.636%
政治学科	0.000%	0.000%	6.667%	46.667%	46.667%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	30.769%	69.231%
国際文化学科	0.000%	0.000%	7.692%	69.231%	23.077%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.877%	49.123%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	40.000%	60.000%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	33.333%	66.667%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	58.333%	41.667%
全 学	0.000%	0.000%	1.684%	46.801%	51.515%

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.00%	0.00%	2.40%	40.00%	57.60%
2	0.00%	0.00%	1.21%	49.40%	49.40%
3	0.00%	0.00%	1.59%	53.97%	44.44%
4	0.00%	0.00%	0.00%	53.85%	46.15%

11.4【Q2】自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

「4 やや難しかった」と「5 とても難しかった」の合計は 45.70%、「3 適切だった」は 50.81%、「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の合計は 3.50%であった。対面授業の 4 と 5 の合計 43.74%との差は+10.48 ポイントである。

集計表記載の全学平均値は 3.47、標準偏差は 0.67、変動係数は 19.29%、回答者数は 1,291 人であった。

学科別の平均値は中国語学科 4.000 が最も高く、現代経済学科 2.962 が最も低い。

ただし、学科別の回答者数が少ない場合には極端な値が生じやすいため、留意する必要がある。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q２「難易度適切」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	18	3.278	0.558	17.034%
中国文学科	8	3.750	0.829	22.111%
英米文学科	21	3.714	0.700	18.842%
教育学科	17	3.529	0.499	14.142%
書道学科	10	3.700	0.640	17.306%
歴史文化学科	7	3.571	0.495	13.856%
社会経済学科	34	3.412	0.549	16.082%
現代経済学科	26	2.962	0.649	21.925%
中国語学科	2	4.000	0.000	0.000%
英語学科	32	3.688	0.583	15.809%
日本語学科	11	3.727	0.750	20.113%
法律学科	16	3.188	0.634	19.900%
政治学科	17	3.412	0.600	17.583%
国際関係学科	15	3.600	0.490	13.608%
国際文化学科	16	3.438	0.609	17.721%
経営学科	69	3.507	0.694	19.792%
スポーツ科学科	9	3.444	0.956	27.749%
健康科学科	6	3.333	0.471	14.142%
看護学科	6	3.667	0.471	12.856%
社会学科	32	3.406	0.701	20.576%
全 学	372	3.470	0.669	19.288%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	161	3.478	0.651
2	112	3.473	0.640
3	72	3.486	0.764
4	27	3.370	0.618

Q２「難易度適切」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	5.560%	61.110%	33.330%	0.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	50.000%	25.000%	25.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	42.860%	42.860%	14.290%
教育学科	0.000%	0.000%	47.060%	52.940%	0.000%
書道学科	0.000%	0.000%	40.000%	50.000%	10.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	42.860%	57.140%	0.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	61.760%	35.290%	2.940%
現代経済学科	3.850%	11.540%	69.230%	15.380%	0.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
英語学科	0.000%	0.000%	37.500%	56.250%	6.250%
日本語学科	0.000%	0.000%	45.450%	36.360%	18.180%
法律学科	0.000%	12.500%	56.250%	31.250%	0.000%
政治学科	0.000%	0.000%	64.710%	29.410%	5.880%
国際関係学科	0.000%	0.000%	40.000%	60.000%	0.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	62.500%	31.250%	6.250%
経営学科	1.450%	1.450%	47.830%	43.480%	5.800%
スポーツ科学科	0.000%	22.220%	22.220%	44.440%	11.110%
健康科学科	0.000%	0.000%	66.670%	33.330%	0.000%
看護学科	0.000%	0.000%	33.330%	66.670%	0.000%
社会学科	0.000%	6.250%	53.130%	34.380%	6.250%
全 学	0.540%	2.960%	50.810%	40.320%	5.380%

Q２「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.00%	1.79%	44.46%	45.71%	8.04%
2	0.26%	1.03%	43.19%	50.39%	5.14%
3	0.40%	3.19%	37.05%	49.40%	9.96%
4	0.00%	0.00%	62.64%	26.37%	10.99%

11.5【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか。【質問対応】

「2」の回答割合は 4.03%であった。対面授業の 13.48%と比較すると-5.73 ポイントである。質問経験のある学生は少数にとどまった。

学科別では「2」の割合が最も高いのは歴史文化学科 14.29%、最も低い 0.00%は 10 学科あった。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 3「質問対応」の学科別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ、したことがありません」/ 2「はい、あります」）

学科	1	2
日本文学科	100.000%	0.000%
中国文学科	87.500%	12.500%
英米文学科	90.480%	9.520%
教育学科	100.000%	0.000%
書道学科	90.000%	10.000%
歴史文化学科	85.710%	14.290%
社会経済学科	97.060%	2.940%
現代経済学科	96.150%	3.850%
中国語学科	100.000%	0.000%
英語学科	96.880%	3.130%
日本語学科	100.000%	0.000%
法律学科	100.000%	0.000%
政治学科	94.120%	5.880%
国際関係学科	100.000%	0.000%
国際文化学科	93.750%	6.250%
経営学科	92.750%	7.250%
スポーツ科学科	100.000%	0.000%
健康科学科	100.000%	0.000%
看護学科	100.000%	0.000%
社会学科	100.000%	0.000%
全 学	95.970%	4.030%

学年	1	2
1	95.030%	4.970%
2	97.320%	2.680%
3	97.220%	2.780%
4	92.590%	7.410%

11.6【Q4】質問に対する教員の対応が適切だったと思いますか。【フィードバック】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の合計は 93.33%、「1」と「2」の合計は 6.67%であった。対面授業の肯定的回答割合 65.78%と比較すると+27.55 ポイントである。

集計表記載の全学平均値は 4.33、標準偏差は 0.79、変動係数は 18.20%、回答者数は 15 であった。

学科別の平均値は 5 学科で 5.0 となり、国際文化学科 2.0 が最も低い。

なお、本項目は質問経験のある学生を中心とした限定的な回答であり、しかも回答者数が少ないので、対面授業との単純比較や学科間の優劣判断には慎重であるべきである

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q４「フィードバック」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	0	–	–	–
中国文学科	1	4.000	0.000	0.000%
英米文学科	2	5.000	0.000	0.000%
教育学科	0	–	–	–
書道学科	1	4.000	0.000	0.000%
歴史文化学科	1	5.000	0.000	0.000%
社会経済学科	1	5.000	0.000	0.000%
現代経済学科	1	4.000	0.000	0.000%
中国語学科	0	–	–	–
英語学科	1	5.000	0.000	0.000%
日本語学科	0	–	–	–
法律学科	0	–	–	–
政治学科	1	5.000	0.000	0.000%
国際関係学科	0	–	–	–
国際文化学科	1	2.000	0.000	0.000%
経営学科	5	4.200	0.400	9.524%
スポーツ科学科	0	–	–	–
健康科学科	0	–	–	–
看護学科	0	–	–	–
社会学科	0	–	–	–
全 学	15	4.333	0.789	18.203%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	8	4.375	0.484
2	3	4.667	0.471
3	2	3.000	1.000
4	2	5.000	0.000

Q４「フィードバック」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	–	–	–	–	–
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
教育学科	–	–	–	–	–
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
社会経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
中国語学科	–	–	–	–	–
英語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
日本語学科	–	–	–	–	–
法律学科	–	–	–	–	–
政治学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
国際関係学科	–	–	–	–	–
国際文化学科	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%	0.000%
経営学科	0.000%	0.000%	0.000%	80.000%	20.000%
スポーツ科学科	–	–	–	–	–
健康科学科	–	–	–	–	–
看護学科	–	–	–	–	–
社会学科	–	–	–	–	–
全 学	0.000%	6.667%	0.000%	46.667%	46.667%

Q４「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.00%	0.00%	0.00%	62.50%	37.50%
2	0.00%	0.00%	0.00%	33.33%	66.67%
3	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%
4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

11.7【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意をもって取り組んだと思いますか。

【学生の意欲】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の合計は 82.80%、「1」と「2」の合計は 2.42%であった。対面授業の肯定的回答割合 83.50%と比較すると+4.30 ポイントである。

集計表記載の全学平均値は 4.03、標準偏差は 0.69、変動係数は 17.04%、回答者数は 1,500 人であった。

学科別の平均値は歴史文化学科 4.57 が最も高く、中国語学科 3.50 が最も低かった。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q５「学生意欲」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	18	4.000	0.471	11.785%
中国文学科	8	3.875	0.331	8.535%
英米文学科	21	4.000	0.756	18.898%
教育学科	17	3.882	0.676	17.408%
書道学科	10	3.900	0.539	13.808%
歴史文化学科	7	4.571	0.728	15.934%
社会経済学科	34	3.971	0.747	18.812%
現代経済学科	26	4.000	0.832	20.801%
中国語学科	2	3.500	0.500	14.286%
英語学科	32	3.938	0.556	14.108%
日本語学科	11	4.182	0.833	19.924%
法律学科	16	4.125	0.331	8.017%
政治学科	17	4.471	0.606	13.547%
国際関係学科	15	4.133	0.499	12.070%
国際文化学科	16	3.938	0.747	18.981%
経営学科	69	3.942	0.740	18.768%
スポーツ科学科	9	4.222	0.629	14.886%
健康科学科	6	4.000	0.577	14.434%
看護学科	6	4.500	0.500	11.111%
社会学科	32	4.063	0.658	16.209%
全 学	372	4.032	0.687	17.040%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	161	4.043	0.699
2	112	3.982	0.654
3	72	3.986	0.697
4	27	4.296	0.656

Q５「学生意欲」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	11.110%	77.780%	11.110%
中国文学科	0.000%	0.000%	12.500%	87.500%	0.000%
英米文学科	0.000%	4.760%	14.290%	57.140%	23.810%
教育学科	0.000%	5.880%	11.760%	70.590%	11.760%
書道学科	0.000%	0.000%	20.000%	70.000%	10.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	14.290%	14.290%	71.430%
社会経済学科	0.000%	2.940%	20.590%	52.940%	23.530%
現代経済学科	0.000%	3.850%	23.080%	42.310%	30.770%
中国語学科	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%	0.000%
英語学科	0.000%	0.000%	18.750%	68.750%	12.500%
日本語学科	0.000%	9.090%	0.000%	54.550%	36.360%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	87.500%	12.500%
政治学科	0.000%	0.000%	5.880%	41.180%	52.940%
国際関係学科	0.000%	0.000%	6.670%	73.330%	20.000%
国際文化学科	0.000%	0.000%	31.250%	43.750%	25.000%
経営学科	0.000%	4.350%	17.390%	57.970%	20.290%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	11.110%	55.560%	33.330%
健康科学科	0.000%	0.000%	16.670%	66.670%	16.670%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
社会学科	0.000%	3.130%	9.380%	65.630%	21.880%
全 学	0.000%	2.420%	14.780%	59.950%	22.850%

Q５「学生意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.00%	3.11%	13.04%	60.25%	23.60%
2	0.00%	0.89%	19.64%	59.82%	19.64%
3	0.00%	4.17%	12.50%	63.89%	19.44%
4	0.00%	0.00%	11.11%	48.15%	40.74%

11.8【Q6】教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。【教員の熱意】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の合計は 93.82%、「1」と「2」の合計は 0.27%であった。対面授業の肯定的回答割合 92.94%と比較すると+3.02 ポイントである。

集計表記載の全学平均値は 4.522、標準偏差は 0.620、変動係数は 13.70%、回答者数は 372 であった。

学科別の平均値はスポーツ科学科 4.889 が最も高く、中国語学科 4.000 が最も低い。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q６「教員熱意」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	18	4.444	0.685	15.411%
中国文学科	8	4.750	0.433	9.116%
英米文学科	21	4.476	0.587	13.116%
教育学科	17	4.706	0.456	9.682%
書道学科	10	4.700	0.640	13.624%
歴史文化学科	7	4.714	0.452	9.583%
社会経済学科	34	4.441	0.811	18.269%
現代経済学科	26	4.577	0.567	12.379%
中国語学科	2	4.000	0.000	0.000%
英語学科	32	4.563	0.609	13.352%
日本語学科	11	4.455	0.656	14.717%
法律学科	16	4.688	0.464	9.888%
政治学科	17	4.353	0.762	17.516%
国際関係学科	15	4.467	0.618	13.841%
国際文化学科	16	4.625	0.484	10.468%
経営学科	69	4.435	0.551	12.427%
スポーツ科学科	9	4.889	0.314	6.428%
健康科学科	6	4.500	0.500	11.111%
看護学科	6	4.833	0.373	7.711%
社会学科	32	4.406	0.701	15.906%
全 学	372	4.522	0.620	13.704%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	161	4.571	0.587
2	112	4.464	0.693
3	72	4.444	0.598
4	27	4.667	0.471

Q６「教員熱意」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	11.111%	33.333%	55.556%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	25.000%	75.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	4.762%	42.857%	52.381%
教育学科	0.000%	0.000%	0.000%	29.412%	70.588%
書道学科	0.000%	0.000%	10.000%	10.000%	80.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.571%	71.429%
社会経済学科	0.000%	2.941%	11.765%	23.529%	61.765%
現代経済学科	0.000%	0.000%	3.846%	34.615%	61.538%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
英語学科	0.000%	0.000%	6.250%	31.250%	62.500%
日本語学科	0.000%	0.000%	9.091%	36.364%	54.545%
法律学科	0.000%	0.000%	0.000%	31.250%	68.750%
政治学科	0.000%	0.000%	17.647%	29.412%	52.941%
国際関係学科	0.000%	0.000%	6.667%	40.000%	53.333%
国際文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	37.500%	62.500%
経営学科	0.000%	0.000%	2.899%	50.725%	46.377%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	11.111%	88.889%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	16.667%	83.333%
社会学科	0.000%	0.000%	12.500%	34.375%	53.125%
全 学	0.000%	0.269%	5.914%	35.215%	58.602%

Q６「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.00%	0.00%	4.97%	32.92%	62.11%
2	0.00%	0.89%	8.93%	33.04%	57.14%
3	0.00%	0.00%	5.56%	44.44%	50.00%
4	0.00%	0.00%	0.00%	33.33%	66.67%

11.9【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。【成長感覚】

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」の合計は 93.28%、「1」と「2」の合計は 1.08%であった。対面授業の肯定的回答割合 88.23%と比較すると+7.46 ポイントである。

集計表記載の全学平均値は 4.368、標準偏差は 0.653、変動係数は 14.94%、回答者数は 1,625 であった。

学科別の平均値は法律学科 4.625 が最も高く、中国文学科 4.125 が最も低い。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q７「成長感覚」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	18	4.500	0.500	11.111%
中国文学科	8	4.125	0.599	14.533%
英米文学科	21	4.333	0.563	13.002%
教育学科	17	4.353	1.081	24.844%
書道学科	10	4.300	0.640	14.891%
歴史文化学科	7	4.571	0.495	10.825%
社会経済学科	34	4.294	0.787	18.328%
現代経済学科	26	4.462	0.570	12.787%
中国語学科	2	4.500	0.500	11.111%
英語学科	32	4.313	0.682	15.810%
日本語学科	11	4.182	0.575	13.749%
法律学科	16	4.625	0.599	12.962%
政治学科	17	4.471	0.606	13.547%
国際関係学科	15	4.467	0.499	11.169%
国際文化学科	16	4.250	0.661	15.563%
経営学科	69	4.348	0.633	14.560%
スポーツ科学科	9	4.444	0.497	11.180%
健康科学科	6	4.500	0.500	11.111%
看護学科	6	4.500	0.500	11.111%
社会学科	32	4.281	0.572	13.360%
全 学	372	4.368	0.653	14.945%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	161	4.416	0.646
2	112	4.277	0.644
3	72	4.333	0.707
4	27	4.556	0.497

Q７「成長感覚」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
中国文学科	0.000%	0.000%	12.500%	62.500%	25.000%
英米文学科	0.000%	0.000%	4.762%	57.143%	38.095%
教育学科	5.882%	0.000%	11.765%	17.647%	64.706%
書道学科	0.000%	0.000%	10.000%	50.000%	40.000%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	0.000%	42.857%	57.143%
社会経済学科	0.000%	2.941%	11.765%	38.235%	47.059%
現代経済学科	0.000%	0.000%	3.846%	46.154%	50.000%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
英語学科	0.000%	3.125%	3.125%	53.125%	40.625%
日本語学科	0.000%	0.000%	9.091%	63.636%	27.273%
法律学科	0.000%	0.000%	6.250%	25.000%	68.750%
政治学科	0.000%	0.000%	5.882%	41.176%	52.941%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	53.333%	46.667%
国際文化学科	0.000%	0.000%	12.500%	50.000%	37.500%
経営学科	0.000%	1.449%	4.348%	52.174%	42.029%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	55.556%	44.444%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	50.000%	50.000%
社会学科	0.000%	0.000%	6.250%	59.375%	34.375%
全 学	0.269%	0.806%	5.645%	48.387%	44.892%

Q７「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.00%	0.62%	6.83%	42.86%	49.69%
2	0.00%	1.79%	5.36%	56.25%	36.61%
3	1.39%	0.00%	5.56%	50.00%	43.06%
4	0.00%	0.00%	0.00%	44.44%	55.56%

11.10【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

【総合満足】

10 段階評価のうち 8～10 の回答割合の合計は 76.34%、1～4 の合計は 6.73%であった。対面授業の 8～10 の合計 72.80%との差は+12.76 ポイントである。

集計表記載の全学平均値は 8.06、標準偏差は 2.19、変動係数は 27.18%、回答者数は 372 であった。

学科別の平均値はスポーツ科学科 9.11 が最も高く、書道学科 5.10 が最も低い。

【オンデマンド授業◆全学共通科目＜学生所属別＞】

Q 13a「総合満足」の学科別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	18	8.389	1.860	22.173%
中国文学科	8	8.250	1.639	19.871%
英米文学科	21	8.286	1.979	23.890%
教育学科	17	8.294	1.563	18.844%
書道学科	10	5.100	2.809	55.077%
歴史文化学科	7	7.857	3.090	39.333%
社会経済学科	34	8.353	1.908	22.841%
現代経済学科	26	8.577	1.335	15.566%
中国語学科	2	9.000	0.000	0.000%
英語学科	32	7.906	2.255	28.522%
日本語学科	11	7.182	3.214	44.754%
法律学科	16	8.063	2.135	26.482%
政治学科	17	8.529	1.944	22.790%
国際関係学科	15	8.800	1.275	14.493%
国際文化学科	16	7.125	2.759	38.716%
経営学科	69	7.739	2.263	29.239%
スポーツ科学科	9	9.111	0.875	9.602%
健康科学科	6	7.667	3.091	40.320%
看護学科	6	8.000	3.215	40.182%
社会学科	32	8.563	1.345	15.706%
全 学	372	8.062	2.191	27.176%

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	161	8.112	2.195
2	112	7.839	2.186
3	72	8.014	2.245
4	27	8.815	1.826

Q 13a「総合満足」に対する学科別回答分布

学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.000%	5.560%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	11.110%	33.330%	16.670%	33.330%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	12.500%	0.000%	25.000%	0.000%	37.500%	25.000%
英米文学科	4.760%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.760%	14.290%	14.290%	38.100%	23.810%
教育学科	0.000%	0.000%	5.880%	0.000%	0.000%	0.000%	5.880%	41.180%	29.410%	17.650%
書道学科	20.000%	10.000%	0.000%	0.000%	30.000%	0.000%	10.000%	20.000%	10.000%	0.000%
歴史文化学科	14.290%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	14.290%	0.000%	0.000%	28.570%	42.860%
社会経済学科	2.940%	0.000%	0.000%	0.000%	5.880%	2.940%	11.760%	17.650%	26.470%	32.350%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	15.380%	0.000%	26.920%	26.920%	30.770%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%
英語学科	6.250%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	3.130%	9.380%	34.380%	12.500%	28.130%
日本語学科	18.180%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	9.090%	18.180%	9.090%	9.090%	36.360%
法律学科	6.250%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.250%	12.500%	18.750%	37.500%	18.750%
政治学科	0.000%	5.880%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	11.760%	23.530%	17.650%	41.180%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	6.670%	0.000%	0.000%	26.670%	33.330%	33.330%
国際文化学科	12.500%	0.000%	0.000%	6.250%	6.250%	0.000%	0.000%	43.750%	18.750%	12.500%
経営学科	4.350%	1.450%	1.450%	1.450%	5.800%	7.250%	8.700%	21.740%	28.990%	18.840%
スポーツ科学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	33.330%	22.220%	44.440%
健康科学科	16.670%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	33.330%	16.670%	33.330%
看護学科	16.670%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	16.670%	16.670%	50.000%
社会学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.130%	6.250%	9.380%	25.000%	25.000%	31.250%
全 学	4.570%	1.080%	0.540%	0.540%	4.030%	4.570%	8.330%	24.190%	25.270%	26.880%

Q 13a「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	4.350%	1.240%	0.620%	0.620%	3.110%	6.210%	6.210%	24.220%	24.220%	29.190%
2	4.460%	1.790%	0.000%	0.000%	7.140%	3.570%	12.500%	23.210%	27.680%	19.640%
3	5.560%	0.000%	1.390%	1.390%	2.780%	4.170%	6.940%	26.390%	26.390%	25.000%
4	3.700%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	7.410%	22.220%	18.520%	48.150%

11.11　クロス表に関する結果（オンデマンド型）

オンデマンド授業を履修している学生の授業認識に対する「教員熱意」と「学生意欲」とのクロス表（表 1：回答数、表 2：パーセント）では、それぞれの行で最も高い回答数値を確認することにより、教員熱意と学生意欲との関係を分析した（回答数 372)。

まず、回答数を示した表 1 に注目すると、教員熱意が「1 まったくそう思わない」から「5 強くそう思う」へと高くなるにつれて、学生意欲の「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の回答数の合計は、0→0→10→91→77 と変化している。特に、教員熱意を「5 強くそう思う」と評価した 218 人のうち、308 人が学生意欲についても「4」または「5」と回答しており、教員熱意を高く評価する学生ほど、自身の学習意欲についても高く評価する傾向が認められる。

次に、教員熱意の各評価段階における学生意欲の回答分布をみると、各行で最も回答数が多かった項目は、教員熱意の「2」では学生意欲の「4」(1 件)、「3」では「3」と

「4」(各 10 件)、「4」では「4」(91 件)、「5」でも「4」(121 件) であった。教員熱意の評価が高くなるにつれて、学生意欲の高い評価に回答が集中していることが確認できる。

パーセントを示した表 2 からも、同様の傾向が認められる。教員熱意が「3 どちらとも言えない」の場合、学生意欲の「4」と「5」の合計は 45.45%であった。これに対して、教員熱意が「4 どちらかと言えばそう思う」の場合は 75.78%、「5 強くそう思う」の場合は 90.82%となっている。教員熱意を高く評価する学生ほど、自身の学習意欲についても肯定的に評価する割合が高くなっている。

また、教員熱意を「5 強くそう思う」と評価した学生のうち、学生意欲を「5 強くそう思う」と回答した割合は 35.32%であった。一方、学生意欲を「4 どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は 55.50%であり、教員熱意を最も高く評価している学生であっても、自身の意欲については「4」と評価する学生が多いという特徴がみられた。

ただし、教員熱意の「1」は回答者が 0 人、「2」は 1 人、「3」は 22 人と少ないため、低評価の回答分布については慎重に解釈する必要がある。

以上の結果から、オンデマンド授業においても、教員熱意を高く評価する学生ほど、自身の学習意欲を高く評価する傾向が認められた。 これは対面授業のクロス集計でも確認された傾向と共通しており、授業形態にかかわらず、教員熱意と学生意欲との間に正の関連が存在することが示唆されている。

表 1

【オンデマンド授業◆全学共通科目】

● クロス集計 (【学生意欲】×【教員熱意】) [回答数]

		学生意欲					合計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	2 どちらかと言えばそう思わない	0	0	0	1	0	1	1
	3 どちらとも言えない	0	2	10	10	0	22	22
	4 どちらかと言えばそう思う	0	5	27	91	8	131	131
	5 強くそう思う	0	2	18	121	77	218	218
合計		0	9	55	223	85	372	372

表 2

【オンデマンド授業◆全学共通科目】

● クロス集計 (【学生意欲】×【教員熱意】) [パーセント]

		学生意欲					合計	
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		4+5
教員熱意	1 まったくそう思わない	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%
	2 どちらかと言えばそう思わない	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%	0.000%	100.000%	100.000%
	3 どちらとも言えない	0.000%	9.090%	45.450%	45.450%	0.000%	100.000%	45.450%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.000%	3.820%	20.610%	69.470%	6.110%	100.000%	75.580%
	5 強くそう思う	0.000%	0.920%	8.260%	55.500%	35.320%	100.000%	90.820%

11.12　相関係数表に関する結果(オンデマンド型)

相関係数に関しては、対面授業の報告書と同様に、相関係数の絶対値が 0.3 以上 0.6

未満の場合を弱い正（負）の相関関係、0.6 以上 1 未満の場合を強い正（負）の相関関係があると解釈する。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字で示すこととする。

分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わる項目を除き、多くの変数（項目）の間に正の相関関係がみられた。ただし、その強さには違いがあり、特に「総合満足度」と他の項目との相関係数は、いずれも 0.3 未満であった。一方、「難易度適切」と「FB 丁寧」との間には、強い負の相関関係（－0.614）が認められた。

まず、オンデマンド授業に対する学生の「総合満足度」と他の項目との相関関係をみると、最も高い相関係数を示したのは「FB 丁寧」の 0.296 であった。次いで「学生意欲 0.213」「成長感覚 0.202」「シラバス通り 0.166」「教員熱意 0.135」と続く。しかし、いずれも 0.3 未満であり、本報告書の基準では明確な相関関係が認められなかった。これは、オンデマンド授業において、学生の「総合満足度」が「成長感覚」や「教員熱意」などの個別項目と必ずしも強く結びついていないことを示している。

次に、「成長感覚」との相関関係を順にみていくと、「教員熱意」との間に弱い正の相関関係 0.495 がみられた。その後は「学生意欲 0.453」「シラバス通り 0.331」と続く。これに対して、「FB 丁寧」との相関係数は 0.113 であり、明確な相関関係は認められなかった。つまり、オンデマンド授業においても、教員の熱意を高く評価する学生ほど、自身の成長を実感する傾向がみられる。また、学生自身の学習意欲の高さも「成長感覚」と関連していることが確認できる。

さらに、「教員熱意」と他の項目との関係をみると、「成長感覚 0.495」「シラバス通り 0.399」「学生意欲 0.396」との間に弱い正の相関関係が認められた。一方、「FB 丁寧」との相関係数は 0.056 であり、ほとんど相関関係がみられなかった。この結果は、学生が認識する教員の熱意が、授業の進め方や自身の学習意欲、成長感覚と関連している一方で、質問に対するフィードバックの評価とは必ずしも連動していない。

「FB 丁寧」については、「シラバス通り」との間に弱い正の相関関係 0.452、「学生意欲」との間に弱い正の相関関係 0.418 がみられた。これに対して、「難易度適切」との間には強い負の相関関係－0.614 が認められた。難易度の評価は数値が高いほど難しいと感じていることを意味するため、この結果は、授業内容を難しいと認識する学生ほど、質問に対する教員の対応を低く評価する傾向があることを示唆している。ただし、Q4 は質問経験者のみが回答する項目であるため、回答者数や回答者の特性に留意する必要がある。

「難易度適切」に関しては、「FB 丁寧」との間に強い負の相関関係が認められたものの、その他の項目との相関係数は、「シラバス通り 0.017」「学生意欲－0.010」「教員熱意 0.011」「成長感覚－0.052」「総合満足度－0.099」であり、いずれも相関関係はほとんどみられなかった。したがって、授業内容を難しいと感じることが、学生の学習意欲や成長感覚、

総合満足度に直接結びついているとはいえない。

以上から、オンデマンド授業においても、「教員熱意」と「学生意欲」「成長感覚」との間には弱い正の相関関係が認められ、教員の熱意を高く評価する学生ほど、自身の学習意欲や成長を高く評価する傾向が示された。しかし、「成長感覚」と「総合満足度」との相関係数は 0.202 にとどまり、対面授業で認められた強い正の相関関係（0.615）とは異なる結果となった。

この点は、オンデマンド授業と対面授業との間で、学生の総合満足度を形成する評価構造に違いがある可能性を示す重要な結果である。オンデマンド授業では、成長を実感しているかどうかだけでなく、教材の利用しやすさ、学習時間の自由度、課題の構成、授業の進行方法など、今回の相関係数表に含まれていない要因が総合満足度と関連している可能性も考えられる。

【オンデマンド授業◆全学共通科目】

●【オンデマンド授業◆全学共通科目<学生所属別>】相関係数表

		Q1b 【シラバス通り】	Q2 【難易度適切】	Q4 【FB丁寧】	Q5 【学生意欲】	Q6 【教員熱意】	Q7 【成長感覚】	Q13a 【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.000						
Q2	【難易度適切】	0.017	1.000					
Q4	【FB丁寧】	0.452	-0.614	1.000				
Q5	【学生意欲】	0.373	-0.010	0.418	1.000			
Q6	【教員熱意】	0.399	0.011	0.056	0.396	1.000		
Q7	【成長感覚】	0.331	-0.052	0.113	0.453	0.495	1.000	
Q13a	【総合満足】	0.166	-0.099	0.296	0.213	0.135	0.202	1.000

12 まとめと結論（オンデマンド授業と対面授業の比較）

2026 年度前期のオンデマンド授業について、全学共通科目の対面授業に関する分析結果と比較し、授業形態によって学生の授業認識にどのような相違が生じているのかを検討した。

対面授業については、全学共通科目全体の分析に加え、人文系・社会系・自然系・保健体育系の 4 分類による分析を実施している。これらの結果を踏まえ、オンデマンド授業との共通点および相違点を整理する。

比較にあたっては、各質問項目の肯定的回答割合、授業難易度、学生の成長感覚、総合満足度、教員熱意と学生意欲とのクロス集計、および相関係数を中心に検討した。

1. 授業に対する評価の全体的傾向

オンデマンド授業と対面授業のいずれにおいても、シラバスに対する認識、教員の熱意、学生自身の学習意欲、成長感覚などの項目では、肯定的な評価が多くみられた。ただし、両者を比較すると、オンデマンド授業の方が多くの質問項目で高い評価を示している。特に大きな差が認められたのは、「フィードバック」と「総合満足度」である。

オンデマンド授業では、フィードバックに対する肯定的評価が 93.33%、総合満足度についても 76.34%と、対面授業の各評価を大きく上回っている。特に、オンデマンド授業では、教員に質問した経験を持つ学生の割合は相対的に低いものの、質問した学生による教員の対応への評価は高いという結果である。

この点については、オンデマンド授業では質問方法や回答方法が明確に設定されている場合があり、教員からの回答を学生が確認しやすいことなどが考えられる。
ただし、質問経験者の割合はオンデマンド授業の方が低く、回答者の構成が異なる点には留意する必要がある。

2. 授業の難易度に対する認識

授業の難易度については、オンデマンド授業と対面授業との間に特徴的な違いがみられた。「5 とても難しかった」と「4 やや難しかった」の合計は、オンデマンド授業 54.22%、対面授業の各評価の平均は 43.74%であり、オンデマンド授業の方が 10.48 ポイント高かった。

対面授業を 4 分類でみると、人文系 50.26%、社会系 50.53%、自然系 46.00%に対して、保健体育系は 16.06%であり、科目の性質による違いが認められたが、オンデマンド授業の難易度に対する認識は、人文系や社会系の対面授業と比較しても高かった。

今回の集計結果のみから、その要因を特定することはできないが、オンデマンド授業では、学生が自ら学習時間を管理し、教材を理解しながら課題に取り組む必要がある。そのため、授業内容そのものの難しさに加えて、自律的な学習を求められることが難易

度の認識に関係している可能性がある。

3. 教員熱意と学生意欲との関係

教員熱意と学生意欲とのクロス集計では、オンデマンド授業と対面授業に共通する傾向が認められた。

オンデマンド授業でも、対面授業でも、教員熱意を「5 強くそう思う」と評価した学生のうち、学生意欲を「4 どちらかと言えばそう思う」または「5 強くそう思う」と評価した割合は高かった。

このことは、授業形態が異なっていても、学生が認識する教員の熱意と学生自身の学習意欲との間には一定の関連性が存在することを示している。ただし、クロス集計のみから、教員の熱意が学生の学習意欲を直接高めたという因果関係を断定することはできない。

4. 相関係数からみた授業認識の相違

今回の比較で特に注目すべきなのは、相関係数の分析結果である。

対面授業とオンデマンド授業では、教員熱意、学生意欲、成長感覚の間に共通する関連性が認められた一方、総合満足度と各項目との関連性には大きな違いがみられた。対面授業では、「成長感覚」と「総合満足度」との間に強い正の相関関係 0.615 が認められた。すなわち、授業を通じて自身の成長を実感している学生ほど、授業に対する総合満足度も高い傾向にある。これに対して、オンデマンド授業では、両者の相関係数は 0.202 にとどまり、明確な相関関係は認められなかった。

この違いは、授業形態によって学生の総合満足度を形成する要因が異なる可能性を示唆している。対面授業では、授業中の教員とのやり取りや学習活動が成長実感に結び付き、授業に対する満足度に結実している可能性がある。一方、オンデマンド授業では、教材へのアクセスの容易さ、時間的な自由度、課題の取り組みやすさなど、成長感覚以外の要因が総合満足度と関連している可能性がある。

さらに、オンデマンド授業では、「難易度適切」と「FB 丁寧」との間に強い負の相関関係－0.614 が認められた。この点は、難易度と他の項目との相関がほとんどみられなかった対面授業の分析結果とは異なる特徴である。

5. 総合満足度の相違

総合満足度については、オンデマンド授業 85.56%の方が対面授業よりも高い評価を示した。オンデマンド授業の総合満足度 85.56％は、対面授業の保健体育系(87.41%)に近い水準であり、人文系・社会系・自然系を大きく上回っている。しかし、総合満足度が高いことと、学生が授業を通じて自身の成長を実感していることとは、

必ずしも同じではないという点に留意する必要がある。

6. 今後の授業改善に向けた課題

以上の分析から、今後の授業改善に向けて、次のような課題が考えられる。

第一に、オンデマンド授業では、学生が授業内容を難しいと認識する割合が高いことから、教材の構成や課題の分量、学習時間の設定などが適切であるかを検討することが考えられる。

第二に、質問経験者の割合が低いことから、学生が疑問を持った際に質問しやすい環境が整備されているかを確認する必要がある。

第三に、オンデマンド授業では総合満足度が高いにもかかわらず、成長感覚との相関関係が弱いことから、学生が何を基準として授業を評価しているのかを明らかにする必要がある。

第四に、対面授業では、科目系によって難易度や総合満足度に違いがみられたことから、オンデマンド授業についても科目の特性を考慮した分析が必要である。今後は、オンデマンド授業と対面授業のそれぞれの特性を踏まえながら、学生の授業に対する満足度だけでなく、学習意欲や成長感覚との関係についても継続的に分析することが求められる。

以上